筑波大学附属駒場中高等学校　研究報告第32集　1992年11月

本校における
研究活動のあゆみ
(1957年～1992年)

筑波大学附属駒場中・高等学校　研究部
小林　汎・貝沼　喜兵・林　幹一郎
深野　明

本校における研究活動のあゆみ

（1957～1992年）

筑波大学附属駒場中・高等学校　研究部

小林　汎・貝沼喜兵・林　幹一郎

深野　明

1. はじめに

国立学校設置法施行規則第27条には「附属学校は，その附属学校が附属する国立大学又は学部における児童，生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し，及び当該国立大学又は学部の計画に従い学生の教育実習の実施に当たるものとする。」とある。附属の中学校・高等学校は，学校教育法に定められている中等普通教育ないし高等普通教育を行う以外に，研究と教育実習を行うことが使命とされている。

本校においても校務分掌上の一つとして研究部が置かれている。部長の他に教育研究係・資料係・教育実習係が置かれ，通常4名の教官によって運営されている。年１回の公開の教育研究会，年２回の校内研修会，年１回の『研究報告』の発行，教育実習の実施に関すること，研究出張に関すること，研究プロジェクトの実施・予算配分などが主な仕事となっている。

この小論は，本校の研究活動の歩みを，現在研究部等で保管している資料をもとに整理したものである。本校は1947年（昭和22年）に発足以来，すでに45年になるが，これまで研究活動の歩みがまとまった形で記録に残されているものがない。筆者小林汎は，1980年９月に着任以来研究部長２年間を含めて６年間程研究部に係わってきた経緯もあるので，この際整理をし，記録に残しておこうと思った次第である。今後，本校の50周年あるいはその他研究活動を総括する際に資料として役立ってもらえれば幸いである。

但し，研究部等での過去の資料の保管状況は必ずしも良いとはいえず，また資料によって異った記載になっているものに対する資料の検討も必ずしも十分ではなく，筆者自身が勤務する以前の時期については実態がわからない部分もある。いわば中間報告として受け取ってもらえれば幸いである。今後50周年等の折に長年本校に勤務する適切な人物によってまとめられることを期待する。

2. 研究部のあゆみ

『創立40周年記念誌』によると，1957（昭和32）年度に「○研究部が誕生，附属本来の教育的

使命の研究推進体制を整備」と記載されている。同年「○全国国立大学附属高等学校連合の研究グループ成立。本校も積極的に参加」とあるので，本校の研究部が全附連高校部会の動きに呼応して発足したものと思われる。また，ユネスコの協同学校計画への参加が1959年９月であり，翌年の1960年度には『研究報告』第１集が発行されている。公開の教育研究会は1974年度より実施されている。

研究部の構成で見ると，研究会係・資料係・教育実習係の体制がずっと続くが，1979年度より，教育研究係・研究会係・資料係となり，教育実習係が他の部に移動する。研究活動と直接係わる係体制で研究部を構成するようになる。しかし，1989年，総務部を廃して教育情報部を設置したことにともない，係の移動も行われた。再び教育研究係と研究会係を１本化し，教育研究係となる。再び教育実習係が研究部に入ってきて，研究部の４人体制は変わっていない。1994年度より再び総務部復活，教育情報廃止の組織がえが行われ，以前の体制に近くなる。この組織がえの当初の案では研究部３人体制（教育実習係を総務部へ）が提案されたが現研究部メンバーた強く反対し，現状と同じ線でおちついた。もし，３人体制となっていたら，今後本校の研究体制が弱体化していくことが危惧される事態になったであろう。

以上概観した，研究部のあゆみを一応時期を区切って見ると次のようになろう。

○1947年～1956年――本校創立から研究部ができるまで。まだ学校の校務分掌に研究部が位置づけられず，学校としての研究体制が出来あがっていない時期。いわば準備期とでも言える時期である。

○1957年～1973年――創成期とでも言えようか。1959年度よりのユネスコ研究（～1979年度まで）を行う一方で学校暦の中に，校内研修会も位置づけられるようになった。資料が未発見なので，いつから開始されたか不明であるが，当初年１回，それが1970年以降２回（あるいは３回）行われるようになる。1960年より発行されるようになった『研究報告』も1962年をのぞき，毎年定期的に発行されている。

1961年，第３回全附連高校部会の会場校となり，社会科，英語科，生活指導等の研究発表が行われる。また1971年には第13回全附連高校部会の会場校として，国語科，数学科，芸術科（音楽），生徒指導，特別部会の研究発表が行われる。

なお，残念なのは，1962年以前の学校要覧が保存されておらず，この創成期の研究部のメンバーや活動の様子がわからないことである。

○1974年～1978年――過渡期あるいは変動期とでも言えようか。現在の研究部の活動スタイルが定着していく前の変化の大きな時期である。1974年に第１回の教育研究会が実施され，その後毎年１回実施されていくことになる。第１回目は中学校の保護者を対象に，中学全クラスで２時間の公開授業を中心としたもので，「校内研究会」という名称で始まった。この当時の研究会や研究部の様子は「本校における教育研究会のあり方」（『研究報告，第14集』1975年）や，当時研究部長の長野東氏が書いた「本校の教育研究の現状」（『創立30周年記念誌』

1977）からうかがえる。附属の使命として何かやっていこうとする息吹が感じられる。

前期の終わり，1972年には駒場９人委員会が「中・高一貫教育における指導とその効果について」と言うテーマで教育研究開発に関する調査研究を行い，報告書も出されている。そして1973年10月には筑波大学が開学される。附属学校が駒場の地に留まり発展していくにはそうすれば良いか，模索されていた時期でもあろう。現在行われている教科等でのプロジェクト研究（当時はグループ研究と呼んでいる）が開始され，また個人研究もあわせて「学校要覧」に記録されるようになるのもこの時期である。現在の研究部の活動スタイルが確立した時期とも言える。

1978年４月，現在地において筑波大学に移管され，筑波大学附属となる。

○1979年～現在――確立期あるいは展開期とでも言えようか。1978年４月筑波大学に移管されたことにより今後筑波大学附属としての研究活動が始まる。

1974年に開始された教育研究会は，第１回目中学校の保護者対象，第２回目（1975）中学１年～高校１年の保護者対象となり記念講演も実施された。しかし。第３回（1976）からは他校の教師などが対象となり，現在のスタイルに近くなる。第４回（1977）からは２日間に亘って研究会が開催され，第４回（1977），第５回（1978）は中・高ほぼ全教科の公開授業が行われた。しかし，そうした頑張りは多少無理があったのか。第６回（1979）は半数の教科の公開授業が減り，第７回（1980）には記念講演もなくなり，２日間の開催から１日のみの教育研究会の体制となっていく。80年代前半，研究会廃止の意見も研究部内に出されたりもしたが結局1987年までこの体制が８年間継続された。著者が研究部長の時期の1988年より，記念講演が復活されて，研究会２日間体制となり，現在に至っている。

研究部の係は，1979年より，教育研究係・研究会係・資料係となり，この体制は1988年まで続き，1989年より教育研究係・教育実習係・資料係の体制となる。

教育研究会のあり方の違いに着目するならば，1979～1987年を確立期あるいは展開期の前期，1988年以降を後期と位置づけることもできよう。

この間，1981年に第23回全附連高校部会の会場校，1991年に第33回の会場校を引き受けたが，どちらも林研究部長のもとで成功裡に終わっている。

3　資料に関する説明

(1)　資料Ⅰ――研究部のあゆみを概観したものである。歴代の研究部長，研究部メンバーの一覧及び，研究部の主な研究活動を表にしたものである。

(2)　資料Ⅱ――1963～67年・79年と研究部長であった左近良氏が『創立20周年記念誌』に書かれた「20周年を通して見た教官研究概況」と，1973～74年，77～78年に研究部長であった長野東氏が『創立30周年記念誌』に書かれた「本校教育研究の現状」を資料としてのせてある。

「昭和32年，教官組織も研究係から研究部となって，他の四部と協力して，附属本来の教育研

究推進の姿勢を確立する」（『創立20周年記念誌』）とあり，研究部体制は1957年からであることがわかり，創成期の様子がうかがえる。長野氏の「本校教育研究の現状」では，本校で教育研究会が開始されるころ丁度，東京教育大学から筑波大学への移行期の時期の研究活動の様子がうかがえる。過渡期あるいは変動期の活気ある本校の動きである。

(3) 資料Ⅲ——ユネスコ（ユネスコ校内委員会）との協同研究活動。1959年～1979年の21年間，本校が取り組んできたユネスコ関係の資料である。校務分掌に位置づけ学校全体で行ってきた。60年代には報告書等も出され，活動も盛んであったが，70年代に活動の様子は不明のところが多い。

(4) 資料Ⅳ——1960年に第1集が発行され，1992年に第32集を迎えた。本校の『研究報告』の一覧表である。1962年及び1975年は発行されなかったが，それ以外は毎年作成されている。

(5) 資料Ⅴ——1974年に始まった公開の教育研究会のあゆみをまとめたものである。『研究報告』とならんで，附属学校としての使命をはたす上で重要な行事となっている。毎年全国から百数十名の先生方が参加している。

(6) 資料Ⅵ——プロジェクト研究・個人研究一覧。プロジェクト研究にはPTA後援会の方より研究費をもらい研究を行っている。多くの教科がプロジェクト研究の報告を『研究報告』に書いている。（予算配分をする際に，執筆することを原則としている。）

(7) 資料Ⅶ——全附連高校部会研究大会発表一覧である。本校は中・高一貫を標榜する学校であるが，他校との研究活動では高校教育との関係が深く，この全附連の研究大会が毎年恒例のものである。中学校の場合にも毎年，関東地区で開催されているが，研究部には記録が残っていない。

(8) 資料Ⅷ——本校教官の個人研究目録一覧である。はじめての試みであり，半分程の教官のものを掲載した。

（本稿は，1992年6月29日に行われた，第1回校内研修会で小林が報告した際に作成した資料を一部手なおしし，若干の解説をつけたものである。紙面の関係で解説の方はごく簡単に留めているが，資料は今後も役立つように，出来るだけ詳細に掲載する努力をした。）

（文責　小林　汎）

資料 Ⅰ

研究部のあゆみ

年度	研究部長	研究部メンバー			主な研究活動				備考
1957		1957年研究部誕生							○創立10周年
(S32)									
58								○理科研究会会場校	
59		「学校要覧」がないので不明			ユネスコ(1959)	研究報告			○中高一貫体制が確立
60						第1集(1960)		○社会科教諭研修会会場校（教研）	（全員連絡進学）
(S35)									
61						第2集(1961)		○第3回全附連会場校	
62		（研究会係）	（資料係）	（教育実習係）		(発行せず)			○「農業科」を廃し普通科1学級増，合計4学級
63	佐近	明石・重松・浅原	岡本・深野・岡村	福岡・坂田		第3集(1963)	校内研修会		
64	〃	丸尾・中野・浅原	深野・岡村	巻島・坂田			（年1回）		
65	〃	石田・秋葉・深野・大西	沢登・津谷・大道	石田・大道					○中学1年より1学年3学級
(S40)									
66	〃	大谷・深野・綿引	柾・明石	坂根・大道					○創立20周年
67	〃	深野・綿引	勝田・明石・白木	石田・坂根					中3学級，高4学級完成
68	沢登	松井・綿引	佐野・岡村	貝沼・川畑					
69	〃	岡本・中村	岡村・綿引・小林	柾・大内					
70	白木	岡本・林・大内	勝田・中村	柾・貝沼			2～3回（?）		
(S45)									
71	〃	神藤・岡本・林	長野・中村	坂根・久保木				○第13回全附連会場校	
72	〃	城戸・林・久保木	長野・岡村	坂根・巻島		（注1）		全日本技術・家庭科研究会栽培部会会場校	
73	長野	佐近・白木・久保木	日野・勝田	中野・巻島			（注2）（3回）		○筑波大学開学
74	〃	柾・林・佐近	勝田・綿引	重松・牛田		14集	教育研究会	←（注3）→	
75	佐野	小沢・長野・辻	沢登・星野	高井・牛田		(発行せず)	（第1回）		
(S50)									
76	〃	坂根・長野・白木・辻	勝田・沢登	高井・佐近		15・16集	要録発行（2回）		
77	長野	勝田・坂根・栗原・辻	沢登・岡村	高井・佐野				教科等のグループ研究　個人研究	
78	〃	高井・神藤・栗原	勝田・白木	坂根・大矢					○創立30周年 抽選導入 東京教育大学閉学
		（教育研究係）	（研究会係）	（資料係）					
79	佐近	長野・白木	林・巻島	勝田・大西			毎年開催		○筑波大学附属となる
80	白木	長野・貝沼	鈴木・林	堀田・笠原					
(S55)									
81	林	小林・石川秀	石川祐・坂根	沢登・大西				プロジェクト研究	○第23回全附連会場校
82	〃	石川祐・小沢富	坂根・貝沼	長野・巻島					
83	城戸	岡村・林	鈴木・坂根	巻島・久保木					
84	〃	長野・岡村	土井・稲岡	熊倉・栗原			要	×	
85	栗原	城戸・長谷川	高橋・深野	磯田・熊倉				×	
(S60)									
86	城戸	小林・井上	吉井・高橋	熊倉・久保木			要	（×印学校要覧掲載せず） ×	○創立40周年
87	小林	高橋・熊井	吉井・稲岡	城戸・久保野			第15回（ここより回数明示）		「水田の碑」
88	〃	佐藤・熊井	吉井・土井	城戸・岡村					
		（教育研究係）	（教育実習係）	（資料係）					
89	城戸	岡村・土井	岡本・遠藤	熊倉・菊地			要	×	
(H1)									
90	〃	石井・土井	井上・遠藤	中村美・中村豊			要		
91	林	石井・城戸	井上・大道	野井・土井（小林）		第31集	第18回		○第33回全附連会場校
92	〃	須藤・小林	大道・深野	井上・貝沼		第32集	第19回		

（「学校要覧　1963～92」などにより作成）

（注1）「教育研究開発に関する調査研究報告書」―テーマ“中・高一貫教育における指導の実際との効果について”駒場九人委員会（代表　重松桂三）

（注2）第1回，第2回（第2回目には他校の教師も参加）は保護者対象，第1回目は“校内研究会”の名称，第2回目より教育研究会となる。1988（S63）年の教育研究会より回数を明示する。
要 ……研究会の要録（報告書）が発行されない（なお，要録は第3回より発行されている）。

（注3）1977（S52）年度の「学校要覧」よりグループ研究（後にプロジェクト研究）・個人研究一覧が掲載されている。それ以前のグループ研究，個人研究等は一部しか資料が発見できず不明の部分多し。

資料 Ⅱ

記念誌に見る研究活動

1. 20周年を通して見た教官研究概況　左近　良

2. 本校教育研究の現状　長野　東

二十年を通して見た教官研究概況

教官　佐近　良

昭和二十二年に東京農業教育専門学校付属中学校として、第一学年のみの二個学級で開校した本校は、さらに三年後に付属高校にまで規模を拡げ昭和二十八年に第一回卒業生を送り出す。

この間、数少ない全教官の努力が学校作りに集注されている。研究即日常指導の状況である。

内部体制も年と共に固まり、昭和三十二年、教官組織も研究係から研究部となって、他の四部と協力して、付属本来の教育研究推進の姿勢を確立する。

昭和三十三年、校外の中学高校に呼びかけて、理科研究会を開催する。

内部的な実力蓄積に努めていた付属が開催した対外的研究会記録の第一回である。

この間、外部と連携する研究的な活動としては、全国的に展開されていた新教育に関するワークショップに参加した教官の活動と全国学力調査の専門委員、指導要領作成のための委員の動きなどが記録されている。

校内研究活動としては、それぞれの直面する問題点の追求による個人研究の他に六年制中学高校教育に伴って、中高一貫教育の研究、それに従って六年制カリキュラムの検討が行なわれる。

付属学校の教育条件充実を目的とする全国付属連盟が結成されて、主として付属学校の設備、教官の質的量的な促進のための活動を続けていたが、その組織の一部を担う高校部会では、これに加えて、研究面でも組織的な強化を図ろうとする動きが出てくる。

昭和三十二年には実質的に整った全国付属高校連合研究グループが成立して、昭和三十二年、三十三年とも年一回の研究発表会が開かれ、本校もこれに参加して研究発表をしている。

昭和三十四年には、これが正規に全付連高校部会の定期研究発表会として発足することになり、第二回は東京大学付属を会場として開催された。以後毎年東京と地方が交互に会場を受け持って回を重ねることになる。内容は生活指導の他、二教科ずつ交代に選ぶことになっている。

昭和三十六年、上記研究発表会の会場を本校で引受け、生徒指導・社会科・英語科の分科会を連ねて開催、参会者多数の発表討議が盛会裡に行なわれた。この会は連年、内容も充実発展しつつある。

幼稚園・小学校・中学校・高校・ＰＴＡを通ずる全国付属連盟関東地区会でも年ごとに教官の研究発表と討議の場を設ける傾向が強まってきて、高校部会の跡を追って、年一回の総会日程の大きな部分を研究にあてるようになってくる。本校も中学高校とも研究発表に参加してきている。

これも高校部会同様に各年ごとに教科を定めて専門的な研究の色彩を強めることになり、数年の研究実績を基盤として、昭和四十二年をその新発足研究会の第一回とすることになる。

昭和三十四年、ユネスコ教育実験協力校として国際的な教育実験研究に参加することになる。これはパリに本部を置くユネスコが国際理解教育を通じて行なう教育研究の一環となるもので、毎年実験でまとめた結果をユネスコ国内委員会を通じてパリ本部に報告し、世界各国と資料交換を行なう。

現在引き続き新しい研究主題の下に研究続行中、ユネスコ校内委員会が主としてこれに当る。

本校の教育の充実向上を図るために、随時問題点をとりあげて、これの内容分析、指導強化をめざす教官の校内協同研究も効果的に行なわれる。

昭和三十四年にユネスコ校内委員会、昭和三十八年にカリキュラム委員会、校内規程委員会、指導委員会、ホームルーム研究委員会が生まれる。後の二つは現在も継続、常置の委員会となっている。

昭和三十七年、校内における研究が次第に充実してくるとともに、従来そのときどきに出した不定期な印刷物では、発表窓口が不充分と考えられ、この年「研究報告」第一集を発行、以後毎年一回、その年度の研究報告を載せて発行を続けることとなる。

各教科担当教官グループの協同研究は、本校教育指導に密接に連なる現実的なものが多い。研究結果は外部研究発表会を通じて一般に報告されるものもあり、校内で直接教育効果を高めるのに役立つものもある。

校外の研究グループ、学会等と連携して研究を進める教官も多い。

外部の教育機関による講習会、研究会等数多く行なわれるので、教官はつとめてこれらに接触し、教育界の動きを知って、本校教育を清新にし、効率を高めるよう、不断の努力を重ねている。

（『創立二十周年記念誌』（一九六七・一一発行）より）

本校の教育研究の現状

本校の教育研究の現状

教官　長野　東

一　教育研究の在り方について

国立大学の附属学校が教育の実験・実証・教育実習の指導を行うことは、本来的な目的である。

駒場三十年の歴史を終え、来年度から筑波大学附属として新生する本校にとって、教育研究は存在に関する重要な課題となっている。

その意味で、最近における本校の教育研究の現況について報告したい。

本校における教育研究の方針は次の六つである。

(1) 教育界に有意義な研究を行う。
(2) 研究姿勢は自主的であり、とりくみは主体的に行う。
(3) 研究体制は組織的かつ、機能的な運営をする。
(4) 研究成果は積極的に公開する。
(5) 大学との研究協力を積極的に推進する。
(6) 外部との研究協力を積極的に推進する。

このような研究方針に沿って、本校の研究活動は運営されている。その中で主な活動については、次の二点がある。

1　教育研究会の公開実施
2　研究体制の整備

この二点が、我々の努力の具体化であり、今後、更に、発展をさせたい目標でもある。以下、この二点の実施・運営の現況を報告したい。

二　教育研究会の公開・実施の経過と展望

本校は、創設以来「農教専」「教育大」の附属校として、日常の教育活動並びに教育実習、教育研究等に地道な努力を積み重ねてきたが、昭和四十八年十月の教官会議において、教育研究会のより一層の充実発展を期し、公開を主に積極的に実施していくことを申し合わせた。

教育研究会は各校で行われているが、本校での教育研究会は単なる発表会に終わることなく、日常の教育活動に研究成果が生かされ、更に、増幅効果が挙げられるような教育研究会を実施すべきであるという教官会議の意向を生かす方向で実施されている。この教育研究会の概要を挙げると次のようである。

第一回（昭和四十九年十一月十五日）

目　標

「授業の検討と改善をめざす」研究、教官及び保護者の意見の交換を行う。

日　程

一・二時限　授業参観（保護者・本校教官）

十時四十分～十二時　学年ごとに保護者・教官の話し合いの会

参加者　中学校保護者・教官　約三〇〇名

第二回（昭和五十年十一月二十一日）

テーマ

「中・高教育のつながりの中で、問題のあるところはどこか、その具体的な対応はどうすればよいか」

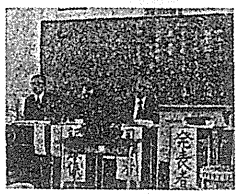
日　程

八時五十分　受付

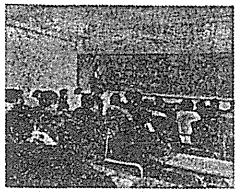
九時三十分～十時二十分　公開授業　中一・二・三、高一全クラス

十時三十分～十二時　保護者と教官の話し合い

十三時～十六時



第二回教育研究会　数学科分科会



同　英語科分科会

(1) 講演「教育課程の基準の改善について」
講師　実践女子大学教授、東京教育大学講師　厚沢留次郎先生
(2) 研究討議
「本校における教科指導・生徒指導からみた教育課程の問題点とその改善について」
講師、中学・高一保護者、本校教官、他校の教師　約四〇〇名

第三回（昭和五十一年十一月二十六日・二十七日）

テーマ

「中・高教育のつながりを考える」

中・高教育のつながりの中での問題点とその対処のしかたについて。

日　程

○十一月二十六日

九時　受付

十時～十時五十分　公開授業（中学）

十一時～十一時五十分　公開授業（高校）

十三時～十五時　教科別分科会

各科のテーマ

社会科　授業について、歴史学習における中・高の関連について

数学科　六か年一貫カリキュラム編成上の諸問題の検討

英語科　検定教科書に見る中・高一貫の実態について

十五時十分～十六時三十分

講演「教育課程の改訂について」

講師　文部省初等中等教育局審議官　奥田真丈先生

参加者　公・私立中・高等学校教師、本校教官　約一二〇名

○十一月二十七日

テーマに基づいた、本校教官による研究討議

第四回（予定）（昭和五十二年十一月二十五日・二十六日）

テーマ

「中・高を見通した新しい教育を考える」

個性をのばす教育の科学的基礎研究

日　程

○十一月二十五日（金）（この年から全教科参加の形をとる。）

十時～十時五十分　公開授業（中学）

十一時～十一時五十分　公開授業（高校）

十三時～十五時　教科別分科会（研究発表・協議会）

○十一月二十六日（土）

九時三十分～十時　研究発表（ユネスコの新しいあり方）

十時～十一時三十分　講演会

題目「世界史の変化と教育」

講師　前文部大臣　永井道雄先生

十一時三十分～十二時　研究討議

以上のような形で教育研究会は発展してきている。参加教科、参観者も量・質ともに充実してきているのが実情である。この中で一貫していることは、中・高一貫教育の研究である。これが、本校の研究テーマの中心となるもので、この研究の具体的な成果の発表会という意味で、教育研究会を位置づけているものである。今後、教育研究会の進むべき方向として、教育研究会を地域中・高教師の交流の場として提供し、本校と他校との交流の契機を作る場として、発展させたいと考えている。教育研究会は単なる発表の場ではなくて、これを、地域の学校、他の附属校との研究協力の出発点にし、日常研究の場を提供するようにしたいと願っている。

三　研究体制の整備

第一節で示した研究方針を現場において効果的に生かす方法として、次のような方策をとっている。もちろん、教育研究会もその中の重要な一つではあるが、更に日常の研究活動が有機的な関連をもって運営されるように考えている。

方針ごとに示すことにすると、

(1) 本校の研究テーマ「六か年一貫教育」は、戦後教育全体が見直されている今日、極めて有意義なテーマであり、その制度・教育内容全般にわたって、再検討する必要に迫られている。その検討のための具体的資料が、最も、教育界では要求されており、それにこたえるためにも、科学的な基礎資料が必要ではないだろうか。我々は今それに取り組んでいるのである。第四回教育研究会は、まさにそのための第一歩であると考えている。

(2) 研究活動は本来、自由に研究者の創意工夫が行われなければ、成果はもとより、研究そのものも行われるものではない。

その点、本校の研究は個人研究が伝統的に盛んであり、各界において注目されるものも少なくなかった。今年度（五十二年度）の研究テーマを参考に掲げれば、次のようである。

国語科　須田教官
社会科　坂根教官
　　神藤教官
　　城戸教官
　　林教官
数学科　佐近教官
　　喜多教官
　　溪瀬教官
　　栗原教官
　　長野教官
理科　貝沼教官
　　牛田教官
　　福岡教官
　　大谷教官
大道教官
保健体育科　溪野教官
英語科　大西教官
　　辻教官

森鴎外と日本の近代
明治二十年代の政治外交史・文明開化論
外国の地理教育について
ビザンツ帝国における政治理念と文化意識について
国際教育・平和教育の理論
主権者意識の形成にかかわる社会思想史学習
電算機を使用する数学指導
初等・中等教育における望ましい幾何教材の内容とその位置づけ
確率の教材研究
日常会話の論理性について
数学的創造的能力の構造分析と指導法の開発
生物Ⅱにおける分子遺伝学の実験指導　トウモロコシの遺伝の教材化　原生動物抗菌剤の教材化
理科学習調査
高校化学における機器分析の利用
電磁気をどう扱うか。生徒の興味を引く指導展開例
体育方法論とその計量的考察
中・高六か年一貫英語指導のあり方、特に、教材のあり方
文化系部活動の実践のあり方

このように、多方面にわたる個人研究はますます多くなる傾向にあり、研究に対するエネルギーの旺盛さをみることができる。これらの研究が実を結ぶためには、校内外の研究条件の整備が必要であることはいうまでもないが、条件の中で、予算面では特に問題が多く存在し、研究と日常の教育活動の調和もしくは、統一的な見方が必要ではないかと思われる。

更に(3)(4)(5)(6)についてはこれらの方針は、望ましき附属学校としての教育研究のあり方に関しての問題として考えられる。

(2)で示したような、個人研究のエネルギーを学校の研究として更に発展させるには、どのようにすればよいかという課題である。

そのためには研究グループの自主的編成を進めている。研究活動を研究出張中心から、日常の研究活動に力を入れるように、予算面でも工夫をして、次のようなプロジェクトチームを作るように考えた。

プロジェクトチーム〔縦断的研究チーム――教科中心のチーム　横断的研究チーム――教科をこえたチーム〕

このような種類のプロジェクトチームの希望を募ったところ、五十二年度は次のようなチームが編成された。

教科中心（縦断的研究チーム）
国語科「国語学習についての生徒の意識に基づく指導体系の適正化」
数学科「創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の開発」
保健体育科「体育における学習内容、教育方法の科学化とその六か年一貫カリキュラムの生徒の発育発達に及ぼす影響」
芸術科における、合同授業の研究と実践
英語科「一貫カリキュラムとそれに応ずる教材の開発」

教科外のもの（横断的研究チーム）
ユネスコ委員会「国際教育の理論と実践」
生徒部「学校行事に対する生徒の認識について」
教育工学検討委員会「教育工学的立場で開発できる指導法の研究」

（プロジェクト外）

これらのチームは、特に外部における学会での発表、教育研究会での発表、研究報告での発表等も準備され、積極的に研究活動の核となっているのである。

今後の研究の方向としては、教科の研究から発展して、横断的研究チームが全教科・全領域にわたるものとして、大きく結成され、全校的な規模で研究プロジェクトチームが編成されることを期待している。

四　今後の展望

「教駒」という記事はマスコミ等によって、全国的規模で知られるようになっている。創立三十周年にして、これだけ有名になった学校は、良きにつけ、悪しきにつけて多くないであろう。

歴時代という創成期から、先輩諸氏の本校の教育創造の苦労とその大きな夢は、まだ十分に後覚に理解はされていないが、筆舌に尽くされぬものがあったにちがいない。

無から有を生みだすことは、大変な苦しみではあるが、人間にとっては、創り出す喜びを与えるものである。

三十年の歴史は正に、創造・発展の歴史である。三十一年目に歩みを踏み出す本校が次に目指すべきものは何であるか？

このテーマの解決こそ、本校の研究活動の今後の展望を与える、基本問題である。

時あたかも、教育問題は社会問題として大きく取り上げられ、第十一回参議院選挙でも取り上げられている。この教育問題の焦点の一つとして、国立大学附属校の在り方、その中で「教駒」は注目の的になっている。とにかくこの一年間長してきたのである。ここまで成長させたエネルギーとその歴史を正しく振り返って把握することが、明日の本校への道を探ることの手掛かりとなるであろう。

今後の展望については、本校として、全ての具体策まで立てられているとはいい難い。したがって、私見もまじることにならうが、述べて問題提起をしたい。

「教駒」の教育分析

世評では受験オンリーの学校と見られており、新入生の父兄の感想でも、入学後の生活が、あまりにも当初の予想と違うので、戸惑いと、やがて、理解に変わる場合が多い。受験指導については、校内にアレルギーともいえる拒否反応さえあって、単なる受験中心の教育に走ることには強い制止がかけられており、附属校本来の姿を目指し、受験の世評に流されないための、学校としての自己浄化作用が働いてきている。それにもかかわらず、受験校「教駒」の印象はぬぐえないでいるばかりか、大きくなろうとしている。

その教育の実態は何か、内からの分析がぜひとも必要である。自己讃美や自己卑下に陥ることなく、客観的に教育実態を明らかにすることが、社会に対する責任であるとともに、教育界にも一つの資料提供をすることができよう。それは、内に対しては、自己認識の手掛かりになるであろう。

六か年一貫教育の実験校

中・高六か年は教育制度の中でも、問題の多いところである。本校では、三十年間にわたって、制度、人事、予算、生徒指導等教育全般において、六か年一貫教育を実践してきている。これは、国立大附属校としても数少ない中の一つである。

今後は研究をいっそう進め、科学的な資料をそろえ、次のような点についても実験を進めるべきである。

① 学年区分（三・三以外の形も考え比較実験）
② 教科区分（現在の教科以外の教科区分の研究）
③ 生活指導体系（クラス編成の繰わり、クラブ、生徒会の構成、学校行事、教科外、特活、自由裁量時間等の理論と実践の研究）
④ 教科指導と生活指導の相関性研究（特に、青年前・中期は心理的変化が著しく、人間関係が生活様式に大きな影響を与えているので、二つの指導の相補作用の分析・研究）

これらは今までの実践のまとめの中から、手掛かりは十分に生まれてくるものと考えており、中・高一貫カリキュラムの多面的な研究を推進していきたい。

人間形成の要因分析の研究センター

青年前期の変化は大きく、しかも、その時期における教育は人間形成についてかなり決定的な効果を及ぼすものである。したがって、人間形成の多くの要因の構造把握・分析は、教育課程編成の基礎資料になるはずである。既に、五十二年度の研究テーマとして、

国語科「国語学習についての生徒の意識に基づく指導体系の適正化」
社会科「中等教育における社会認識と主権者意識の形成について」
数学科「創造的能力の構造分析と、その能力開発をめざす教育の研究」
保健体育科「体育における学習内容、指導方法の科学化とその六か年一貫カリキュラムが生徒の発育・発達に及ぼす影響」

このようなテーマは既に、人間形成についての要因分析・把握についての研究を指向しており、全校的な規模でこの研究開発に取り組みたい。

このためには、広く大学・学界・教育界・言論界等の御協力・御指導を受け、開かれた附属校として、各界の研究についても協力を惜しまない意味で、研究センターのような性格をもたせたいものである。

研究・実験のネットワークの作成

本校だけの実験では統計的資料として不足な面がある。各テーマによって、実験研究の協力校がぜひとも必要である。附属連盟傘下の各校の協力はいうまでもなく、地域諸学校、六か年教育の私立校等と、日常の研究活動を通して研究のネットワークを拡充・整備すべきである。

今後の展望について、現在の教育の変動期にあえて提言をしたつもりである。駒場の歴史の一時点における水泡のごときものであるかもしれないが、駒場のビジョン確立のための研究面での一資料である。

これ以外にふれるべき課題があることは承知している。しかし一教駒三十年」の中で特に、考えるべきこととして、取り上げたつもりでいる。御批判を乞いたい。

『創立三十周年記念誌』（1977. 11 発行）より

資料 Ⅲ

ユネスコ（ユネスコ校内委員会）との協同研究活動

年度	研究テーマ	ユネスコ校内委メンバー	報告書など
1959 (S34) 60	「人権の研究 —とくに人権の主張の仕方について」	佐近・沢登・明石・柾・大澤・浅原	○「1959. 1960年度ユネスコ教育実験報告」 テーマ“人権の研究—とくに人権の主張の仕方について—
61 62	「東南アジアの研究 —国際理解を正しく育てるための教育」	明石・佐近・沢登・神藤・中村	○「1961年度ユネスコ教育実験中間報告」 テーマ“東南アジアの研究—「国際理解を正しく育てるための教育—”
63 64	「東洋と西洋における平和の考え方について —「東洋と西洋の文化価値の相互理解」への１つのアプローチとして—」	佐近・沢登・明石・大西・神藤・中村・岡本 明石・中野・岡本・　大西・林（幹）・大谷	○「1963年度ユネスコ教育実験報告」 テーマ“東洋と西洋における平和の考え方について—「東洋と西洋の文化価値の相互理解」への一つのアプローチとして—”
65 66	「経済関係を中心とした国際理解の考え方について —経済発展段階を異にする諸国間の協力—	佐近・中野・岡本・津谷・林（幹） 明石・綿引・岡本・津谷・林（幹）・大谷	○「1965年度ユネスコ教育実験報告」(第１年次の中間報告) テーマ“経済関係を中心とする国際理解の教育—経済発展段階を異にする諸国間の協力—”
67 68 69	「科学・技術教育と国際理解」	明石・大谷・小林 明石・重松 明石・重松	○「1967年度ユネスコ教育実験報告」 テーマ“科学・技術の教育と国際理解” ○「1968年度　〃　」テーマ“　同上　”
70 71 72	「東南アジアの研究 —インドネシアを中心として—」	神藤・城戸・重松 神藤・城戸・重松・久保木 神藤・城戸・重松・久保木	
73 74 75	「私たちとアジア」	城戸・重松・久保木 神藤・城戸・重松・久保木・辻 神藤・城戸・重松・遠藤・久保木	
76 77 78 79	「人と環境—その科学的解明」	神藤・城戸・重松・遠藤・久保木・辻 神藤・城戸・重松・遠藤・久保木・辻 松井・城戸・遠藤・久保木 城戸・遠藤・久保木	
80 (S55)		80年度より「ユネスコ校内委員会」なくなる	

（「学校要覧」1963～1980などより）

（注）○「学校要覧によると「74年度まで「インドネシアの研究」を行なった。75年度は「私たちとアジア」というテーマで数年来の継続研究のまとめを行なった。」とあるが，「創立30周年記念誌」の「本校のユネスコ活動」（城戸一夫執筆）の記述に従って，70年～72年「東南アジアの研究～インドネシアを中心として，73年～76年「私たちとアジア」とした。

○ユネスコ校内委員会の報告書としては，上記の小冊子以外に，『研究報告』第１集，第４集，第５集，第６集，第７集，第８集，第９集（第17集）があるのであわせて参照されたし。

本校のユネスコ活動

教官　城戸一夫

ユネスコ協同学校計画への参加（一九五九～）

ユネスコの協同学校計画（The Associated Schools Projects in Education for International Understanding）の背景はユネスコの発足当時にさかのぼるが、一九五三年、ユネスコの「世界共同社会に生活するための教育における協同実験活動計画」（The Program for Co-ordinated Experimental Activities in Education for Living in a World Community）が成立し、基本的人権の尊重、日本と諸外国との相互理解と教育、国際協力機関についての理解と協力、及び世界平和の実現に関する教育実践が、六つの「実験学校」と十三の「研究学校」を中心に行われることになった。一九六〇年には、従来の「実験学校」と「研究学校」との組織が改編されるとともに、二十五校をもって名称を「協同学校」（The Associated Schools）と統一し、教育実験活動よりも普及活動的色彩がしだいに強められていくこととなった。

本校は、まず一九五九年、東京教育大学附属高校に代わって「実験学校」としてこの計画に加わり、翌年の組織改編とともに、「協同学校」の一つとなり、今日に至るものである。この間の教育実験・普及活動は、その時々の要請や研究活動の在り方の変化に伴って、重点のおき方に多少の異同があったと言えよう。概括的にみれば、一九六四年ごろまでの十年間は、かなり高度な実験的教育研究が主流であったが、一九六五年以降には、研究成果の応用的実践の側面が強く打ち出されてきたと言える。本校の場合には、教育の実験、実証を主とする学校の在り方から、依然実験教育的性格が濃厚であると考えられるが、以下にみるように、その成果は、全高ユ指協における活動を通して、教育実践者にある程度の普及的役割を果たしてきたと言うことができる。

協同学校としての本校の各年度の教育実験テーマは次のとおりである。

○一九五九年～六〇年「人権の研究――とくに人権の主張のしかたについて」○一九六一年～六二年「東南アジアの研究」　○一九六三年～六四年「東洋と西洋における平和の考え方について」　○一九六五年～六六年「技術教育と国際理解――自然科学における国際的な共同研究の内容とその研究の意義」　○一九六七年～六八年「アジアの研究――インドネシアを中心として」　○一九七三年～七六年「私たちとアジア」　○一九七六年「人と環境――その科学的解明」

このような教育実験にあたっては、一九六〇年代末期ごろまでは校内ユネスコ委員会を中心に、各教科より多数の教官が参加した。一九七〇年代には計画・実践ともに校内委員会に限定される傾向にあり、他方、非公式ながら、ユネスコ国内委員会、文部省学術国際局の主催する各種セミナーの企画への参加、一九七四年ポーランドでの「第二回ヨーロッパ協同学校会議」への参加等、対外的に活発な活動がみられる。

協同学校計画の意義を振り返る時、大事なことは、幾多の曲折を経つつも、ユネスコが史上初めて、世界全体が共通の理念の下に、国家中心的な教育のわくを超えて、国際理解、国際協力及び国際平和のための教育実践を各国に呼びかけた点にある。教育に対する個々の国の国家的規制は否定されなかったにしても、国際社会的規制の意義を世界が承認したということは、正に教育史上画期的な試みであった。その理念は七四年の第十八回ユネスコ総会における「国際理解、国際教育及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育（略称、「国際教育」）に関する勧告」において、当面、最高度の結実をみることとなった。

協同学校計画の今後の課題は、この「国際教育」に関する勧告を、具体的にどのように実践するかにあるが、日本の場合、文部省内の最近の組織改編など諸般の事情がからんで、計画は微妙な転機を迎えている。本校においても一九六〇年代末を境とする教育実践の在り方の変化の意味を考え、今日に至る教育実践の成果と問題点を整理し、今後の新しい在り方を模索すべき時期であると思われる。

全国高等学校ユネスコ活動指導者協議会（全高ユ指協）事務局の担当（一九七〇～）

全高ユ指協は、関係諸機関及び団体との連絡・提携を図り、ユネスコ憲章に基づき、ユネスコの本質とその実践方法を究めることによって、高等学校ユネスコ活動の発展を促すことを目的として、高校ユネスコクラブ及び関連クラブを有する高等学校を会員とする機関である。顧問教諭による従来の任意団体を解消し、高校ユネスコ活動の責任指導機関として一九六七年に正式発足し、一九七〇年以来、本校が事務局を担当している。関係諸機関及び団体は、ユネスコ国内委員会（現在では文部省学術国際局）及び日本ユネスコ協会連盟（NGO団体）を中心とするもので、全高ユ指協は、日ユ協連を通じて、毎年文部省より、活動のための国庫補助金を交付されている。加盟校は現在約二百校。

事務局校としての日常業務は多岐にわたり、繁忙を極めるものである。その活動の主なものは、次のとおりである。

○全国高校ユネスコ研究大会（毎年七月下旬～八月上旬、四日間）の企画、準備、設営、運営　○総会、常任理事会、理事会の準備、運営　○関係諸機関及び団体との折衝、会議　○資料の収集、作成、発送　○各種研究会、セミナーの企画、準備、設営、運営　○各種原稿の執筆　○会計業務

これらは日常的活動に属するもののみであるが、その他の特筆すべき活動としては、高校ユネスコクラブ活動のための『ガイドブック』の執筆・編纂をあげることができる。一九七一年に初版（グリーン版）を、七六年に全面改訂版（イエロー版）を刊行したが、特に後者は、高校のみならずユネスコ活動全般の新たな水平を切り開くものとして、国内外の心ある人々より高く評価された。

このような諸活動が単に事務的業務にとどまらず、理論と実践に支えられ、更に新たな理論と実践の方法を生み出すものであることを目指すために、ユネスコ活動が直接カバーする広範な諸問題――国際機関、他民族・他文化圏の研究、人権、環境、平和、教育、交流、協力、福祉など――及び関連する基礎科学に関する自己研鑽もまた、日常的に絶えず要請されている課題である。

クラブ指導

本校には高校ユネスコクラブに該当するものとして、国際問題研究会（同好会）が地道な研究活動を続けており、その指導もまた活動の重要な一環である。同研究会の最近数年の研究テーマは、平和の理論、新植民地主義、アジア問題、環境問題、人権問題などを中心としており、毎年の全国高校ユネスコ研究大会には六名前後の会員が参加して研究会をリードしている。理論的研究に傾斜し、実践的側面が欠落しているのが特色でもあるが欠点でもあるが、卒業生の中にはこの活動体験の中から将来の社会での活動の方向を見いだした者も多数存在する。今後は優れた理論に支えられた実践的活動を重視すること、社会的正義・社会的公平の実践を目指す現状変革に貢献しうる人材を育成することが課題とされる。

個人的活動

以上、学校を単位又は背景とする諸活動のほかに、それと関連しつつも、校内委員会のメンバーの一部は、関係諸機関や団体において、多様な活動を展開してきた。すなわち、政府機関や日ユ協連その他の団体での各種委員会における活動、各種大会・研究会・海外移動講座における講師としての出向き、日本平和学会、国際教育フォーラム、国際平和協会その他の学会、研究会における活動がその主なものである。

「創立三十周年記念誌」（一九七七・一一発行）より

資　料　Ⅳ

筑波大学附属駒場中・高等学校

『研究報告』（第1集(1960)～第32集(1992)）目次一覧

筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告目次一覧

第　1　集（1960年）

序　山本　光
本校生徒の政治的関心　澤登岩尾
教学大旨の成立について　坂根義久
教科書に現われた用語の調査　数学科
中学校高等学校の関連に留意した理科の実験・観察のカリキュラム設定　理科
SOME EDUCATIONAL PROBLEM IN THE U.S.　J. Y. ANGELL
ユネスコ教育実験中間報告　ユネスコ校内委員会

第　2　集（1961年）

序　林　純一
USES OF THE ANAPHORIC BACK-POINTING "ONE"　中村　登
親子関係における世代の断層　澤登岩尾
教科書に現われた用語の調査その2　数学科
高等学校生物における実験観察法の工夫　重松樫三

第　3　集（1963年）

新校舎の紹介　梅澤力夫
序　林　純一
社会調査と社会認識　澤登岩尾
SIMILARITY BETWEEN ANDES OR INCAN CIVILIZATION AND JAPANESE　HIROYA SHIROKI
学友関係の実態調査　深野　明

第　4　集（1964年）

序　林　純一
ユネスコ教育実験報告　東洋と西洋における平和の考え方について　ユネスコ校内委員会
生物学習における物理的実験の工夫　重松樫三
生物学習における化学的技能の影響　理科
本校教科外体育実態に関する調査　保健・体育科

第　5　集（1965年）

序　林　純一
平和の研究—高校生の国際理解を深めるために—　ユネスコ校内委員会
現代文理解の問題点　高校生の語彙の実態（中間報告）
国語科教官共同研究，報告者・松井一夫
地学と物理の関連について（物理の単位・用語・公式についての理解度調査）
理科教官共同研究，報告者・牛田英一

第　6　集（1966年）

序　林　純一
経済関係を中心とする国際理解の教育—経済発展段階を異にする諸国間の協力—　ユネスコ校内委員会
現代文理解の問題点　高校生の語彙の実態—語彙調査の結果報告—　国語科教官共同研究，報告者・丸尾芳男
現代指導要領の実践に基づく反省と批判（生物）　重松樫三
ホーム・ルーム指導計画作成の手順と実施における問題点　神藤邦芳
集合の交わり・結びに関する表現とその内容（調査）　数学科教官共同研究，報告者・秋葉鶴一郎

第　7　集（1967年）

序　田口正夫
経済関係を中心とする国際理解の教育　—経済発展段階を異にする国際理解の教育
—経済発展段階を異にする諸国間の協力—　ユネスコ校内委員会
THE NEEDS AND OPPORTUNITIES FOR MUTUAL APPLECIATION
OF EASTEN AND WESTERN CULTURAL VALUES　S. AKASHI
ホーム・ルーム活動における生徒の自主性
—合同ホーム・ルームの実施とその問題点—　貝沼喜兵
高校における集合と写像の指導について　数学科教官共同研究，報告者・喜多耕作

第　8　集（1968年）

序　出口正夫
科学・技術の教育と国際理解　ユネスコ協同学校計画　1967年度教育
実験報告書　ユネスコ校内委員会
中学生・高校生の健康状態からみた学校生活と家庭生活との調和　本田尚子
速読力養成法の研究（一試案とその実践データ）　大西光興
ホーム・ルームと生徒会との関係強化によるホーム・ルーム指導の実践的研究　ホーム・ルーム研究委員会

第　9　集（1969年）

序　出口正夫
科学・技術の教育と国際理解　ユネスコ校内委員会
高校・生物科における遺伝学習の現代化について　重松樫三・貝沼喜兵
「保健」の効果的学習における問題点　深野明
平常授業の中でいかに速読力を養うか　小林祐二・大西光興
ホーム・ルームと生徒会との関係強化によるホーム・ルーム指導の実践的研究　岡本忠篤・林幹一郎

第　10　集（1970年）

序　出口正夫
物理教育改革の試み—力学の授業を通じて—　大道明
遺伝学習における分子遺伝学の指導に関する実践的研究　貝沼喜兵・重松樫三
保健学習の構造　深野明

第 11 ・ 12 集（1972年）

序　阿部又三
線型代数の導入についての考察と実験テキスト　その1　長野　東
Iris Murdock の 'Under the Net'　小林祐二
電卓を用いた必修数学と指導　栗原幹夫
美術鑑賞教育の一考察と実践資料　白木博也
本校における高校音楽の創作の実際　多田逸郎
通奏低音の実際　多田逸郎
文学考（筆順・扁の形・体の変化についての一考察）　小木良一

第 13 集（1973年）

序　篠崎　哲
民営郷学校の一考察　—とくに小野郷学について—　坂根義久
日常論理と数学的論理について　栗原幹夫
「形質転換」の公開授業について　貝沼喜兵
二，三の草花の開花調節についての実験　岡村　彰
中・高英語検定教科書の語いの実態調査　—第一年度中間報告—　久保木　清

第 14 集（1974年）

序　篠崎　哲
本校における教育研究会のあり方　研究部
P.W.C $_{170}$ の変化からんみた中学生の三週間の持久走プログラムの効果について
川畑栄一・坂田敬雄・深野　明・久保正秋
曽根睦子・浜田志朗・片岡幸雄・佐野裕司
"新しい健康診断" とこれからの課題—本校における健康診断—　曽根睦子
G.W.F.Hegele の『美学講義』と「芸術の現在」　長田謙一
中・高英語検定教科書の語いの実態調査—第2年度—　綿引守光・五味貞二・晴山數二・久保木清
中村　豊・大西光興・辻　弘
アメリカ北部とポーランドの教育事情について　佐野　清
東欧の印象　城戸一夫

第 15 ・ 16 集（1976年）

序　篠崎　哲
生徒の同好会活動をどうとらえるか—部活動と関連して—
岡本忠篤・大道　明・岡村　彰・貝沼喜兵
久保木清・深野　明・丸尾芳男
古典学習についての生徒の意識—中学との関連をふまえて—（その他1，2）
丸尾芳男・高井　霞・日野得隆・柾　繁
松井一夫・石田城之助・勝田和學
数学教育の現代化の問題点を知り現場の声を集積する
—アンケート調査の結果—　大澤清克・喜多耕作・栗原幹夫・左近　良
中野次郎・長野　東・深瀬幹雄
中学校・高等学校におけるエネルギー教育の現状と問題点・留意点
重松樫三・巻島三郎・牛田英一・岡村彰

福岡久雄・貝沼喜兵・大道明・大谷悦久
高校化学実験における赤外分光光度計（IR）の利用と実践について
—エステル生成反応を中心にして—　福岡久雄・大谷悦久
池の生産力測定　—エネルギー固定率を測定する試み—　貝沼喜兵
生物教材としての Blepharisma Japonicum（プレファリズマ）について　重松樫三
中・高校生の直立能力について　川畑栄一・坂田敬雄・深野　明・久保正秋・曽根睦子
浜田志朗・平沢彌一郎・小沢治夫・臼井永男
剣道の打突に対する容積脈波反応についての研究　川畑栄一・坂田敬雄・深野　明・久保正秋・浜田志朗
昭和51年度　本校における教育実習指導の概要　研究部
〔海外教育事情視察報告〕
カナダ（オンタリオ州）と東ドイツの教育事情について　川畑栄一

第 17 集（1977年）

序　篠崎　哲
アメリカ合衆国における英語研修レポート　大西光興
高校化学実験における赤外分光光度計（IR）の利用と実践について（II報）　福岡久雄・大谷悦久
本校生徒の理科学習状況について　中学校理科
音楽祭についての生徒の意識　牛田英一
鉄棒の授業とその計量的考察　川畑栄一・坂田敬雄・深野　明・久保正秋
中・高校生の直立能力について　川畑栄一・坂田敬雄・深野　明・久保正秋・
曽根睦子・和田雅史・平沢彌一郎・小沢治夫
保健教育管理のかけ橋　曽根睦子
混成学級における高一古文学習指導の試み　石田城之助
創造的思考を伸ばす教材とその指導法の実践的研究　高等学校数学科
理科学習調査調査用紙（高校）その1　高等学校理科
ユネスコの問題提起資料No. 2　重松樫三
学習指導に関する実態調査　研究部・生徒部

第 18 集（1978年）

序　山沢新吾
古典学習についての生徒の意識　—中学との関連をふまえて—
石田城之助・勝田和學・鈴木信好・高井　霞
日野得隆・松井一夫・柾　繁
本校中学高校生の社会認識に関する予備調査　岡本忠篤・神藤邦芳・小澤正晴・城戸一夫
坂根義久・澤登岩尾・林幹一郎
創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的研究　大澤清克・喜多耕作・栗原幹夫・左近　良
中野次郎・長野東・深瀬幹雄
理科学習調査　巻島三郎・牛田英一・岡村　彰・福岡久雄
貝沼喜兵・大道　明・大谷悦久
野外調査による草地の種構成の特徴の指導　貝沼喜兵
走幅跳びの計算的考察　川畑栄一・深野　明・小沢治夫・大矢　稔
入江友生・和田雅史・久保正秋（東海大学）
芸術科合同授業の研究と実践　美術　白木博也，音楽　遠藤正之，工芸　佐野清，書道　須田義樹

現行中学校英語検定教科書の研究
—その内容に光を当てて—（英語科研究計画の一環としての研究）
五味貞二・久保木清・中村　豊・大西光興
辻　　弘・加藤裕司・笠原順路

教育過程の編成に関する調査　深　野　　明
学校行事の再編成について　牛　田　英　一
高校化学実験における赤外分光光度計の利用と実践について（Ⅲ報）　福岡久雄・大谷悦久
化学クラブにおける機器（IR,UVIVUS）の利用について　大　谷　悦　久

第　19　集（1979年）

序　山　澤　新　吾
古典教材と古典文法の配列　石川祐爾・石田城之助・勝田和學・鈴木信好
日野得隆・柾　　繁・松井一夫

中学・高校における社会認識調査　岡本忠篤・小澤正晴・城戸一夫・坂根義久
澤登岩尾・神藤邦芳・林幹一郎

創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的研究　大沢清克・喜多耕作・栗原幹夫・左近　良
中野次郎・長野　東・深瀬幹雄

中学校理科校外学習　石川秀樹・牛田英一・大谷悦久・大道　明
貝沼喜兵・福岡久雄・巻島三郎・重松樫三

剣道における竹刀の持ち方に関する考察　入江友生・大矢　稔・小沢治夫・川畑栄一
深野　明

芸術科合同授業の実践と研究　遠藤正之・白木博也・佐野　清・須田義樹
現行高校英語検定教科書の研究　大西光興・笠原順路・加藤裕司・久保木清
辻　　弘・中村　豊

生徒実験における機器（IR・VIS）の利用　大　谷　悦　久
高校化学クラブにおける機器（IR・VIS）の利用　大　矢　悦　久
高校生物Ⅱ（形質転換）の指導について　貝沼喜兵・石川秀樹
「レイミア」に関する覚書（Ⅰ）　笠　原　順　路

第　20　集（1980年）

現代国語に関する生徒意識調査　石川祐爾・石田城之助・鈴木信好・塚田泰彦
日野得隆・柾　　繁・松井一夫

昭和55年度理科学習調査（プロジェクト研究）
鉄棒運動の授業とその計量的考察
け上がり—前回り—後ろ回り—振りとびの連続技と体力との関係等について
深野　明・川畑栄一・小沢治夫・入江友生
大矢　稔

「芸術科合同授業の研究と実践」　遠藤正之・白木博也・佐野　清・須田義樹
英語授業と英語教科書について—英語検定教科書に関する生徒の意識調査—
（英語研究計画の一環としての研究）　久保木清・中村　豊・大西光興・辻　　弘
加藤裕司・笠原順路

本校生徒のルール意識　澤登岩尾・久保木清・深瀬幹雄・神藤邦芳
笠原順路・辻　　弘・入江友生

中和滴定曲線の数式化について　大谷悦久・岡本裕巳

生徒実験における機器（IR・VIS）利用（Ⅱ報）　大谷悦久
池の生産力測定（第二報）—エネルギー固定率を測定する試み—　石川秀樹・貝沼喜兵
中学生の保健・安全に関する意識調査
—本校における生徒手帳の保健・安全欄の活用について—　曽根睦子
英作文指導の一つの試み　「読んで→書く」という事を念頭に置き，生徒の興味
に訴える教材の開発を目指して　辻　弘
「レイミア」に関する覚え書き（Ⅱ）—Lania: The psychodynamic inevitability of a poet—　笠原順路
中学校での理科を中心とする野外学習　—埼玉県長瀞—　熊野善介
数学的創造力を伸ばす教材と指導法の実践的研究　長野　東・佐藤和孝・深野幹雄・喜多耕作
大澤清克・栗原幹雄・中野次郎
将来計画委員会報告・将来計画校内委員会　佐野　清・岡本忠篤・左近　良・白木博也
深野　明・長野　東

第 21 集（1981年）

現代国語に関する生徒の意識調査　国語科
社会認識調査　社会科
数学的創造力を伸ばす教材と指導法の実践的研究　数学科
理科Ⅰの各分野の指導計画について　理科
中学生の有酸素的作業能について　保健体育科
芸術科合同授業　—江戸時代の外来芸術—　芸術科
本校における校外指導の実態　生徒部
将来計画委員会報告　将来計画委員会
勤労にかかわる体験学習の実践的研究　—水田による教育を中心にして—　水田委員会
化学クラブにおける機器利用（Ⅱ）　大谷悦久
遺伝子概念の歴史的発展の実証的指導　貝沼喜兵・石川秀樹
保健体育科中高6ケ年一貫カリキュラムの検討　小沢治夫

第 22 集（1982年）

現代国語に関する意識調査　国語科
中学生・高校生の社会認識について　社会科
数学的創造力を伸ばす教材と指導法の実践的研究　数学科
理科学習調査　理科
中学校の理科校外学習について（第2報）　理科
持久力テストとしての多段階Side Step 運動の検討　保健体育科
芸術科合同授業の研究と実践　芸術科
英語Ⅰ及びⅡの教科書における文法の扱いについて　英語科
本校のクラブ活動の実態　生徒部
ファージを用いた遺伝と実験（第3報）　貝沼喜兵
理科Ⅰの「遺伝」と選択生物の「遺伝子と形質発現」の指導内容と
その関連性について　貝沼喜兵・石川秀樹
形態と体力・運動能力との相関について（1）　小沢治夫・他六名
学芸クラブの効果的な展開を求めて　辻　弘

第 23 集（1983年）

中・高６ケ年を見通した「現代国語」の教材編成（小説）	国　語　科
数学的創造力を伸ばす教材と指導法の実践的研究	数　学　科
理科学習調査	理　　科
持久力テストとしての多段階 Side Step 運動の検討（第２報）	保健体育科
芸術科合同授業の研究と実践	芸術科・技術科
本校生徒の悩みの実態について	生　徒　部
遺伝の指導に関する実践的研究	貝沼喜兵
技術科・家庭科の“木材加工Ｉ”における観点別学習状況の評価について	岡村　彰・佐野　清
形態と体力・運動能力との相関について（２）	川畑栄一・他６名

第 24 集（1984年）

中・高６ケ年を見通した現代国語の教材編成（小説）　―実践と研究―	国　語　科
創造的思考力を伸ばす教材と指導法の実践的研究　―計算力の調査と分析―	数　学　科
社会の変動に対応する教育課程の研究　―教師の意識調査（１）―	数　学　科
平和認識調査 ―社会科総合学習指導案作成のために（その１）―	社　会　科
「生徒の英語表現力の問題点」 ―特に日本語の言い回しの影響のよる誤りの実態―	英　語　科
本校生徒の学習実態についての調査	生　徒　部
本校における計算機械室整備の実態 ―とくに学習成績の有効な処理方法の研究―	教　務　課

第 25 集（1985年）

中・高６ケ年を見通した現代国語の教材編成（小説）　－実践と検討（その２）－	国　語　科
平和教育のためのカリキュラム化をめざして	社　会　科
コンピューターに関する意識及び実態調査	数　学　科
理科学習調査	理　　科
中・高６ケ年一貫カリキュラムの検討（第２報）	保健体育科
技・芸術科合同授業の研究と実践	技術科・芸術科
生徒の英語文法力の問題点	英　語　科
社会の変動に対応する教育課程の研究　―教師の意識調査（２）―	長野　東・他10名
発育発達期における自転車エルゴメータによる最大無酸素パワーの研究	小沢治夫・他８名
遺伝子組換え　―組換え DNA 技術―実験の教材化	貝沼喜兵
USE OF MODERN INSTRUMENTS IN THE CHMISTRY CLASS OF HIGH SCHOOL	大谷悦久

第 26 集（1986年）

中・高６ケ年を見通した現代国語の教材編成（小説） ―実践と検討（その３）―	国　語　科
創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的研究 ―基礎的計算力の調査分析―	数　学　科
中・高６ケ年一貫カリキュラムの検討（第３報） ―到達目標を中心として―	保健体育科

「技・芸科合同授業の研究と実践」（昭和61年度）　技術科・芸術科
「英語による表現力の育成をめざして」
　—誤答分析をもとにした補助教材を使って—　英　語　科
数学教育の目標に対する高校教師の意識
　—論理的思考力に関する意識構造の分析と考察—
　—高校教師の意識調査（4）—　長野　東
数学学習における数学史の利用に関する一考察　礒田正美
（作成　教官　久保田雅史）
以上『創立40周年記念誌』（1987）より

第 27 集（1987年）

中・高6ケ年を見通した現代国語の教材編成
　—説明的文章，論説文，評論—その1　国　語　科
情報化社会に対応した創造的教材
　指導法の実践的研究　数　学　科
　電算機教室報告　数　学　科
中・高一貫理科カリキュラム　理　科
発育発達における自転車エルゴメーターによる最大無酸素パワーの研究（第2報）　保健体育科
技術・芸術科合同授業の研究と実践　技術・芸術科
中・高連携をとらえた自主教材の開発　—筑駒 Picture Dictionaryの作成（1）　英　語　科
飲酒・喫煙・交際・性に関する調査　生　徒　部
「理科Ⅰ地学」と「選択物理」における万有引力の取り扱いについて　大道　明・高橋宏和
組換えDNA技術の教材化（第2報）　貝沼喜兵

第 28 集（1988年）

伝承文学教育の課題（1）—中1の学習指導と伝承文学資料集—　石井正己
小中高にわたる関数の発達に関する調査研究（第一次報告）　礒田正美
「遺伝子と形質発現の指導に関する実践的研究」　貝沼喜兵
中三生徒への辞書指導　長谷川和則

第 29 集（1989年）

中・高6ケ年を見通した現代国語の教材編成（説明的文章・論説・評論）
　—実践と検討（その2）—　国　語　科
コンピューターに関する意識及び実態調査　数　学　科
理科教育における視聴覚教材の活用　理　科
本校における体力テストとトレーニングの取り組みとその成果について　保健体育科
「技術・芸術科合同授業の研究と実践」（1989年度）　技術・芸術科
英語科研究プロジュクト
　中高連携をとらえた自主教材の開発　—「筑駒 Picture Dictionary」の作成（2）—　英　語　科
「本校生の学校生活に関する調査」　生　徒　部

第 30 集（1990年）

『筑駒』考　井上正充
中・高6ケ年を見通した現代国語の教材編成（説明的文章・論説・評論）

—実践と検討（その３）— 国　語　科
宇宙船地球号の中で国際社会を考える　—地球社会を考える学習— 社　会　科
コンピューターを利用した創造的教材・指導法の研究
—教育研究会での公開授業について— 数　学　科
理科教育における視聴覚教材の活用（第２報） 理　科
発育発達期における最大無酸素的パワーの研究（第３報）
—ウィンゲートテストと体構成との関連— 保健体育科
「技術・芸術科合同授業の実践と研究」（1990年度） 技術・芸術科
英語科研究プロジュクト（３年計画）
中高一貫教育におけるLL学習指導のあり方を探る（１） 英　語　科
処罰の限界とその有効性 生　徒　部

第　31　集（1991年）

中・高６ケ年を見通した現代国語の教材編成（説明的文章・論説・評論）
—実践と検討（その４）— 国　語　科
附属学校における社会科教育カリキュラムの変遷について 社　会　科
情報化社会に対応した創造的教材・指導法の実践的研究
—過去５年間の研究から— 数　学　科
理科校外学習の指導と実施 理　科
『環境学習の指導実践』
—中学３年生における課題研究の一例として 理　科
『教育実習からみた保健科教育の実態調査』 保健体育科
脚伸展パワー測定装置を用いた発展期における筋出力に関する研究 保健体育科
「芸術科合同授業の研究と実践」（1991年度） 技術・芸術科
本校クラブ合宿の実態と問題点 生　徒　部
本校総合教育棟の総合メディアセンターシステムについて 加藤裕司
英語科研究プロジェクト
中高一貫教育におけるLL学習指導のあり方を探る（2）（３年計画２年次） 英　語　科

第　32　集（1992年）

［Ⅰ］研究プロジェクト
中高６ケ年の古典教材の研究—その予備的調査，研究 国語科（須藤　敬他）
情報化社会に対応した創造的教材・指導法の実践的研究 数学科（鈴木　清夫他）
保健授業における授業診断法の作成 保健体育科（岡崎　勝博他）
中高一貫におけるオーラル・コミニュケーション能力の育成を
めざした実践的研究とカリキュラム編成 英語科（谷口　幸夫他）
生活実態調査 生徒部（鹽谷　健他）
本校における研究活動のあゆみ（1957～1992） 研究部（小林　汎他）
［Ⅱ］個　人　研　究
A Sample Syllabus for Oral Communication A 寺田恵一
「スピード型か，持久力型か，筋繊維タイプの決定とこれを応用
した指導法」 小沢治夫
新しい学校教育の構想とその展開イメージ 市川道和
伝承文学教育の課題（２）—中３における『遠野物語』 石井正己

資　料　V

教育研究会のあゆみ

1. 第１回～第19回教育研究会概要一覧
2. 各年度の案内状に見る研究会の様子

1. 第1回～第19回　教育研究会概要一覧

回	開催日	研究テーマ	公開授業	
1	1974(S49) 11/15（金）	名称　校内研究会　　中学保護者対象　　中学全クラス（3×3）公開授業,　　学年ごとに保護者・教		
2	1975(S50) 11/21（金）	名称　「教育研究会」となる　　中1～高1保護者対象　　中1～高1全クラス公開授業,　　学年会 （他校教師の参加もあり）		
3	1976(S51) 11/26（金）	中・高教育のつながりを考える ―中・高教育のつながりのなかでの問題点とその対処のしかたについて―	（中　学） 社　数　英 （林）（長野）（久保木）	（高校） 社　数 （神藤）（深瀬）
4	1977(S52) 11/25（金）.26(土)	中高を見通した新しい教育を考える ―個性をのばす教育の科学的基礎研究―	国 社 数 理 体 音 英 （須田）（小沢）（喜多）（福岡）（久保）（遠藤）（大西）	国 社 数 理 体 （柾）（城戸）（中野）（貝沼）（深野）
5	1978(53) 11/17（金）.18(土)	同　上	国 社 数 理 体 技 英 （松井）（坂根）（喜多）（巻島）（小沢）（岡村）（久保木）	国 社 数 理 体 （石田）（坂根）（栗原）（大道）（川畑）
6	1979(S54) 10/19（金）.20(土)	中学・高校六カ年教育の推進 ―基礎能力の研究と教育方法の探究―	社　数　理　保体 （神藤）（深瀬）（福岡）（入江）	社　数　理 （岡本）（長野）（牛田）
7	1980(S55) 10/17（金）	基礎能力の探究と開発 ―中高一貫教育をふまえて―	国　音　英 （石川）（遠藤）（中村）	国　音 （石川）（遠藤）
8	1981(S56) 10/29（金）	同　上	数　理　保体 （中野）（石川）（入江）	数　理 （佐藤）（大谷）
9	1982(S57) 10/15（金）	同　上	国　社　技　英 （塚田）（小林）（岡村）（中村）	国　社　技家 （塩谷）（岡本）
10	1983(S58) 10/14（金）	同　上	数　理　保体 （喜多）×（入江）	数　理 （大道）（貝沼）
11	1984(S59) 10/19（金）	同　上	国　社　音　英 （石川）（小沢）（遠藤）（辻）	国　社　音 （高木）（林）
12	1985(S60) 10/11（金）	同　上	数　体　理 （吉井）（入江）（浜本）	数　体 （磯田）（小沢）
13	1986(S61) 10/16（金）	基礎能力の探究と開発 ―中高関連教育をふまえて―	国　社　英 （石川）（増渕）（大西）	国　社 （高木）（宮崎）
14	1987(S62) 10/16（金）	同　上	数　美　理　体 （井上）（土井）（高橋）（入江）	数　美　理 （大谷）
15	1988(S63) 11/25（金）.26(土)	基礎能力の探究と開発 ―新しい中等教育のあり方をめざして―	国　社　英 （関口）（岡本）（長谷川）	国　社 （鈴木）（小林）
16	1989(H1) 11/17（金）.18(土)	新学習指導要領と中高一貫教育を見通したカリキュラムの再編成―明日を創造する生徒のための，教育と学習の主体性の確立をめざして―	数　理　保体　音 （熊倉）×（小沢／岡崎）×	数　理　保体 （吉井）（貝沼／石川）
17	1990(H2) 11/16（金）.17(土)	同　上	国　社　英 （石塚）（小沢）（久保野）	国　社 （石川）（林）
18	1991(H3) 11/15（金）.16(土)	同　上	数　理　保体 （井上）（大道）×	数　理 （鈴木）（浜本）
19	1992(H5) 11/20（金）.21(土)	同　上	国　社　技家　英 （須藤）（丸浜）（市川）（辻）	国　社　技家 （石井）（宮崎）

（各教育研究会の案内状より作成）

	研究協議会（教科別分科会）	講演他	参加費	要録（報告書）
官の話し合い			—	×
（保護者と教官の話し合い）		講演「教育課程の基準の改善について」（厚澤留次郎） 研究討議も行われる	—	×
英 （辻）	社　数　英 （小沢）（中野他）（大西）	「教育課程の改訂について」 （奥田真丈）	—	○
資　英 （綿引）	国・社・数・理・保体・芸技・英 7教科の研究協議会開催	「世界史の流れと教育」（永井道雄） …… ユネスコ問題提起 「ユネスコの新しいあり方」（城戸・重松）	1,000円	○
教　英 （加藤）	同上	「教育権に関して」　（兼子仁） …… 教科外研究発表として「教育課程研究協議会」（深野） 「生活指導　〃　」（牛田）	1,000円	○
保体 （大矢）	社・数・理・保体の研究協議	「中学生・高校生の心身の発達について」（相川高雄） …… 教科外研究発表として「ユネスコ研究協議会」（城戸） 「生活指導　〃　」（沢登）	—	○
英語 （辻）	国・音・英の研究協議		—	○
保体 （小沢）	数・理・保体の研究協議		—	○
英 （中村）	国・社・技・英の研究協議		—	○
保体 （大矢）	数・理・保体の研究協議		—	○
英 （稲岡）	国　社　芸・技　英 （鈴木）（小沢）（増渕）（岡本）（遠藤）（加藤） の研究協議		—	×
理 （高橋）	数・体・理の研究協議		—	○
英 （久保木）	国・社・英 （石川）（小林）（長谷川） の研究協議		—	×
体 （合田）	数・美・理・保体 （井上・土井）（土井）（大谷）（入江） 佐藤　の研究協議		—	○
英 （熊井）	国・社・英 （関口・鈴木）（城戸）（長谷川・久保野） 石井　の研究協議	「青年期の発達課程と教育 —生徒にとって教育の自由とは何か—」 （堀尾輝久）	1,000円	○
音 （遠藤）	数　理　保体音 （佐藤）（吉井）（熊倉）（貝沼）（石川）（大道）（高橋）（小沢）（岡崎）（遠藤）	"新学習指導要領をめぐる諸問題" 「新学習指導要領と生活指導」（竹内常一） 「　〃　と学校経営」（下村哲夫）	1,000円	×
英 （辻）	国・社・英 （関口）（小沢）（加藤） の研究協議	「新学習指導要領をめぐる諸問題　（山住正己） —附属駒場に期待すること期待しないこと—」	1,000円	×
保体 （入江・野井 合田・岡崎）	数・理・保体 （井上・鈴木）（大道・浜本・高橋・石川）（小沢） の研究協議	「能力主義の問題性をめぐって —現代社会と教育—」（堀尾輝久）	1,000円	○
英 （谷口）	国・社・技家・英 （石塚）（城戸）（市川）（加藤）（久保野） の研究協議	「今後の中等教育と附属学校の役割」 （麻生　誠）	1,000円	○

第15回より回数表示する

2. 各年度の案内状に見る研究会の様子

第 1 回　校内研究会　(1974 / 11 / 15)

校内研究会について　(御案内)

保　護　者　殿

昭和49年10月29日

東京教育大学付属駒場中学校長　篠　崎　哲

秋涼の候を迎えて 皆様一段御清栄のこと、存じます。

駒場の教育を充実させるために、教官一同、さいやかながら、たえずその反省と改善に努めてきておりますが、その流れの中の一つの試みとして、今回は、授業の検討と改善をめざす校内研究会を行うよう準備を進めております。

つきましては、下記のような計画で、一日を校内研究会にあて、その午前中の時間は、保護者の皆様に御参加いただいて、授業参観及び反省・意見交換の場としたいと思います。御忙しい時期とは存じますが、御参加下さいますよう御案内申上げます。

記

1．期　　日　11月15日（金）

2．参 加 者　中学校保護者　付属駒場中高全教官

3．場　　所　付属駒場中学校

4．時　　程　午前8：30～9：20　授業第1時限 ｝授業参観

9：30～10：20　授業第2時限

10：40～12：00　学年ごとに保護者・教官の話し合いの会

5．時 間 割

	組	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
授業第1校時 8：30～9：20	A	保健体育 川畑教官 体育館	英語 辻教官 2 A 教室	理科 重松教官 生物実験室
	B	国語 勝田教官 1 B 教室	美術 白木教官 美術室	技術 佐野教官 技術室
	C	英語 中村教官 1 C 教室	国語 日野教官 2 C 教室	国語 石田教官 3 C 教室
授業第2校時 9：30～10：20	A	理科 牛田教官 地学室	社会 小沢教官 2 A 教室	英語 久保木教官 3 A 教室
	B	社会 神藤教官 社会科教室	理科 大道教官 物理実験室	保健体育 久保教官 校庭
	C	数学 星野教官 1 C 教室	数学 喜多教官 2 C 教室	社会 林教官 3 C 教室
学年会 10：40～12：00		音楽室	美術室	中学図書室

第 2 回　昭和50年度 教育研究会　(1975 / 11 / 21)

1．期　日　昭和50年11月21日（金）

2．場　所　東京教育大学附属駒場中・高等学校

3．時　程

8:50	9:20	9:30	10:20	10:30	12:00	13:00	14:20	14:30	16:00
受付		公開授業		学年別研究討議	昼食	講演		教育研究討議	

4．公開授業　（9：30～10：20）

	組	A 組	B 組	C 組	
中 1	教科	学級活動	学級活動	学級活動	
	教官	長野 東	中村 豊	久保正秋	
	教室	424(1A教室)	423(1B教室)	434(1C教室)	
中 2	教科	理科	音楽	技術	
	教官	重松榮三	遠藤正之	岡村 彰	
	教室	321(生物実験室)	535(音楽教室)	515(技術教室)	
中 3	教科	国語	理科	美術	
	教官	柾 警	大道 明	白木博也	
	教室	414(3A教室)	331(物理実験室)	525(美術教室)	
高 1	組	1 組	2 組	3 組	4 組
	教科	国語	国語	理科	保健体育
	教官	石田城之助	高井 霞	貝沼喜兵	坂田敬雄・両角講師
	教室	218(1-1教室)	215(1-2教室)	325(地学教室)	グラウンド

5．学年会の研究討議　(10：30～12：00)
ー保護者と教官の話し合いー

学年会	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年
会場	音楽室 (535)	美術室 (525)	技術室 (515)	中学図書室 (531)

6．教育問題の研究討議　(13：00～16：00)　ー本校教官・教育関係者によるー

(1) 講演「教育課程の基準の改善について」　講師　実践女子大学教授 東京教育大講師　厚 澤 留次郎先生

(2) 研究討議「本校における教科指導、生徒指導からみた教育課程の問題点とその改善について」

7．授業の内容

研究会-1,2

第 3 回　昭和51年度・教育研究会　(1976/11/26)

1. 期　日　昭和51年11月26日（金）
2. 場　所　東京教育大学附属駒場中学校・高等学校
   東京都世田谷区池尻４丁目７番１号　電話 03（411）8521（代）
   利用交通機関　京王帝都井の頭線：「駒場東大前」駅下車
   東急バス（渋谷―若林）、小田急バス（渋谷―梅が丘）駒場下車
3. 主　題　「中・高教育のつながりを考える」
   ――中・高教育のつながりのなかでの問題点とその対処のしかたについて――
4. 時　程

9：00～10：00	10：00～10：50	11：00～11：50	12：00～13：00	13：00～15：00	15：10～16：30
受　付	公開授業（中学）	公開授業（高校）	休　憩	教科別分科会	講演会

5. 公開授業　10：00～11：50

	教　科	学 級	授　業　の　要　旨	担 当 者	教 室
中学校	社　会（公民的分野）	3 A	経済の高度成長 日本経済の現状と課題を学習するための背景として、第二次世界大戦後の日本経済の復興とその後の急速な経済成長をとりあげる必要があります。一連の授業では、急速に発展した経済の姿、それを可能にした諸条件、また、それが生みだした諸問題を理解させることがねらいですが、本時の授業ではその諸条件を、統計資料等を使って、考えさせる予定です。	林　幹一郎	414
	数　学	2 A	(1) 目　的 6ケ年一貫教育カリキュラム作成の基礎は生徒の発達段階の正確な把握が必要である。 この発達段階を科学的に調査することは容易ではないが、やるべき必要がある。今回の研究授業は中学生と高校生とに同一のテーマを与えて、生徒がどのように反応するかを比較して、参観者の方への参考に供したい。 (2) 内　容 テーマ「球面上の図形の性質をしらべよう」 球面上の幾何は教科書には殆どないので、中・高の生徒について、条件はあまり変らないと思う。 空間図形についての指導は問題点が多いのでとりあげた。生徒の空間の認識力、平面と球面との相違をどのような思考過程を経て、理解していくかを問答形式で進めたい。	長野　東	422
	英　語	3 B	現在完了進行形など 教科書（Total English ③）を教材にして普通教室で授業を行なう。現在完了進行形・前置詞用法としての since と till・接続詞用法としての since と till などが、本時の主な教材内容である。 Procedure は、Step 11 全般にわたる簡単な復習・新事項の導入と練習・本文の学習およびまとめ、といった具合に、ごくありふれた構成で、補助教具としてはテープレコーダーが使用される。 授業担当教師が平常教室で行なっている授業をありのままに展開するなかで、生徒および教師の実態をご覧いただき、諸先生の忌憚のないご批判と建設的御意見ないしはご指導を頂ければ幸いであると考える。 なお、今後の進度によっては、教材内容に多少の変更があることを付記しておきたい。	久保木　清	413
高等学校	社　会（地　理）	1の2	インドの歴史と農牧業 1. この国が後進地域になったのは近代以降で、それ以前は高い文化を誇っていた。 2. 土地改革が不徹底に終り、農民の約70%は、まったく土地や農具を所有しない農業労働者か、2ha 以下の零細農である。 3. 農作物の生産では、在来種が多く、栽培の技術も低いので、単位面積あたりの収量が少なく、良質のものも少ない。 4. 中学校をふまえての指導に留意する。	神藤邦芳	215
	数　学	1の4	上記、中学校の数学の授業要旨に同じ。	深瀬幹雄	211
	英　語	1の1	・授業箇所 Lesson 12 Mr. Tompkins in Wonderland ・授業の point 1時間の授業のうちに、できるだけ英語を聞いたり、話したりする機会を多く作りたい。高校の現在の教科書を用いて、〝言語活動〟の可能性を探りたい。 もう1つは、1時間毎の授業を通して、何か人生の諸相に生徒の関心を呼び起こしたいと願っている。	辻　弘	218

6. 教科別分科会　13：00～15：00

分 科 会	会 場	題　目	発 表 者
社　会	521	「授業について」「歴史学習における中・高の関連について」	小沢正晴
数　学	525	「6ケ年一貫カリキュラム編成上の諸問題の検討」	中野次郎 ほか
英　語	535	「検定教科書に見る中・高一貫」	大西光興

7. 講演会　15：10～16：30
   ・題　目　「教育課程の改訂について」　・場　所　本校531教室（中学図書室）
   ・講　師　文部省初等中等教育局　審議官　奥田真丈先生

研究会-3

3．研究主題　中高を見通した新しい教育を考える
――個性をのばす教育の科学的基礎研究――

4．日　程

	九三〇	十〇〇	十五〇	十一〇〇	十一五〇	十三〇〇	十五三〇
11月25日(金)	受付	(一校時) 中学公開授業	休憩	(二校時) 高校公開授業	昼休	教科別 研究協議会	

	九三〇	十〇〇	十四〇	十五〇	十二一〇	十三〇〇
11月26日(土)	受付	ユネスコ問題提起	休憩	講　演	協議	

5．公開授業（11月25日(金) 一校時 中学・二校時 高校）

教科	単　元	要　　旨	学年・学級	教室番号	担当者
国語	小　説「羅生門」芥川龍之介	芥川龍之介の作品「羅生門」を，原典となった今昔物語（中３・国語の項参照）と比較することによって，作品の性格・特色をとらえさせる。	高１の２	228	征　繁
	古典を読む「今昔物語」	近代の小説家・芥川龍之介が，自己の文学追求の舞台を借りた「今昔物語」の世界に注目し，生徒にもなじみの深い「羅生門」の原典となった話を学習しようと思います。そして，その比較の中から，古典の世界のおもしろさに気付かせたいと考えます。そこには，近代小説とは違った古典文学独自の世界が拓けているはずですから。そして，そのことにより，生徒個々の古典に対する関心を高め，興味を起こさせ，次の段階（高校）での本格的な古典学習への歩がかりを与えたいと考えます。 上のような主意で授業を行なうつもりですので，公開授業は，芥川の「羅生門」をあらかじめ済ませておいて，「今昔」を主体にするつもりです。したがって芥川との比較も近代小説とは違う古典の世界を浮び上がらせることに主眼を置いて行ないたいと思います。	中３のＡ	218	須田喜代次
社	西欧文化圏，市民社会の原理	本年度より比較文化の方法に基く世界史教育のあり方を模索しているが，その一環としての西欧文化圏に関しては西欧文化圏の成立，その原型について考察した後，市民社会の原理を資本主義・市民革命・社会思想等の諸側面について検討する。A・ウェーバーの主張する一つの「歴史体」としての西欧文化圏における「社会過程」，「文明過程」及び「文化運動」の理論を，実証史学の成果をふまえつつ検証し，より鮮明な西欧像を描き出すことを目的とする。	高２の１	231	城戸一夫
会	民主主義の発達，市民革命，フランス革命	イギリスにおける革命と議会政治の発達・アメリカ合衆国の独立・フランス革命の学習を通し，それらの国々にでの国民主権をもとにした近代的政治体制の形成過程をはあくさせる。それらを通して，市民革命についての理解と，近代民主主義の流れの中で市民革命の意義を考察させたい。	中１のＢ	424	小沢正晴
数学	平面図形と式（二次関数のグラフ）	２次関数のグラフ，簡単な分数関数のグラフ等，関数や写像の項を学習した後で，座標平面上にえがかれる曲線について，その曲線の定義の仕方と，その曲線の方程式の求め方等を考えさせ図形についての正しい理解をさせる。 ２次関数のグラフは放物線である。しかし，座標平面上にえがかれた放物線はすべて２次関数のグラフといえるのだろうか。また，放物線をかくとして，どんなにしてかいたらよいのだろうか。こんなところから放物線の定義，軌跡の方程式等について考えさせてみたい。 直線，円，放物線，だ円，双曲線についての基本的な内容について，いままで学習してきたいろいろな数学的能力を十分に発揮させ，充実した学習が展開されるよう努力してみたい。	高１の４	211	中野次郎
	一次方程式の応用（一元と二元の関連）	文章題を一元の一次方程式を立てて解く学習を終えたところで，今後，二元連立一次方程式の解法を指導する際，その解法の手順を理解させる伏線として，未知線が２つあるごく簡単な文章題（いわゆるツルカメ算のような問題）を，一元と二元の両方で立式させ，二元一次方程式から一元一次方程式を導く手順と，その意味を理解させるとともに，「代入する」ということは，「文字を消去する」ことであることをとらえさせる。	中１のＡ	423	喜多耕作
理科	分子遺伝学（ファージの遺伝形質とその特徴）	バクテリオファージ（以下単にファージと略記す）は，分子遺伝学の主要な研究材料の一つである。 歴史的には，S.Benzer は，T₄ファージを用いた実験で，古典遺伝学における遺伝子概念を分子遺伝学の発展に対応したものとして，突然変異単位（ミュトン），組みかえ単位（レコン），機能単位（シストロン）などの新しい概念を提起した。	高２の２	321	貝沼喜兵
		生物Ⅱの分子遺伝学の授業では，枯草菌を用いた形質転換で「ＤＮＡが遺伝子の本体である」ことを実験で確認した生徒に，ファージを用いた実験で，ミュトン，レコン，シストロンなどの概念がどのような実験を根拠に提起されてきたかを検討する一連の学習を展開する予定である。 これらの実験指導のねらいは，ファージの遺伝学的特徴を具体的に理解すると共に，自然科学における実験のすすめ方（いわゆる探究の科学）を学習することも同時にとりあげている。 今後の一連のファージ実験の導入として，ファージ遺伝学の歴史とバクテリアと比較しながら，ファージの遺伝形質とその特徴を調べる実験を行なう。			
	理科第一分野（原子と分子）	物質の変化を理解するのに欠くことのできない概念である物質の粒子性を，多くの実験観察やモデルによって理解させる。ドルトンの原子説をささえた質量保存の法則，定比例の法則，倍数比例の法則の学習の終了した生徒に，簡単にできる実験によって物質が粒子の集まりであるこの証拠を示す。更にステアリン酸によって，分子の大きさを知ることができることに気付かせる。説明には，ＯＨＰや簡易アナライザーを利用してみたい。	中２のＣ	311	福岡久雄
保	器械運動（鉄棒）	都市の青少年の体力は形態の優位性に比較して必ずしも高いとはいえない。本校においても身長は全国平均より高いが，懸垂力は低いのが現状である。器械運動は生徒にとって諸運動の中では好ましくない種目の代表的なものであ	高１の１	グランド	深野　明

健		るが，基本の技術を修得する中で，上腕の筋筋力の向上が求められるのか，求められるなら好ましくない種目でも体育のねらいから生徒に課する意義も一面からは必須ではないかと考え，科学的に授業を研究していくわが校の方針の一つとしてとり上げた。また，器械運動は好きではないが，課題に対して積極的に参加する意欲と成功感，ならびに自主的に参加，協力する態度を授業分析と併せて研究していく。			
体育	体操（トレーニング）	発育発達の最もさかんな時期にあたる生徒に適切な運動刺激を与えることは，この発育発達を促すためにも重要なことである。本単元においては，種々のトレーニング機器，設備を用いて，生徒の体力の向上をめざすものである。特に本単元では，生徒の発育発達の状況を考え，筋力，平衡機能，全身持久力，瞬発力を中心に体力をとらえてゆく。また同時に，運動時の心拍数，筋電図，呼吸曲線，フォーム等の測定を通じて運動時の人体のしくみに関する理解を深め，体力測定を通じてトレーニングの効果，今後の各自の運動処方について考えさせようとする。	中３のＣ	トレーニング室	久保正秋
技芸	イタリヤ民謡	喉を良く鳴らして声を出すことにより，より良いピッチを得させ，又良いピッチでの声の合わせによる明るく濁りのないハーモニーを作る。イタリア民謡を喉を充分鳴らして歌い，原語と日本語訳での声帯の鳴り様と，どちらの言葉がその歌と声・メロディーがピッタリするかを感じさせる。そこからメロディーと言葉との関係等を考える。	中３のＢ	535	遠藤正之
英語	関係代名詞	中学において学習した関係代名詞はwho,which,that にとどまり又非制限用法や継続用法其他 what 等を用いる用法は学んでいなかった。今回高校段階において教科書に出て来る問題を通して中学課程に出て来る用法や上述の "what" を始め前置詞＋関係代名詞をふくめた関係代名詞一般にわたる用例を展開し生徒の広い理解を目ざして行きたいと思っている。尚教材としては教科書の補充問題及び其他の教科書も参考資料にした。	高２の３	238	赤引守光
	Step 13 (Total English Book II)	(1)「落穂拾い」「晩鐘」などの絵をかいたことで有名なフランスの画家ミレーの生涯を読ませ，ミレーの生い立ちと当時のフランス画壇の状況の一端を理解させると同時に，彼の作品を鑑賞させることにより情操教育の一助とする。 (2)既習のwhen に導かれた副詞節を含む複文を復習し，新出のthat に導かれた名詞節を含む複文（Ｓ＋Ｖ＋that 節）を導入し，この文型をpattern practice により訓練して習熟させ，さらに応用作文ができるところまで徹底指導する。 (3)米人吹き込みのテープ教材（自作）を用いて，hearing とspeaking の訓練を行う。	中２のＡ	422	大西光興

6．研究協議会主題（11月25日㈮ 午後）

教　　科	主　　題
国　　語	中学から高校への古典教材のつながり
社　　会	歴史的分野(中)，世界史(高)を素材とした中高社会科教育の関連について
数　　学	創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的研究
理　　科	本校生徒の理科学習状況について
保健体育	体育における学習内容教育方法の科学化とその六ヶ年一貫カリキュラムの生徒の発育発達に及ぼす影響
芸術・技術	芸術科における合同授業の研究と実践
英　　語	中高一貫カリキュラムとそれに応ずる教材の開発の研究

7．ユネスコ問題提起

1．日　時　11月26日㈯　午前10時～10時40分

2．場　所　中学図書室　531号室

3．内　容　ユネスコの新しいあり方

4．担当者　本校教官　城　戸　一　夫
　　重　松　樫　三

8．講　演　会

1．日　時　11月26日㈯　午前10時50分～12時20分

2．場　所　中学図書室，531号室

3．演　題　世界史の流れと教育

4．講演者　前文部大臣　永　井　道　雄

3．

研究主題　中・高を見通した新しい教育を考える
――主体性をのばす教育の科学的基礎研究――

――教科研究発表会(11月17日(金))――

5．全体会（11月17日(金)10：00～10：20，於中学図書室）

開会の挨拶……学校長　山　澤　新　吾

全体研究計画の説明……研究部長　長　野　　東

6．公開授業（11月17日(金)10：30～12：20 第一校時 中学・第二校時 高校）

教科	単元	要旨	学年・学級・教室番号	担当者
国語	文語文法	動詞または形容詞・形容動詞	中3のB・218	松井一夫
	古文	平家物語または伊勢物語	高1の1・228	石田城之助
社会	立憲政治の開始	自由民権運動の実態と性格	中2のA・224	坂根義久
			高3の3・234	〃
数学	発展性のある授業	数学科では，ゆとりある教育をめざして教材の精選化，中・高一貫教育の中での重複教材を統一的に系統的に再編成し，時間的制限をゆるやかにしたいと思っている。このような状況下でいままで評価されなかった面，数学の学力到達度以外の数学的な能力，たとえば一般化の能力，発展的な思考力，さらには創造性の面にも目を向けて教材の再編成を行ない，そうした教材の一つを選んで実験・実証のための授業を公開してみたいと思っている。	中1のB・221	喜多耕作
	〃		高1の4・211	栗原幹夫
理科	気体の密度	真空ポンプを使って，空気の重さを測定し，空気の密度を求める。次に二酸化炭素や水素が，同体積の空気に対して重いか軽いかを実験によって調べる。	中1のC・331	巻島三郎
	波とは何か		高2の3・331	大道　明
保健体育	長距離走4000m	身体諸機能のうち心肺機能は最も基本的なものであり，かつ生活とも結びつきの深いものである。長距離走はこの心肺機能を高めることによって全身持久力をつけるものであり，発育発達の途上にある生徒にとって長距離走はまことち意義の高いものである。本校においては，中学生4000m，高校生8000mのロードレースを単元のまとめとして行なっているが，授業の中ではまず各人の持久力の評価を行ない，能力に応じた運動量を設定し，中1は12時間，高1は16時間の中で安全かつ効率よく全身持久力を身につけられるようにする。	中1のA 旧東京教育大学農学部	小沢治夫
	長距離走8000m		高1の2 旧東京教育大学農学部	川畑栄一
芸術・技術	木材加工	部品加工を終えたものを十分に注意して接着剤(ボンド)，釘を用いて組立てさす。はじめて学習する木材加工なので釘はつぶし釘として，上手に組立てできるようにする。	中1のB・515（第2校時）	岡村　彰
外国語	副読本を教材にした授業	副読本を用いての週2時間の授業をどのように進めればよいか。教科書との関連，高校への連係を意識しながらの本校の生徒を対象にした一つの模索である。	中3のA・238	久保木清
	簡易アナライザーを用いた授業	リーダーの授業の中でQuestions & Answersや作業をさせる場面に簡易アナライザーを用いて生徒からのフィード・バックを充分に得られるような授業を試みる。	高2の2・225	加藤裕司

7．研究協議会（11月17日(金)13：10～16：00）

教科	主題，内容	助言者（予定）	司会者（本校教官）	その他
国語	「中学から高校への古典教材のつながり」調査に基づく生徒の古典学習に対する意識について，古典教材(古典学習)の在り方について話し合いたい。	筑波大学助教授 松山芊一	日野得陸	13：30より日本近代文学館見学
社会	①「授業研究」中・高の連関をふまえた歴史教育について ②「本校生徒の社会認識について」		小澤正晴	
数学	「公開授業のパネルディスカッション」	筑波大学教授 古藤　怜	佐近　良	
理科	①「公開授業の批評会」 ②「理科学習調査発表」（科目別）	筑波大学助教授 重松櫻三	福岡久雄	
保体	「体育における学習内容教育方法の科学化とその6ヶ年一貫カリキュラムの生徒の発育発達に及ぼす影響―その2―」		深野　明	
技芸術	「日本芸術の源流 ―― 芸術科合同授業の研究と実践」	筑波大学教授 林　良一	佐野　清	
外国語	①「公開授業批評会」 ②「現行高等学校検定教科書の研究」	筑波大学助教授 浅野　博	五味貞二	

――教科外研究発表会(11月18日(土))――

8．1．教育課程研究協議会

日　時　11月18日(土) 9：30～11：00

場　所　会議室

担当者　本校教官　深　野　　明

2．生活指導研究協議会

日　時　11月18日(土) 9：30～11：00

場　所　中学図書室

担当者　本校教官　牛　田　英　一

9．講　演　会

1．日　時　11月18日(土) 11：00～12：30

2．場　所　中学図書室 531号室

3．演　題　教育権に関して（仮題）

4．講演者　都立大学教授　兼　子　　仁

3．

研究主題　中学・高校六ヵ年教育の推進
——基礎能力の研究と教育方法の探究——

4．日　程

	九:三〇	十:〇〇	十:三〇	十一:一〇	十三:一〇	十六:〇〇
10月19日(金)	受付	全体会	公開授業		昼休	教科別研究協議会

	九:〇〇	九:三〇	十一:〇〇	十二:三〇
10月20日(土)	受付	教科外研究発表会	講演会	

——教科研究発表会(10月19日(金))——

5．全体会（10月19日(金)10：00～10：20，於中学図書室）

開会の挨拶……学校長　山澤新吾

全体研究計画の説明……研究部長　佐近　良

6．公開授業（10月19日(金)10：30～12：20 第一校時 中学・第二校時 高校）

教科	単元	要旨	学年・学級・教室番号	担当者
社会	西ヨーロッパの農業	西ヨーロッパの農業を，作物や経営の特色などでとらえさせ，進んだ農業地域とおくれた農業地域を比較させる。ECの農業問題についてもふれるようにする。	中2のB 521	神藤邦芳
	「資本主義の発展と農業地域の形成」	ヨーロッパを中心に農業の地域性が形成された過程をとりあげ，世界の農業学習への視点を深める。	高1の2 521	岡本忠篤
数学	方程式の解法 一元一次方程式	中・高6ヵ年を通して方程式の概念は代数の基本概念であり，解法の基本は逆演算である。したがって，逆演算の考え方で6ヵ年の教材を見通して，体系的な思考の発展をはかりたい。	中1のA 221	深瀬幹雄
	微分方程式		高3の4 214	長野　東
理科	長瀞の岩石と地質構造	埼玉県長瀞の野外学習にそなえてルートマップのつくり方，長瀞に産出する岩石，地質構造等について学習する。	中3のC 411	福岡久雄
	クリノメーターの構造と取り扱い	クリノメーターを用いての野外実習は高校地学の分野に属するが，高3では野外実習が実施できないので，中3で実施する。そのために，その構造取り扱いについて予め学習する。	中3のC 411	牛田英一
保健体育	サッカー	集団技能・試合に重点をおき，バスケットボールと対比させ学習することにより，サッカーの特性を体得していく。	中3のA グランド	入江友生
	剣道	基本動作（打つ・突く・かわす）から発展させ，相手の攻撃に応ずる等の対人的技能の技術的原理を相互作用の中から体得させる。	高1の1 武道館	大矢　稔

研究会－6

7．研究協議会（11月19日(金)13：10～16：00）

教科	主題内容	助言者(予定)	司会者(本校教官)	その他
社会	① 公開授業のディスカッション ② 中・高6ヵ年における社会認識調査		城戸一夫	
数学	① 公開授業のパネルディスカッション ② 研究発表	筑波大学教授 古藤　怜 筑波大学助教授 能田伸彦	栗原幹夫	
理科	① 野外見学(長瀞)における指導について ② 理科学習調査	筑波大学助教授 重松恒三	大谷悦久	
保体	① 公開授業のディスカッション ② これからの体育の授業のあり方 ―新学習指導要領の具体化とその到達目標（試案）を中心として―	筑波大学教授 宇土正彦	深野　明	

——教科外研究発表会(10月20日(土))——

8．(1) ユネスコ研究協議会

日　時　10月20日(土) 9：30～9：50

場　所　中学図書室

担当者　本校教官　城戸一夫

(2) 生活指導研究協議会

日　時　10月20日(土) 9：50～11：00

場　所　中学図書室

主　題　本校生徒の学校生活におけるルール意識

担当者　本校教官　澤登岩尾

9．講演会

日　時　10月20日(土) 11：00～12：30

場　所　中学図書室

演　題　中学生・高校生の心身の発達について

講演者　筑波大学教授(心理学系)　相川高雄

第 7 回　昭和55年度　教育研究会　(1980 / 10 / 17)

3．

研究主題	基礎能力の探究と開発 ――中高一貫教育をふまえて――

4．日　程

	9.45	10.15	10.30	12.20	13.10	16.00
10月17日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

5．全体会（10.15～10.30，於各教科控室）

6．公開授業（第１校時10.30～11.20，第２校時11.30～12.20）

教科	単　元	要　　旨	学年・学級・教室番号	担当者
国語	詩歌の鑑賞	俳句入門「小春日や石を噛み居る赤蜻蛉」 俳句の表現上の特色を知り，俳句に対する興味を持たせる。	中１のB・423	石川祐永
	詩歌の鑑賞	俳句の鑑賞 俳句の表現上の特色と鑑賞法を理解させる。	高２の１・228	
音楽	合唱に慣れる	簡単な２部合唱により，良い響きへの方向づけと，合唱の基礎的なことがらを練習する。	中１のA・535	遠藤正之
	合唱の基礎練習	発声・簡単な２声部練習曲により，各音程の正確な響きを得る練習と，小曲の練習・仕上げをする。	高1の選択・535	
外国語	現在完了	いわゆる４技能のうち，家庭学習に任されることの多いwriting にやや比重をかけて，現在完了の用法を身につけさせる。	中２のB・238	中村　豊
	英字新聞を使った英作文の指導	アサヒイブニングニュースの天声人語の訳を読んで読解力をつけると同時に，その中にある英作文として利用できる文型をひきだして，英作文の指導に使う。	高２の２・238	辻　弘

7．研究協議会（13.10～16.00）

教科	主　題，内　容	助言者（予定）	司会者（本校教官）
国語	「中・高六ヶ年を見通した現代国語の指導体系について」多くの問題をかかえている「現代国語」を，教材・授業形態・生徒の意識などの面から見直し，その望ましい姿を追求して「現代国語」の指導体系の確立をめざす。		柾　繁
音楽	芸術科の合同授業の研究と実践 ―民衆芸術について―	福岡教育大学講師 岩崎　洋一	岡村　彰
外国語	六ヶ年一貫教育のためのカリキュラム編成		久保木　清

第 8 回　昭和56年度　教育研究会　(1981 / 10 / 29)

3．

研究主題	基礎能力の探究と開発 ――中高一貫教育をふまえて――

4．日　程

	9.45	10.15	10.30	12.20	13.10	16.00
10月29日(木)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

5．全体会（10.15～10.30，於各教科控室）

6．公開授業（第１校時10.30～11.20，第２校時11.30～12.20）

教科	単　元	要　　旨	学年・学級・教室番号	担当者
数学	整数の性質	文字式を利用して，約数・倍数の性質を考えさせる。	中１のB・211	中野次郎
	ベクトルの応用	ベクトルを用いて平面幾何・立体幾何の定理・性質を考える。	高１の１・211	佐藤和孝
理科	生物の種類と生活	微生物の観察（プレファリズマ），収縮胞，大核・小核（生体染色による）。	中１のC・321	石川秀樹
	物質の変化	塩の加水解離（中和と中性の区別から，酸性，中性，アルカリ性を示す塩をとり上げ，加水解離について理解させる。	高１の３・314	大谷悦久
保健体育	陸上競技	酸素摂取量，負債量等と"走"との関連を，実験を通して理解させ，また効率よく走れる短距離のフォームを練習させる。	中２のC・グランド	入江友生
	サッカー	中学で学んできた個人的基礎技能を生かして，対人プレーの理解と，その練習をさせる。	高１の４・グランド	小沢治夫

7．研究協議会（13.10～16.00）

教科	主　題　・　内　容	助言者(予定)	司会者
数学	中・高一貫教育のためのカリキュラム編成等		栗原幹夫
理科	学習調査と，それにもとづく学習カリキュラム	東京農大教授 糸松保三	大道　明
保健体育	中・高一貫６か年カリキュラムの編成 ６か年カリキュラムの試案（改訂版）と，それらを作成するに当っての研究成果のいくつかを紹介し，それらについて討議する。		深野　明

研究会-7,8

3．

研究主題	基礎能力の探究と開発 ――中高一貫教育をふまえて――

4．日　程

	9.45	10.15	10.30	12.20	13.10	16.00
10月15日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

5．全体会（10.15～10.30，於各教科控室）

6．公開授業（第１校時10.30～11.20，第２校時11.30～12.20）

教科	単　元	要　　旨	学年・学級・教室番号	担当者
国語	表　現	民話「玉取り姫」を教材にして，初歩的な批評文を書いた上，グループ内で添削し，さらに発表を通してその展開を図る。	中２のC・411	塚田泰彦
	唐　詩	(1)文学作品としての漢詩を味わう　(2)漢詩の型式理解 (3)特に詩に於ける技巧の意味を対句表現を中心にしてとらえる。	高１の１・228	塩谷　健
社会	中・南アフリカ	"貧困の大陸" と呼ばれるアフリカは，生徒の意識において遠い国であり，誤解に満ちた地域である。このアフリカ大陸の貧困の原因を解きほぐし，かつ，そうした現状の中で，逞しく生きている人びとの姿を明らかにする。	中１のB・521 高１の２・521	小林　汎 岡本忠篤
技術・家庭	園芸植物のふやし方（挿し木繁殖）	樹木類の殆ども簡単な植やし方として挿し木による繁殖を扱い，時期・方法などについても生徒に理解させるとともに，実際に挿し木をさせる。	中１のC・611	岡村　彰
英語	受動態	教科書による授業。受動態の効果的な導入のしかたを考える。	中２のB・421	加藤裕司
	Do You Know This？	普段のままの授業をご覧いただきます。パラグラフごとに，新出文法事項および新語を，豊富な例題でよく理解させた上で，要旨→細部の順で中味を吟味。中味を把握した上で，読みの練習……と授業は進みます。	高１の３・235	中村　豊

7．研究協議会（13.10～16.00）

教科	主　題　・　内　容	助言者(予定)	司会者
国語	現代国語への生徒の意識と，カリキュラム編成について		柾　繁
社会	最近の中・高校生の社会認識の現状――社会認識調査にもとづき，最近の中・高校生の社会認識の現状と問題点を明らかにし，社会科学習のあり方を検討する。		城戸一夫
技術・家庭	勤労にかかわる体験学習――"生産的学習を中心にして"―― 近年勤労にかかわる体験学習がとりざたされているが，本校では開校以来ずっと継続して水田でのイネ栽培を主体にして実施している。この経過などを中心にし生産的体験学習について発表する。		佐野　清
英語	英語Ⅰ，英語Ⅱの教科書における文法の扱い方		大西光興

研究会－9,10

3．

研究主題	基礎能力の探究と開発 ――中高一貫教育をふまえて――

5．全体会（10.15～10.30，於各教科控室）

6．公開授業（第１校時10.30～11.20，第２校時11.30～12.20）

教科	主　題	要　　旨	学年・学級・教室番号	担当者
数学	数学的能力の反応調査	マイクロ・コンピュータのネットワークを利用した授業分析システムを用いるデモンストレーションを行う。 〔ねらい〕学習指導の中でネットワークを利用することによって，どのような指導が可能であるかを検討したい。	(中２の予定) 中・図書室 (531)	喜多耕作
理科	運動量と力積	物体に撃力が作用する場合，運動方程式から運動を解析することは難しい。この場合運動の第３法則を前提にすることによって物体系の運動量が保存することが説明できる。このことを理論的に説明すると同時に実験的に確認する。	高２－１ 物理実験室 (331)	大道　明
	ＡＴＰの生理的機能（理科Ⅰ生物分野）	ＡＴＰは酸化的リン酸化と共役して生成しもろもろの生活現象に直接エネルギーを供給しＡＤＰとH_3PO_4に酵素的に分解される。しかしこの重要なＡＴＰも，その役割を確める実験が少ないこともあって，その生理的機能を生徒に理解させることは容易ではない。そこで原形質流動を停止したシャジクソウにＡＴＰを投与すると原形質流動を回復する実験を通してＡＴＰの生理的機能を理解させる実験をとりあげてみる。	高１－１ 生物実験室 (321)	貝沼喜平
保健体育	剣　道	まとめの段階としての試合（簡易試合）のあり方について考える。	高２－２ 剣道場	大矢　稔
	バスケットボール	中学ではじめてバスケットボールの授業を受ける生徒に，判断力・決断力・集中力を中心に，心理的な指導をふまえたグループ学習を展開する。	中２－Ａ 体育館	入江友生

7．研究協議会（13.10～16.00）

教科	主　題　・　内　容	助言者(予定)	司会者
数学	上記のねらいを生かせるための経験交流及びネットワークシステムに対する研究協議		茶原幹夫
理科	中学校の理科学習について（第２報）―地学分野の野外実習の実践（神奈川県三浦市・城が島） さきに「中学校の理科校外学習について―埼玉県長瀞」(1979) を発表したが，中学校では1979年実施の指導要領で変成岩を扱わなくなった。そこで変成岩中心の学習をした長瀞に代えて，地層の観察と実習に通している城が島で実習を行った。実習方法とその指導法，生徒レポートの分析・実習についてのアンケート分析などを報告する。		福岡久雄
保健体育	形態と体力・運動能力との相関について スポーツ・テストは，発育発達期における生徒の運動機能を，個人的・集団的に評価する点で重要な役割を果している。しかしながらこのテストの評価は絶対値によるものであり，この時期の生徒については形態との関連についても併せて考慮することが教育指導上にも必要ではないかと思われる。このような観点に立って，形態と体力・運動能力の関係について調査したところ，２・３の結果を得たので，これらについて報告・協議をする。		小沢治夫

第11回　昭和59年度　教育研究会　(1984/10/12)

3.

研究主題	基礎能力の探究と開発 ――中高一貫教育をふまえて――

4．日　程

	9.45	10.15	10.30	12.20	13.10	16.00
10月12日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

5．全体会（10.15～10.30，於各教科控室）

6．公開授業（第1校時10.30～11.20，第2校時11.30～12.20）

教科	主題・要旨	学年・学級	担当者
国語	小説「トロッコ」（第1校時）	中1－A	石川　祐爾
	小説「山月記」（第2校時）	高2－1	高木　展郎
社会	「国際平和と日本」（第1校時） 現代社会における平和の問題について	中3－B	小沢富士男 ~~小林　汎~~
	「平和教育」（第2校時）	高2－3	林　幹一郎
芸術・技術	「音楽教育」（第2校時）（第2校時） スコアに慣れ，鑑賞曲により深く親しむことを目標に，スコアを追いながらヴィヴァルディ作曲「四季」を鑑賞する。また「春」の一楽章の旋律を軸に，グループ毎にソプラノ・リコーダー2部用の譜を作り，そのグループにより演奏してみる。	中1－A	遠藤　正之
英語	「語彙力の向上をめざして」（第1校時）	中3－A	辻　弘
	「読解の養成に重点をおいた授業」（第2校時）	高2－2	稲岡　信之

（芸術・技術は第2校時のみ実施します。）

7．研究協議会（13.10～16.00）

教科	主題・内容	担当者	司会者
国語	「中・高6か年を見通した現代国語の教材編成」（小説） ――実践と検討	鈴木　信好	征　紫 塩谷　健
社会	「社会認識調査にもとづく社会科総合学習のための試案」 ――平和教育を主題として	岡本　忠翔 増渕　徹 小沢富士男	小林　汎
芸術・技術	「芸術・技術科合同授業の実践と研究」についての研究経過とその成果・問題点。 また本年度の内容等について。	遠藤　正之	佐野　清
英語	「中・高6か年一貫教育による英語指導」 ――英作文の誤答分析を主題として―― 日本語にひきずられたおかしい誤りを分析する。	加藤　裕司	久保木　清

第12回　昭和60年度　教育研究会　(1985/10/11)

3.

研究主題	基礎能力の探求と開発 中高一貫教育をふまえて

4. 日　程

	9:45	10:15	10:30	12:20	13:10	16:00
10月11日（金）	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

5. 全体会（10:15 -10:30　於各教科控室）

6. 公開授業（第1校時 10:30 -10:20、第2校時 10:30 -12:20）

教科	主題・要旨	学年	授業者
数学	コンピューターネットワークを用いた授業例		
	(1) 立方体の切断 立方体を切断することを通じて、空間図形における直感力を養うことを目的とする。	中学1年	吉井　洋二
	(2) 平面図形の変換 簡単な平面図形を変換することを通じて、一次変換の性質について考察をする。	高校2年	磯田　正美
体育	心拍反応からみた体育の授業の分析 本校における体育の授業を運動の強度から調査し、その内容の検討を行なう。また公開授業での生徒の心拍反応もとらえ研究の材料としたい。		
	(1) 陸上競技 短距離走と幅飛び	中学1年	入江　友生
	(2) サッカー	高校2年	小沢　治夫
理科	(1) 落体の運動 重力のはたらきによる落下運動（放物線運動を含む）の様子をストロボ写真を使って調べる。	中学2年	濱本　悟志
	(2) 造山運動 造山運動の証拠を示す断層、湾曲等について簡単なモデルを使用して、その形成のプロセスとメカニズムを理解させる。	中学3年	高橋　宏和

7. 研究協議会（13:10 -16:00）

教科	主題・内容	担当者
数学	創造性を伸ばす教材と指導法の実践的研究 1. コンピューターを用いた授業について 2. 本校数学科の研究報告とその討議	数学科一同 司会　佐藤　和孝 記録　熊倉　啓之
体育	本校生徒の体力と授業内容の検討 本校生徒の体力は入学時点でみると全国平均に比べても劣っている。これを平均的な体力に向上させるにはどのようなカリキュラムが必要か？本校生徒の体力の実態と授業の運動の強度などの点から、協議したい。	体育科 司会　岡崎　勝博 記録　入江　友生
理科	理科学習調査にみる生徒の学力についての検討 化学 酸化・還元・中和について 生物 生物Ⅰ・Ⅱ当時と理科Ⅰ以後の比較について 物理 力学について	報告者 大谷　悦久(化学) 貝沼　喜兵(生物) 濱本　悟志(物理) 司会　大道　明 記録　石川　祐爾

研究会－11.12

3.

研究主題	基礎能力の探究と開発 — 中高関連教育をふまえて —

4. 日　　程

9.45	10.15	10.30	12.20	13.10	16.00
10月16日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会

6. 公開授業（第１校時　10:30～11:20、第２校時　11:30～12:20）

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
国語	中・高６ヶ年を見通した現代国語の教材編成（小説）	宮沢賢治『注文の多い料理店』	「基本的な読みの要素」としての「構成」から、生徒にストーリーの展開の面白さを味わせる。	中学２年	石井正己
		夏目漱石『こころ』	「基本的な読みの要素」として取り上げた「人物・構成・描写」の三要素を柱に、作品全編の読みを行う。	高校３年	高木展郎
社会	平和教育を軸とする社会科教育の展開（歴史分野）	近代日本の対外認識	明治期の言論活動の事例等を通して、近代日本人の対外認識、とくにアジア認識の系譜をたどる。	中学２年	増源　徹
		アジアの民族運動と大正デモクラシー	日本の対外政策が呼び起こした五・四運動、三・一運動の実態をおさえながら、日本のデモクラシー思想のあり方を考察させる。	高校３年	宮崎　章
英語	The New Crown English Series Revised Edition, Book Ⅲ, Lesson 10 "Humor"		(1)英国人のユーモアの感覚を小話を通じて理解させる。 (2)It is～to- 不定詞とso～that～の構文、及び既習の文型を用いて簡単なストーリーを作らせ口頭で発表させる。	中学３年	大西光興
	四技能に配慮した授業例		英語１の授業でも、中学時代同様に「聞く・話す・読む・書く」の全般にわたる展開が望ましいが現実にはなかなか難しい。この程度ではどうであろうかという、日頃のささやかな実践例のひとつである。	高校１年	久保木清

7. 研究協議会（13:10～16:00）

教科	主題・内容	担当者
国語	中・高６ヶ年を見通した現代国語の教材編成（小説） ３年前、小説の基本的な読みの観点を設定し、それをもとに中・高６ヶ年を見通した現代国語（小説）の教材編成を行った。その後３年間の試行・実践・検討を経て、一応の結論を得た。本年は、その過程を中心に発表する。	発表　石川祐樹 司会　塩谷　健 記録　鈴木　信好 他、国語科教官
社会	平和教育を軸とする社会科教育の展開 (1)社会科における平和教育の位置づけ (2)現状認識（現代社会、地理、公民、政経）における展開例 (3)歴史認識（中学歴史、世界史、日本史）における展開例	発表　小林　汎 司会　増源　徹 記録　小澤富士男 他、社会科教官
英語	中・高６ヶ年関連教育による英語指導 英語による表現力の育成を目指して、特に過去２年間にわたる誤答分析を基にした調査研究を土台にし、本校英語科が作成した教材を授業で使用して、どのような成果と問題点が表われたかを発表したい。	発表　長谷川和則 司会　福岡　信之 記録　中村　豊 他、英語科教官

研究会－13.14

3.

研究主題	基礎能力の探究と開発 ——中高関連の教育をふまえて——

4. 日　　程

9.45	10.15	10.30	12.20	13.10	16.00
10月16日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会

5. 全体会（10:15～10:30、於各教科控室）

6. 公開授業（第１校時 10:30～11:20,　第２校時 11:30～12:20）

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
数学	図形学習におけるコンピュータの利用および，美術科との連携の試み	合同変換（図形の移動）	コンピュータ利用のさまざまな可能性を探りながら，合同変換の視点からの図形の移動の授業を行い，美術科のデザイン学習へとつなげる。	中学２年	井上　正允
美術	数学科との協力による，デザイン学習における教材の取り扱いの試み	デザイン「ハンカチの制作」	数学科の図形の授業をふまえ，アイロンプリント技法を用いてハンカチのパターンによるデザインを行なう。	中学２年	土井　宏之
理科	ケイ酸塩鉱物とケイ素化合物	造岩鉱物	カンラン石を例として岩石中の造岩鉱物の形と内部構造について理解させる。	中学３年	高橋　宏和
		ケイ素とその化合物	二酸化ケイ素，ガラスを中心にケイ素の化合物について考察する	高校２年	大谷　悦久
保健体育	運動技能に応じた個人目標，集団目標の設定に関する試案	陸上運動	短距離走，跳躍における個人目標とその練習法	中学１年	入江　友生
		サッカー	チーム編成とゲームの運営法	高校２年	合田　浩二

※数学と美術は合同で行うため第１校時は数学，第２校時は美術の授業となる。

7. 研究協議会（13:10～16:00）

教科	主題・内容	担当者
数学	（前半）数学科と美術科の協力によるカリキュラムの検討	発表　井上正允 土井宏之 司会　熊倉啓之 記録　岡村　彰 鈴木清夫 他，数学科，技術芸術科教官
	（後半）情報化社会に対応した教材と指導法の研究	発表　佐藤和孝 司会　熊倉啓之 記録　鈴木清夫 他，数学科教官
美術	（前半）（数学科と合同）	
	（後半）フリーディスカッション （本校の美術教育の現状，他）	発表　土井宏之 司会　遠藤正之 記録　岡村　彰
理科	中・高６ヶ年カリキュラムを提示し，検討する。	発表　大谷悦久 他３名 司会　大道　明 記録　貝沼喜兵
保健体育	特別配慮生徒の指導について 身体活動の制限とそれに応じた種目別の運動処方の検討	発表　入江友生 司会　深野　明 記録　小沢治夫 他，保健体育科教官

3.

研究主題	基礎能力の探究と開発 ―― 新しい中等教育のあり方をめざして ――

4. 日　程

		9:20	9:50	10:30	12:20	13:30	16:30
〈第1日〉	11月25日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

		9:30	10:00	11:30	12:00
〈第2日〉	11月26日(土)	受付	講演	全体会	

5. 全体会（第1日　9:50～10:30，於オープンスペース 7号館3F）

6. 公開授業（第1日 第1校時 10:30 ～11:20，第2校時 11:30～12:20）

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
国語	中高6ヶ年を見通した現代国語の教材編成 －説明的文章・論説・評論－	ひろがる砂漠 (赤木昭夫)	砂漠はどのようにして作られるか	中学2年	関口隆一
		日本文化の雑種性 (加藤周一)	日本の文化的特質についての分析・主張	高校1年	鈴木信好
社会	開発と環境	琵琶湖とその利用	琵琶湖の多角的な利用と環境保存の問題を中心に暮しと開発を考えさせる	中学2年	岡本忠篤
	民衆と社会	ラテンアメリカ －社会と民衆－	累積債務・軍事クーデターに象徴される顔と、その中でたくましく生活する民衆の顔を対比しながらラテンアメリカの実像に迫る	高校1年	小林　汎
英語	生徒の自己学習能力を育てる英語教育をめぐって	NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 (三省堂) Lesson 10 "Paul Bunyan"	物語教材を使った時、その内容を理解し、かつ話の面白さを味わうことが指導の目標としてあげられる。これと、いわゆる4技能の育成指導とのバランスのとれた授業展開を考えたい	中学3年	長谷川和則
	物語の読解	Main Stream II (増進堂)	英語II〈内容把握を中心にした授業〉	高校2年	熊井信弘

7. 研究協議会（第1日 13:30～16:30）

教科	主題・内容	担当者
国語	(前半) 公開授業に関する討論 (後半) 中高6ヶ年を見通した現代国語の教材編成 ―― 説明的文章・論説・評論 ――	発表　関口　隆一 鈴木　信好 石井　正己 司会　塩谷　健 記録　須藤　敬
社会	「平和教育の一環としての開発教育への取り組みについて」 ・平和教育のあり方の再検討 ・開発教育の位置づけ―― 単なる政府間レベルでの開発援助に関する教育的補完としてではなく、何よりも「自己開発」としての教育のあり方への展望 ・開発教育の実践に関する試案　その他	発表　城戸　一夫 司会　岡本　忠篤 記録　増渕　徹
英語	中・高一貫教育における英語教育の実践〔語いの指導〕 ―― 駒場Picture Dictionaryの作成について ――	発表　長谷川和則 久保野雅史 司会　辻　弘 記録　稲岡　信之

8. 講　演（第2日 10:00～11:30 於オープンスペース・7号館3F）

「青年期の発達課題と教育
― 生徒にとって教育の自由とは何か ―」
講　師　堀尾輝久 先生（東京大学教育学部長）

（注）この年より 回数を表記する

3. 研究主題

「新学習指導要領と中高一貫教育を見通した
カリキュラムの再編成
――明日を創造する生徒のための，教育と学習の主体性の確立をめざして――」

＜主題設定の趣旨＞

(1) 新学習指導要領の検討と本校のカリキュラム再編
本校の教育成果を継承しつつ，新学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラムの再編を検討する。

(2) 中高一貫（関連）教育の再検討
発達段階に応じた全学年，とりわけ中学3年と高校1年のカリキュラムおよび生活指導上の位置づけの再検討を通して，中高一貫（関連）教育の整合性を高める。

(3) ＜情報化時代＞の教育と学習への対応
電算機スペース・図書スペース・オープンスペースを主体とする新館（7号館）の効果的利用を検討し，＜情報化時代＞の教育の核とするとともに，教材の開発に取り組む。

(4) ＜国際化時代＞の教育と学習への対応
各教科と教科間における＜国際化教育＞の導入と推進をめざし，教材の開発に取り組む。

5. 全体会（第1日 9：50～10：30，於オープンスペース＝7号館3階）

6. 公開授業（第1日 第1校時 10:30～11:20，第2校時 11:30～12:20）

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
数学	コンピュータを利用した創造的教材作成と指導法の試み	一次関数	一次関数・図形の総合的課題を取り上げ，コンピュータのシミュレーション的利用の可能性を探る。	中学2年	熊倉　啓之
		複素平面の一利用	複素数平面の応用として，ビリヤードの3クッションゲームを取り上げ，コンピューターシミュレーションによる導入を試みる。	高校1年	吉井　洋二
理科	微生物を用いた遺伝の学習（微生物の教材化）	一遺伝子一酵素説	遺伝学の発展の歴史の中で，Beadle と Tatum (1941) の提唱した"一遺伝子一酵素説"を，アカパンカビの栄養要求性変異株の観察を通して指導する。さらにその後の発展を明らかにし，高2の選択生物での分子遺伝学の学習と関連付ける。	高校1年	貝沼　喜兵
		枯草菌の形質転換	高1の遺伝の学習を発展させ，『DNAが遺伝子の本体である』ことを，枯草菌を用いた形質転換実験で証明する。そして，その後のファージ実験・組換えDNA技術の実験との関連を明らかにする。	高校2年	石川　秀樹
保健体育	体育	発育発達段階におけるトレーニング	トレーニング	これまでの道具を用いないトレーニングから，フリーウェイトあるいはマシンを用いたトレーニングによる体力づくり。	中学2年	小沢　治夫
	保健	「授業書」方式による「薬物使用」の教材化	「薬とのつきあい方」	日常の薬の使用方法をとらえ直すなかで，薬の性質について考察する。	中学3年	岡崎　勝博
音楽		演奏比較と，指揮とその役割について	鑑賞（ベートーベン作曲・交響曲第5番）	数名の指揮者による演奏の聴き比べを行い，指揮とは，また演奏とは何かを考える端緒とする。	中学 ~~高校~~ 2年	遠藤　正之

7. 研究協議会（第1日 13:30～16:30）

教科	主題・内容	担当者
数学	コンピュータを利用した創造的教材・指導法の研究	発表 佐藤和孝 吉井洋二 熊倉啓之 司会 井上正允 記録 駒野誠 他，数学科教官
理科	＜前半＞ 高校生物における微生物の教材化 アカパンカビ（高1遺伝） 枯草菌・ファージT4・組換えDNA（高2選択）	発表 貝沼喜兵 石川秀樹 司会 濱本悟志 記録 菊池淳
	＜後半＞ 本校の理科教育における視聴覚教材の活用状況	発表 大道明 高橋宏和 司会 濱本悟志 記録 菊池淳
保健体育	＜体育＞ 発育発達段階におけるトレーニングについての検討 ＜保健＞ 「ストップモーション方式」による授業研究	発表 小沢治夫 岡崎勝博 司会 合田浩二 記録 入江友生
音楽	技術・芸術科合同授業の研究と実践	発表 遠藤正之 司会 土井宏之 記録 岡村彰

8. 講演（第2日 9:30～11:30 於オープンスペース＝7号館3階）

主題「新学習指導要領をめぐる諸問題」

「新学習指導要領と生活指導」（仮題）
講師　竹内常一 先生（國学院大学教授）

「新学習指導要領と学校経営」
講師　下村哲夫 先生（筑波大学教授）

3. 研究主題

「新学習指導要領と中高一貫教育を見通した
カリキュラムの再編成
――明日を創造する生徒のための，教育と学習の主体性の確立をめざして――」

〈主題設定の趣旨〉

(1) 新学習指導要領の検討と本校のカリキュラム再編
本校の教育成果を継承しつつ，新学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラムの再編を検討する。

(2) 中高一貫（関連）教育の再検討
本校全学年，とりわけ中学3年と高校1年のカリキュラムおよび生活指導上の位置づけの再検討を通して，中高一貫（関連）教育の整合性を高める。

(3) 〈情報化時代〉の教育と学習への対応
電算機スペース・図書スペース・オープンスペースを主体とする新館（7号館）の効果的利用を検討し，〈情報化時代〉の教育の核とするとともに，教材の開発に取り組む。

(4) 〈国際化時代〉の教育と学習への対応
各教科と教科間における〈国際化教育〉の導入と推進をめざし，教材の開発に取り組む。

4. 日　程

		9:20	9:50	10:30	12:20	13:30	16:30
〈第1日〉	11月16日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

		9:30	10:00	11:30	12:00
〈第2日〉	11月17日(土)	受付	講演	全体会	

5. 全体会（第1日 9：50～10：20，於オープンスペース＝7号館3階）

6. 公開授業（第1日 第1校時 10：30～11：20，第2校時 11：30～12：20）

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
国語	中高6ヶ年を見通した現代国語の教材編成（説明的文章・論説・評論）―実践と検討（その4）―	主題に基づいたカリキュラム編成案による授業実践の実例	日高敏隆「ちょうの飛ぶ道」構成を明確に把握しながら読みを進めてゆく。	中学2年	石堀　修
			中村光夫「日本人の知性」「構成」「主張」を中心に読みのポイントをとらえる。	高校2年	石川　祐爾
社会	地球社会と私たち	サラワク州の森林伐採と地球環境	熱帯雨林の消失と，その環境変化の中に生きる先住民の生活の変貌を，地球環境・日本人の生活を背景に考えていく。	中学3年	小澤富士男
	国際化時代の日本	外国人労働者の人権	日本の社会は，国際化時代に，外国人労働者をどう受け入れ，かれらの人権をどう扱っているのか。	高校2年	林　幹一郎
英語	身近な語彙の指導から Oral Communicationへ	New Horizon English Course "The Giving Tree"	名作の鑑賞とrecitation。登場人物の気持ちになって，内容を自分たちの身近な出来事に引き寄せて再構成する。	中学3年	久保野雅史
	全員参加の授業をめざして	Unicorn English course II Lesson 16 "Rediscovery of Our Home Planet"	宇宙時代の最大の発見は"the uniqueness of Earth"である点から，What is the Planet Earth? という問題を考えてみる。	高校2年	辻　弘

7. 研究協議会（第1日 13：30～16：30）

教科	主題・内容	担当者
国語	公開授業に関する討論，および中高一貫を見通したカリキュラム編成案（説明的文章，論説，評論）の検討	発表　関口隆一 司会　鹽谷　健 記録　須藤　敬 （他，国語科教官）
社会	公開授業に関する討論 「開発教育」の基本的な考え方に関する討論	発表　小澤富士男 司会　城戸一夫 記録　丸浜　昭
英語	中高一貫教育におけるＬＬ学習指導のあり方を探る。 公開授業はクラス・ルームを使っての授業になるが，本校で各学年にわたって展開されているＬＬ学習指導を紹介し，その効率的展開を探る。	助言　島岡丘教授 指導　（筑波大学外国語センター長） 発表　加藤裕司 司会　谷口幸夫 　　古賀敦子 記録　中村　豊 　　中村美穂

8. 講　演（第2日 10：30～11：30 於オープンスペース＝7号館3階）

主題「新学習指導要領をめぐる諸問題
――附属駒場に期待すること・期待しないこと――」

講師　山住正己教授（東京都立大学人文学部長）

3．研究主題

「新学習指導要領と中高一貫教育を見通した
カリキュラムの再編成
――明日を創造する生徒のための，教育と学習の主体性の確立をめざして――」

〈主題設定の趣旨〉

(1) 新学習指導要領の検討と本校のカリキュラム再編
本校の教育成果を継承しつつ，新学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラムの再編を検討する。

(2) 中高一貫（関連）教育の再検討
本校全学年，とりわけ中学3年と高校1年のカリキュラムおよび生活指導上の位置づけの再検討を通して，中高一貫（関連）教育の整合性を高める。

(3) 〈情報化時代〉の教育と学習への対応
電算機スペース・図書スペース・オープンスペースを主体とする新館（7号館）の効果的利用を検討し，〈情報化時代〉の教育の核とするとともに，教材の開発に取り組む。

(4) 〈国際化社会〉の教育と学習への対応
各教科と教科間における〈国際化教育〉の導入と推進をめざし，教材の開発に取り組む。

4．日　程

	9:20	9:50	10:30	12:20	13:30	16:30
11月15日(金)	受付	全体会	公開授業	昼休み	研究協議会	

	9:30	10:00	11:30	12:00
11月16日(土)	受付	講演		全体会

5．全体会（第1日　9：50～10：20，於オープンスペース＝7号館3階）

6．公開授業（第1日　第1校時　10：30～11：20，第2校時　11：30～12：20）

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
数学	授業におけるコンピュータの効果的な利用法を探る	アフィン変換	中学校の合同相似を中心としたユークリッド幾何から高校のベクトル，1次変換への飛躍にとまどう生徒は多い。そこでそのつなぎの教材としてアフィン変換をとりあげ，静から動へ，対象図形そのものだけでなく，図形がおかれた空間についても考察し，その中で，コンピュータの有効な利用を追求する。	中学2年	井上　正允
			だ円・双曲線・放物線の標準形の式をx，yの2次方程式ととらえ，2次曲線の分類		
			その発展として，一般のx，yの2次方程式がどのような図形を表すかを，コンピュータを利用したシミュレーション等を通して考察・分類する。	高校2年	鈴木　清夫
理科	振動現象とエネルギー	音で知る電磁誘導	磁界中でコイルに振動電流を流すと，コイルは振動する。この振動を箱に伝えると音がでてくる。これがスピーカーの原理である。反対に箱を振動させ，この振動を磁界内におかれたコイルに伝えると，コイルに振動電流が流れ，これを音として取り出すことが可能になる。これがマイクロフォンの原理である。ブライト磁石とエナメル線，ダンボール箱を用いてこの現象を示し，スピーカー・マイクについて，理解を深める。	中学3年	大道　明
		振動現象とエネルギー推移	我々の身近には多くの振動現象が見うけられる。高校の物理でも，単振り子，ばね振り子，弦や気柱の振動，電気振動と各分野で取り扱われている。高校課程を終了しようとしている高3の生徒を対象に，これらの振動の現象を系のエネルギーの推移に注目して，総合的に見つめ直していく。	高校3年	濱本　悟志
保健体	カリキュラム研究――年間4種目，2時間連続授業による専門的技能・技術の向上をめざした授業カリキュラムの試み	バスケットボール	ハーフコート3対3を中心に，コンバージョンを重点に置いた指導を行う。	高校1年	入江　友生
		サッカー	これまでの個人的・集団的技能の練習の成果を確認するためのリーグ戦の計画・実施の指導。		野井　真吾
		陸上競技	混成3種競技（55mハードル・三段跳・砲丸投）実践を通じた練習。授業中の代謝量の変化		合田　浩二

（うらに続く）

研究会－18

育		剣　道	とVO₂についての調査。 動きづくりの中での対人技能・技術の指導。		岡崎．勝彦

7．研究協議会（第1日　13：30〜16：30）

教科	主題・内容	担当者
数学	1．アフィン変換及び2次曲線の指導におけるコンピュータの利用についての検討	発表　井上正允 鈴木清夫 司会　深瀬幹雄 記録　城野正彦 （他，数学科教官）
	2．コンピュータを利用した教材，指導法の研究	発表　鈴木清夫 司会　深瀬幹雄 記録　城野正彦 （他，数学科教官）
理科	1．音で知る電磁誘導（中3） 振動現象とエネルギー推移（高3）	発表　大道　明 濱本悟志 記録　大谷悦久 （他，理科教官）
	2．理科校外学習（地学） 理科発表学習（生物）	発表　高橋宏和 石川秀樹 司会　貝沼喜兵 記録　大谷悦久 （他，理科教官）
保健体育	Komaba Growth Study (KGS) 発育発達期における体力・体構成についての研究報告	発表　小沢治夫 司会　合田浩二 記録　岡崎勝博 助言　福永哲夫 （東京大学） （他，保健体育科教官）

8．講演（第2日　10：00〜11：30　於オープンスペース＝7号館3階）

「能力主義の問題性をめぐって――現代社会と教育――」

講師　堀尾輝久　先生（東京大学教授）

2．研究主題

「新学習指導要領と中高一貫教育を見通した
カリキュラムの再編成
――明日を創造する生徒のための，教育と学習の主体性の確立をめざして――」

〈主題設定の趣旨〉

(1) 新学習指導要領の検討と本校のカリキュラム再編
本校の教育成果を継承しつつ，新学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラムの再編を検討する。

(2) 中高一貫（関進）教育の再検討
本校全学年，とりわけ中学3年と高校1年のカリキュラムおよび生活指導上の位置づけの再検討を通して，中高一貫（関進）教育の整合性を高める。

(3) 〈情報化時代〉の教育と学習への対応
電算機スペース・図書スペース・オープンスペースを主体とする新館（7号館）の効果的利用を検討し，〈情報化時代〉の教育の核とするとともに，教材の開発に取り組む。

(4) 〈国際化社会〉の教育と学習への対応
各教科と教科間における〈国際化教育〉の導入と推進をめざし，教材の開発に取り組む。

3．日　程

	9:20	9:50	10:30	12:20	13:30	16:30
11月20日(金)	受付	全体会〈1〉	公開授業〈2〉	昼休み	研究協議会〈3〉	

	9:30	10:00	11:30	12:00
11月21日(土)	受付	講演〈4〉		全体会

〈1〉全体会（第1日　9：50〜10：20，於オープンスペース＝7号館3階）

〈2〉公開授業（第1日　第1校時　10：30〜11：20，第2校時　11：30〜12：20）

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
国語	中・高6ヶ年の古典教材の研究	（中学） 御伽草子――中学古文教材としての可能性を探る――	中学古文は文語文法の体系的学習を経ずして教材と向き合わなければならない困難さが常につきまとう。一方で，生徒の古典学習に対する意識，古典学習の前提となるべき古典の素養が後退しつつある。そうした現状をふまえ，従来の中学古文教材を見直し，新たなる教材を採る試みとして御伽草子をとりあげる。今年度は『浦島太郎』を実施する予定。	中学2年	須藤　敬
		（高校） 『源氏物語絵巻』を利用した『源氏物語』の学習指導	日本を代表する古典文学である『源氏物語』を教室で読むことは，その難解さゆえに容易でない。その工夫として，『源氏物語絵巻』を取り入れてみたい。この絵巻は単に美術品として優れているだけでなく，物語をよく読み込んで表現しているからだ。残念ながら，現存するものは限られているので，第2部の「柏木」の巻に焦点をあてて，授業を公開する予定である。	高校2年	石井　正己

研究会－19

教科	主題	題目	要旨	学年	授業者
社会	新しい視点から自主編成した，中・高近現代史学習の扱い	（中学） 近代日本と朝鮮 ── 関東大震災時の朝鮮人殺害事件 ──	昨年度の9月初めの授業で，「防災の日」とからめて，関東大震災時の世田谷へのデマの伝播と朝鮮人殺害事件，さらに，デマと「官」とのかかわりをとりあげた。今年度，近代史の学習へ進むなかで，あらためてこれらを歴史的背景をふまえて考察させる。また，この中で，朝鮮人を助けた日本人がいたことについて考えさせたい。中学生に近代の日朝関係の認識をどう育てていくことができるかを検討する一つの素材としたい。	中学2年	九浜　昭
		（高校） 15年戦争と戦争責任 ── 731部隊とアメリカ占領軍 ── （高校）	日本軍の細菌戦の問題がなぜ東京裁判で不問とされたのかを，アメリカ側史料を使いながら考察する。あわせて戦後生まれの我々が15年戦争とそこでの戦争責任を振り返る意味について考える。	高校3年	宮崎　章
英語	中高一貫におけるオーラルコミュニケーションの育成をめざした授業の展開	（中学） Let's Read 3 Opinions of Teenagers from Abroad（An Opinion from A Swiss Girl）	生徒の知的・心理的発達のレベルに応じた授業展開が望まれるが，この他に，思っていることを口頭で表現し，知りたいことを相手との対話の中で学ぶという態度形成が重要なこととなる。このことを念頭において，Opinions of Teenagers from Abroad のテキストを学習して，望ましいオーラル・コミュニケーション能力の育成とは何かを考えたい。 教科書：New Horizon English Course（東京書籍）	中学3年	辻　弘
		（高校） Lesson 12 Learning by Video（ビデオで学ぶ）	オーラル・コミュニケーション能力の育成を図るために，視聴覚教具の活用が挙げられる。今回は特に，期せずして扱う題材がLearning by Videoということで，「ビデオによる学習」を生徒に体験してもらう。そして，その体験について自分の意見や考えを英語でまとめるという学習活動をめざしたい。 教科書：What's New？II（東京書籍）	高校2年	谷口　幸夫
技術家庭	新しい領域構想における電気領域の指導	（中学） エネルギー変換と制御	科学技術の進歩が生活のすみずみに浸透してきた今日，工夫し創造する能力と実践的な態度は，どのような指導によって育成されるのか。電気領域の内容を可能な範囲内で機械領域と統合し，新たに「エネルギー変換と制御」として体系化し授業展開を試みる。電気領域に新しい構想を導入し，前後の関連領域の編成にも検討を広げることで，新指導要領の趣旨の具体的実現をはかりたい。	中学2年	市川　道和

<3> 研究協議会（第1日　13：30～16：30）

教科	主題・内容	担当者
国語	1．公開授業をめぐって 公開授業に関する報告。	授業者　石井正己 須藤　敬 司会　塩谷　健 記録　関口隆一
	2．「中・高6ヶ年の古典教材の研究一予備的調査研究，その1」の報告 古典教材を考える上で前提となるいくつかの問題点に関する調査報告。	発表　石塚　修 司会　塩谷　健 記録　関口隆一
社会	1．公開授業をめぐって 授業者からねらいと成果・反省などを報告し，論議する。歴史学習における中・高のつながりや，本校社会科で検討を続けてきた開発教育へ歴史学習からどうアプローチできるかなども討議したい。	授業者　九浜　昭 宮崎　章 司会　小澤富士男 記録　小林　汎
	2．「世界史同時代学習」の試み 新指導要領にともなう世界史把握とも関連させて，従来の学習スタイルを大きく変えた「世界史同時代学習」の試みを報告し，論議する。	発表　城戸一夫 司会　丸浜　昭 記録　小林　汎
英語	1．公開授業をめぐって オーラル・コミュニケーション能力の育成をめざした授業という観点から，当日の公開授業を研究・協議する。	授業者　辻　弘 谷口幸夫 司会　加藤裕司 記録　中村　豊 助言　金谷　憲 （東京学芸大学）
	2．中・高一貫におけるオーラル・コミュニケーション能力の育成 オーラル・コミュニケーション能力の効果的な育成をめざすストラテジーとして，LL教室の活用が挙げられる。本校での授業実践を紹介するとともに，視聴覚教材のデータベース化の試みを研究報告する。	発表　加藤裕司 久保野雅史 司会　鈴木文子 記録　寺田恵一 助言　金谷　憲 （東京学芸大学）
技術家庭	1．公開授業をめぐって	授業者　市川道和 司会　遠藤正之 記録　土井宏之 助言　大森明男 （筑波大附属中学校）
	2．統合領域「エネルギー変換と制御」を指導するにふさわしい題材の選定，および領域編成の考え方と指導要領の整合性について	発表　市川道和 司会　遠藤正之 記録　土井宏之 助言　大森明男 （筑波大附属中学校）

<4> 講演（第2日　10：00～11：30　於オープンスペース＝7号館3階）
「今後の中等教育と附属学校の役割」（仮題）
講師　麻生　誠　先生（大阪大学人間科学部教授）

資料 Ⅵ

プロジェクト研究・個人研究一覧

○ 1959年度　共同研究・特別研究・個人研究
○ 1966年度　グループ研究・個人研究
○ 1967年度　〃　〃
○ 1970年度　〃　〃
○ 1977年度　グループ研究・個人研究
↓　(81年度よりプロジェクト研究)
1992年度　プロジェクト研究・個人研究

1959（昭和34）年度

Ⅰ 共 同 研 究

○ 六か年制の立場をとる本校の教育課程とその問題点（継続研究）
○ 視聴覚教材の教育的効果について
○ 教育実習の効果を高める方法について
○ 中学校「道徳」の指導計画

Ⅱ 特 別 研 究

○ 人権の研究

本年6月1日に，日本ユネスコ国内委員会から，ユネスコ協同学校計画に参加の依頼をうけ，本校の研究テーマを上記に決定，9月9日 Application 提出，9月21日本部よりAgreement 到着。本研究は2か年継続研究である。校内組織としてユネスコ委員会を構成（現在の委員は，佐近良，沢登岩尾，明石総一，柾繁，大澤清克，浅原欣次の各教官），教育実験をつみ重ねつつある。

Ⅲ 個 別 研 究

○ 19世紀における女流作家の特色 －とくにE. C. Gaskelについて－	綿引守光
○ 中学英語初級者の難解点 －調査と指導法の工夫－	中村豊
○ 英語入門期の指導	晴山数二
○ 高校和文英訳の指導について	五味貞二
○ 数学科における用語について	秋葉・大沢 喜多・佐近 中野・星野
○ 数学指導上の問題点	全数学科教官
○ 俳句の理解と観賞についての一考察（継続）	柾繁 松井一夫
○ 中学生に対する文語文法教育の適否とその受容理解に関する研究 －中・高一貫教育課程における国語の問題点－	丸尾芳男
○ 国語科現代文問題の検討	丸尾芳男
○ 明治前半期における教育政策（継続）	坂根義久
○ 中学校地理的分野と高校人文地理における地誌の取扱いについて	神藤邦芳
○ 日本の農業の現状と当面の諸問題	神藤邦芳
○ 中学校社会歴史的分野における人物と文化の取扱 （文部省：中学科社会指導書所収）	明石總一
○ 中学校社会における外国史教材の扱いについて（昭和34年度	

文部省研究奨励金による共同研究）　明石總一

○ 中学校社会歴史的分野における近代史の扱い（中学校社会科歴史指導の研究と実践：葵書房所収）

○ 高校世界史における読書指導（季刊歴史教育研究11，12，13，14，15号所収）　明石總一

○ 大学教養課程と高校「世界史」との関連についての基礎的研究（大学演習講座）「世界史」：青林書院）　明石總一

○ 世界史像形成のための地図・年表の総合的取扱いについて（総合世界史地図：正進社刊）　明石總一

○ 高校における国際理解と国際協力のための問題点の研究（近刊：文部省「国際理解のための教育指導書」所収）　明石總一

○ 中学校・高等学校における理科学習内容の関連について－とくに，理科実験の能力・技能について，下記の項目につき高校1年を標準として，中学2年・3年の生徒レベルを調査（指導内容は炭酸同化作用・ショウジョウバエを使った遺伝の実験）

1．実験を計画する能力　2．実験操作の技能　3．実験結果の整理の能　力　4．実験結果の考察（処理）の能力　梅沢力夫　重松樫三　巻島三郎　牛田英一

○ 理科実験の工夫について

1．生物教材における「生物電気」の取扱いについて　梅沢・重松

2．幻灯機を光の光源として利用する方法について　牛田・巻島

3．廻折格子の簡単な製作とその利用について　巻島・牛田

○ 中学校技術科が要求する生活の基礎技術の検討と，これが学年別配当ならびに教材の選択について　梅沢力夫

○ 技術科における生徒の個別指導について　佐野清

○ 幼児期における形態に対する認識の進化　白木博也

○ 日本文化とインカ文化の関連性　白木博也

○ J.S.バッハの教会及び一般カンタータ作品について　白木博也

○ スライド製作による美術史の教育（ファン・アイク，フラマン，印象派各篇。仏教彫刻篇）　白木博也

○ 交友関係図からみた三か年の友達関係の推移と考察　深野明

「1959年度　教育研究報告（1960年3月）」より

1966（昭和41）年度

研　究　主　題

○　グループ

英　　語	高校英語基本必修文型の整理　－特に生徒の誤り易い文型－。
国　　語	大学入試国語問題について。読書指導の方法。
数　　学	中学高校を通じて集合，写像の指導について。
社　　会	高校歴史教育における課題学習について。
技　　術	技術科学習指導（本校における）について，－指導面の観点から－。技術科指導における安全教育について。
ユネスコ	「経済関係を中心とする国際理解の教育」。

○　個　　人

晴　　山	ＬＬ使用の教授法。中学初学年における英語既習と未習者の観察。
五　　味	副教材あるいは生徒個人読物の選考について。
大　　西	中学高校における英語必修文型設定とその運用。
松　　井	教科書等に見られる俗語表現。
高　　井	国語古典における漢文法の研究。
上　　条	集合教材の導入について。中学校の数学現代化に伴う指導課程。
中　　野	本校中学数学の指導課程について。中学校二次関数の指導について。
秋　　葉	微積分の指導について。
佐　　近	計算尺，計算器を使う計算指導について。測量指導について。
明　　石	外国（特に英米仏独）における歴史教育の実状調査。
坂　　根	ロエステルの教育勅命主義への寄与。青木周蔵の筆記と憲法草案。
林	課題学習における発表者の学習効果ときき手の学習活動の工夫。
小　　沢	中学社会科歴史の課題学習について。
大　　道	相対論の初歩，量子論の初歩をいかにして高校物理に定着させるか。
巻　　島	物理教材のストロボスコープの利用。
貝　　沼	綿毛の伸長に関与する植物ホルモンの研究。
重　　松	理科（特に中学）における科学的思考能力の促進をするための指導。
白　　木	鑑賞用美術スライドの開発。
多　　田	ベートーヴェンの交響曲全９曲のアナリーゼ，演奏，鑑賞。

「昭和41年度　校内研修会　第6回」資料より

1966年11月25日（金）地理室にて

1967（昭和42）年度

校内研究テーマ

1．グループ研究

（英語科）　英語速読訓練の方法。

（数学科）　高校数学のカリキュラム，特に数学Ⅰ，ⅡB，Ⅲの系列的教材配列。

（数学科）　中学3年と高校1年の数学教材の連絡と中学3年の内容充実について。

（国語科）　大学入試問題（国語）の研究。

（国語科）　読書指導の方法について。

（技術科，農学）　技術科における安全指導について。

（生徒部）　生徒指導の組織と運営について。

（ユネスコ委員会）　科学技術教育と国際理解……人間と化学……

（ＨＲ委員会）　生徒会との関係強化による HR 運営の実践的研究。

（体育科）　体育学習の管理に関する研究。

2．個　人　研　究

L. L. の教材研究（久保木）

英文速読力養成方法の研究（大西）

A Rhetorical Study of English and American Humour（大西）

付属駒場中学校における入試前英語既修者と未習者の比較観察（晴山）

高校１年「式と計算」の指導内容についての研究（大沢）

関数指導における写像の位置づけとその指導内容の研究（喜多）

中学１年数学（代数）教材への現代数学的思考の導入について（上条）

数学科における技術指導（計算器，測量）とその教科内での位置づけ（佐近）

中学国語教材における送りがな・ルビについて（松井）

中学社会科における課題学習（小沢）

世界史教育における歴史的概念の扱いについて（明石）

第一次産業特に農業学習の構造化と農業の地域性について（D. Whittlesey の地域区分批判の立場で）（岡本）

国家，国家群と経済地域との関連について（岡本）

体育学習の管理に関する研究（大内）

生徒指導，特別教育活動の運営について（川畑）

高校保健における資料の効果について（深野）

中学保健における自発学習のすすめ方について（深野）
鑑賞用美術スライドの開発（白木）
音楽史の詳細な授業（多田）
器楽の技術的向上，男性合唱の技術的向上（多田）
中学器楽用教材の研究（多田）
変声期に応じた編曲法（変声期分布調査）（多田）
学校物理の統計的考え方を導入するための予備研究（大道）
学校生活に於ける班活動（大道）
法助動詞の用法（中村）

「昭和42年度　校内研修会　第７回」資料より
1967年11月24日（金）会議室にて

1970（昭和45）年度

「1970年度第1回校内研修会（70.6.5）」資料より

研究分野	研究テーマ	教官
国語科教育	郷土との関連から見た国語教材のあり方－主として古典および明治・大正文学について－	国語科（丸尾，石田，勝田，高井，日野，柾，松井）
社会科教育	学校教育をより効果的にするための日常研究目標	沢　登
〃	「倫理・社会」教育課程の実践的検討	林
歴史学	青木周蔵の研究	坂　根
社会科教育	中・高校における「文化史」取扱い上の問題点	小　沢
〃	ビザンツ史と世界史教育の関連	城　戸
国際理解教育	東南アジアの自立について	神　藤
社会科教育	プログラム方式による人口学習の検討	岡　本
〃	中学校社会科カリキュラムの検討～基礎社会の実践研究	岡　本
数学教育	教育機器の取り入れ方	数学科（佐近，中野，大沢，喜多）
〃	線型代数の指導計画について	長　野
〃	・数学科の新しい指導内容の構成	佐　近
〃	・計算器械の授業導入	佐　近
〃	ベクトルを基礎とする図形指導の体系化について	星　野
物理科教育	物理教育に利用し得る東京都及びその周辺の施設について	巻　島
〃	高校物理教育における「熱学」の内容展開について	大　道
理科教育	中学校理科学習における班組織の学習について	重　松
〃	遺伝学習における分子遺伝学の指導の実践的研究	貝　沼
〃	理科実験の再編成について	牛　田
〃	観察力の考察“ローソクの燃焼を用いて”	福岡・大谷
〃	キレート滴定の高校化学への教材化	福　岡
〃	グループ実験の一つの試み“金属の化合物に関する実験”	福　岡
〃	グループ実験指導の試み「ものの溶ける速さについて」	大　谷
体育科教育	中学・高校における教材の選択と学習内容の系統化についての研究	保健体育科（大内・坂田・川畑・深野）
〃	体育における広報の研究	大　内
保健体育	中1における身体発育・発達の考察	深　野・曾　根
	1. 生徒の保健管理に関する研究(1)課外活動時における生徒の疲労について	曾　根・深　野
	2. 保健教育の評価に関する研究	〃
美術	スライドによる美術鑑賞教育	白　木
音楽	1. 駒場の実状に即したクラス単位の音楽的かつ効果的な合唱編曲法	多　田
	2. 駒場の実状に即した器楽曲の与え方	
	3. 高校音楽の内容検討	
	4. 生徒のしつけ	
英語教育	1. 中学校段階における語い調査と研究	英語科 1.（晴山・久保木・小林）2.（五味・綿引・中村・大西）
	2. 高等学校段階における語い調査と研究	
農学教育	本校における栽培分野の中高一貫指導について	岡　村・佐　野
生徒指導	本校の教育目標・教育方針案に生徒指導をどう位置づけるか	石　田
〃	高校生徒会を中心にした高校生の自治活動の指導のあり方	大　道

1977（昭和52）年度　　東京教育大学附属駒場中高『学校要覧1977』より

(1) グループ研究

国語科	国語学習についての生徒の意識に基づく指導体系の適正化
社会科	中等教育における社会認識と主権者意識の形成について
数学科	創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的研究
理科	理科教育における実験・観察の再開発研究
保健体育科	体育における学習内容，指導方法の科学化と六ヶ年一貫のカリキュラムが生徒の発育・発達に及ぼす影響
芸術科	芸術科における合同授業の研究と実践
技術科	技術科における効果的かつ安全な指導法の研究
英語科	中・高一貫カリキュラムとそれに応ずる教科書の開発
養護	学級における保健指導
放送視聴覚	放送・視聴覚機器を利用した教育の現状調査
生徒部	学校行事に対する生徒の認識について
ユネスコ	国際教育の理論と実践

(2) 個人研究

国語科	須田教官	森欧外と日本の近代	近代文学
社会科	坂根教官	明治20年代の政治外交史，文明開化論	日本近代史
	神藤教官	外国の地理教育について	地理
	城戸教官	ビザンツ帝国における政治理念と文化意識について	西洋史学
	城戸教官	国際教育・平和教育の理論	国際理解教育
	林教官	主権者意識の形成にかかわる社会思想史学習	倫社
数学科	佐近教官	電算機を使用する数学指導	教育機器
	喜多教官	初等，中等教育における望ましい幾何教材の内容とその位置づけ	幾何学
	深瀬教官	確率の教材研究	確率
	栗原教官	日常会話の論理性について	論理
	長野教官	創造的能力の構造分析とその指導法の研究	数学教育
理科	貝沼教官	生物Ⅱにおける分子遺伝学の実験指導	生物
	貝沼教官	トウモロコシの遺伝の教材化・原生動物枯草菌の教材化	小・中・高の生物理科分野
	牛田教官	理科学習調査	学習意識
	福岡教官・大谷教官	高校科学における機器分析の利用	化学Ⅱ
	大道教官	電磁気をどう扱うか　生徒の興味を引く指導展開例	物理
保健体育科	深野教官	体育方法論とその計量的考察	体育
英語科	大西教官	中・高6ヶ年一貫英語指導のあり方特に教材のあり方	英語教育
	辻教官	文化系部活動の実践のあり方（中学語学部を例として）	文化系部活動

（以上　7月1日現在）

1978（昭和53）年度

筑波大学附属駒場中高『学校要覧1978』より

教科研究

国語科	国語学習についての生徒の意識に基づく指導体系の適正化
数学科	六ヶ年一貫カリキュラムと創造性との関連
〃	創造的思考力とは何か
理科	理科教育における実験・観察の再開発
社会科	社会科「社会」と本校社会科教育構想との関連
芸術科	芸術科合同授業の研究と実践
技術科	技術・家庭科における個性，技能に適応した効果的な指導法の実践的研究
外国語科	中・高一貫英語教材の開発
保体科	走り幅跳びの授業とその計量的考察
〃	中学生における直立能力の発達
養護	保健指導

個人研究

岡本忠篤	地誌的教材と社会的認識の関連
城戸一夫	ビザンツ帝国における政治意識と文化理念
〃	国際教育の理論と方法
坂根義久	青木周蔵の条約改正交渉他
林幹一郎	民主主義の思想をどう教えるか
栗原幹夫	日常論理と数学的論理
大谷悦久	揮発性物質の分子量測定について
〃	化学クラブの現状について
〃	化学Ⅱにおける熱力学取扱いについて
〃	化学Ⅱにおける紫外可視分光光度計の利用について
〃	高校化学実験における赤外分光光度計を利用した実践的研究
大道明	熱教材の何をどう教えるか
貝沼喜兵	生物Ⅱの指導の実践的研究
大谷悦久	OHP の演示実験での利用
〃	学校教育放送（ＴＶ）の利用

1979（昭和54）年度　　『学校要覧1979』より

教科等のグループ研究

国語科	古典学習についての生徒の意識
社会科	社会認識調査
数学科	創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的研究
理科	理科学習調査
中学理科	野外学習の効果的な指導法について
保健体育科	剣道の刀筋の指導に関する多変量解析による考察
保健体育科	特性を生かしたサッカーの学習指導
保健体育科	運動能力と眼機能の関係について
保健体育科	鉄棒運動の組合わせ技能と基礎運動能力等の関係について
芸術科	芸術科合同授業の研究と実践
技術・家庭科	発想力・図による表現力・構成力の調査と教科の指導法について
英語(外国語科)	中・高一貫カリキュラムに応じた教材研究
生活指導	規律について
教育工学	教育機器の効果的利用法
水田委員会	勤労に関わる体験学習について
ユネスコ校内委員会	国際理解教育

個人研究

城戸一夫		ビザンツ帝国における Caesaro-Papismus について
城戸一夫		高校生の「平和」・「アジア」認識について
坂根義久	日本史学	「お雇い外国人」
坂根義久	日本史学	青木周蔵と日清戦争
岡本忠篤	地理教育	系統地理における地域課題の扱い方
栗原幹夫	数学教育	日常論理と数学的論理
佐近良	数学教育	計算機を使う数学指導について
長野東	数学教育	代数・幾何統合カリキュラムの作成
大谷悦久	化学Ⅱ	高校化学実験における機器の実践的利用について
大谷悦久	化学Ⅱ	高校化学における熱力学の取扱い
大谷悦久	化学Ⅱ	高校化学における計算機の利用
大谷悦久	理科Ⅰ	新指導要領理科Ⅰの検討
大谷悦久	放送視聴覚	視聴覚教材の効果的利用について
大谷悦久	クラブ活動	化学クラブにおける機器（IR. UV-VIS. PH メータ）の利用について
大谷悦久・福岡久雄	化学	高校化学における赤外分光々度計の利用について
福岡久雄	化学	今後の高校化学の指導についての研究
大道明	物理	高校における原子物理の取扱いについて
白木博也	美術	「美術鑑賞教育の研究と実践」
遠藤正之	音楽	「コダーイシステムによるソルフェージュと合唱の指導法の研究と実践」
中村豊	英語語法	理由を表す接続詞の分布（as に焦点をあてて）
辻弘	英語教育と特活	部活動・クラブ活動における英語教育のあり方
笠原順路	英文学	“A Note on the Enchantress Figure in John Keats Poetry”
笠原順路	英文学	「キーツにおける死の想念－ Ode を中心にして－」
笠原順路	英語教育	「Short－Passage－Reproducton での効果的なヒントと英作文指導の研究」
曽根睦子	学校保健	「保健指導」について
曽根睦子	学校保健	学校における救急処置
貝沼・石川	生物	形質転換（遺伝）
貝沼・石川	生物	池の生産力測定（生態系）
貝沼・石川	生物	カイコの配偶行動（生殖）

1980（昭和55）年度　　『学校要覧1981』より

① グループ研究

	研究分野	研究テーマ
国語科	現代の国語	中・高6か年を見通した「現代の国語」の教材と指導体系の作成
社会科	社会科教育	中等教育における社会認識の発達と社会科カリキュラムの検討
数学科	数学教育	創造的思考を伸ばす教材とその指導法の研究開発
理科	理科教育	理科の学習調査
保健体育科	体育	鉄棒運動の組合わせ技能と基礎運動能力等の関係について
〃	〃	バスケットボールにおけるシュートチャンス把握のための学習過程
〃	〃	運動能力と眼―頭部協同運動との関係について
芸術科	芸術	合同授業の研究と実践（民衆芸術について）
英語科	英語教育	6か年一貫教育のためのカリキュラム編成
生徒部	生活指導	本校生徒のルール意識
教育工学委員会	教育工学	本校における教育工学のあり方
水田委員会	勤労体験	勤労にかかわる体験学習（水田による教育を中心にして）
将来計画委員会	カリキュラム	駒場の将来構想に関する問題の研究

個人研究

氏名	研究分野	研究テーマ
小沢正晴	社会科教育	本校中学生の歴史意識
坂根義久	日本近代史	お雇い外国人
坂根義久	日本近代史	青木駐英公使の条約改正交渉
〃	〃	戸田市史関係資料の蒐集と筆写
沢登岩尾	社会科教育	日本国憲法における判例の研究
〃	〃	日本国憲法における法社会学的考察
〃	〃	所謂「教育権の限界」について
長野東	数学教育	代数・幾何の統合的カリキュラムの研究
石川・貝沼	生物教育	分子遺伝学の指導に関する実践的研究
大谷悦久	化学教育	化学Ⅰ生徒実験の改良
〃	〃	連想語法による学習調査
大谷・福岡	〃	化学Ⅰにおける機器利用
福岡久雄	〃	高校化学の効果的指導法についての研究
大道明	物理教育	高校物理における物質を含む教材の取扱いについて
白木博也	美術教育	中学・高校生の色彩嗜好の変化について
遠藤正之	音楽教育	コダーイ・システムによるソルフェージュと合唱の指導法の研究と実践
岡村彰	技術科教育	発想力・図による表現力・構成力の調査と技術科の指導法について
〃	〃	技術科の効果的学習指導について
大谷悦久	放送・視聴覚	マイクロコンピューターの利用
貝沼喜兵	交流学習	幼児・児童生徒の全人的発達
大西光興	英語教育	海外における外国語教育の実態の研究
〃	英米文学	英米随筆文学における「ヒューマー」の研究

（注，『学校要覧1980』にも同じ内容が掲載されている）

1981（昭和56）年度　　『学校要覧1982』より

① プロジェクト研究

研究分野	研究テーマ
現代の国語	中・高6か年を見通した「現代の国語」の教材と指導体系の作成
社会科教育	社会認識の発達と社会科カリキュラムの検討
数学教育	創造性を高めることをめざした数学指導
理科教育	学習調査とカリキュラム
〃	新指導要領に基く理科のカリキュラム検討
〃	三浦半島の地質調査と中三理科行事の再検討
英語教育	6か年教育の望ましい教材
芸術教育	芸術科合同授業の研究と実践
保健体育	中高生の有機素的作業能
〃	中高校生の直立能力
生活指導	本校における校外指導の実態と問題点
教育工学	本校の教育工学のあり方
将来計画	高校教育課程の改訂と中高一貫教育の再検討

② 個人研究

氏名	研究分野	研究テーマ
松井一夫	国語	現代語の中に残存している上代語
城戸一夫	世界史教育	ビザンツ帝国におけるカエサロパピズム
〃	国際教育	国際教育の理論と方法
坂根義久	日本近代史	お雇外国人
〃	〃	青木周蔵公使の条約改正交渉
長野東	数学教育	創造性を伸ばす中高一貫カリキュラムの開発
貝沼喜兵	理科研究	分子遺伝学の実践的指導研究
大谷悦久	化学教育	高校化学実験における機器利用
牛田英一	地学	地学学習調査
〃	教育実習	教育実習の適正化
大西光興	英語教育	中高一貫，英語教材の開発
〃	英文学	英国随筆文学の研究
佐野清	技術科	わが国における技術科教育の発展と，内容・方法
佐野清・岡村彰	技術家庭科	発想力，図による表現力，構成力の調査と技術科の指導法
〃	〃	技術家庭の効果的学習指導
小沢治夫	運動生理学	水俣病患者における身体平衡機能

1982（昭和57）年度

「学校要覧1983」より

① プロジェクト研究

研究分野	研究テーマ
現代の国語	中・高6か年を見通した「現代国語」の教材と指導体系の作成
社会科教育	中等教育における生徒の社会認識の発達について
数学教育	創造性を伸ばす教材と指導法の実践的研究
理科教育	校外学習（城ケ島）について
〃	理科学習調査
英語教育	6か年教育の望ましい教材のあり方
芸術教育	合同授業の実践と研究
保健体育	持久力テスト・定量的運動負荷法としての Side Step 運動の検討
生活指導	本校における生徒の生活と学業成績との相関について
教育工学	本校の教育工学のあり方

② 個人研究

氏名	教育分野	研究テーマ
長野　東	数学教育	社会の変動に対応する数学教育のあり方について
栗原幹夫	数学教育	数学における創造的思考
福岡久雄	理科	中学校の地学の指導（城ケ島における地層と地質構造の指導）
〃	〃	化学の学習と生活体験
大道　明	物理	地球物理的現象の教材化
小沢治夫	運動生理	eye-head co-ordination と運動能力との関係について
〃	〃	身体平衡機能の aging について
〃	〃	他8テーマ略
佐野清・岡村影	技術	発想力，図による表現力，構成力の調査と技術科の指導法について
岡村　彰	技家科	技術・家庭科の効果的学習指導について
中村　豊	英語語法	語法の研究
辻　弘	英語教育	中学英語クラブの運営の仕方
坂根義久	日本近代史	青木周蔵の駐米大使時代
〃	〃	埼玉県戸田市史史料集の編集（明治篇）

1983（昭和58）年度　　『学校要覧1984』より

① プロジェクト研究

研究分野	研究テーマ
国語科教育	中・高6か年を見通した「現代の国語」の教材編成
社会科教育	渡良瀬川流域の実地見学による分野の統合
数学教育	創造性を伸ばす教材と指導法の実践的研究
理科教育	理科学習調査
保健体育教育	形態と体力・運動能力との相関について
芸術教育	合同授業の研究と実践
英語教育	新教育課程における中・高一貫した英語教育のあり方を求める
生活指導	本校生徒の意識と行動の諸側面
教育工学	教育機器利用上の問題点

② 個人研究

氏名	教育分野	研究テーマ
城戸一夫	歴史教育	ビザンツ帝国における Caesaropapism について
	平和教育	平和教育のためのキッド作成
坂根義久	歴史教育	青木周蔵公使（駐英）の条約改正交渉
	歴史教育	青木周蔵駐独公使の条約改正交渉と政治問題
	歴史教育	地方史研究
長野　東	数学教育	社会の変動に対応する数学教育のあり方
栗原幹夫	数学教育	数学的論理と日常論理について
貝沼喜兵	理科教育	遺伝の指導に関する実践的研究
福岡久雄	理科教育	化学実験（有機化学）指導上の失敗例の分類とその対策
	理科教育	中学理科，野外学習について
大道　明	理科教育	波動現象の扱いについて
小沢治夫	保健教育	中高生の最大パワー及び最大酸素負債の発達について
	体育教育	水俣病における身体平衡機能の生理学的特徴
	体育教育	エアロビック・フィットネス・エクササイズの運動強度及びそのトレーニング効果
入江友生	体育教育	バスケットボールにおいて情動反応の自己調整力がゲームパフォーマンスに及ぼす影響について
佐野清・岡村影	技術教育	観点別学習状況の評価について
大西光興	英語教育	真のコミュニケーションに役立つ英語教育とは何か
辻　弘	国際理解教育	日本ならびに日本の教育の他国の教師ならびに生徒による理解をどのようにしたら深めることが出来るか（外国語教育との関連において）

1984（昭和59）年度　　『学校要覧1985』より

① プロジェクト研究

研究分野	研究テーマ
国語科	6か年を見通した現代国語の教材編成（小説） ——実践と検討
社会科	社会認識調査に基く社会科総合学習のための試案 ——平和教育を主題として
数学科	創造性を伸ばす教材と指導法の実践的研究
理科	理科Ⅰの興味と理解の調査
保健体育科	自転車エルゴメータパワーの発育発達に伴う変化
技術・芸術科	技術科及び芸術科目による同一テーマの総合学習に基く授業効果並びに問題点
英語科	中・高6か年一貫教育による英語指導 ——英作文の誤答分析を主題として
教務部	教務関係の情報処理へのマイコンの利用法
生徒部	高校生の学習実態調査
教育工学	教務部プロジェクトに関するソフト開発
将来計画委	「附属学校教育方法等改善経費」に基く研究課題並びに研究体制確定のための予備的研究

② 個人研究　（『学校要覧』に記載なし，教官会議配布資料より）

栗原幹夫	数学教育	数学的創造力を伸ばす教材と指導法の実践的研究
長野東	〃	社会の変動に対応する数学教育のあり方 —教師の意識調査—
福岡久雄	理科（化学）	化学実験指導上の失敗例の分類と対策
小沢治夫	学校保健	本校における喫煙と飲酒の習慣について
〃	運動生理(保健体育)	自転車エルゴメータパワーと体力・運動能力テスト項目との関連
〃	生理学(保健体育)	Nystagmus と平衡機能
曽根睦子	学校保健	学校保健の領域における相談活動に関する研究（全附連養護教諭部会の全体テーマ）

1985（昭和60）年度　　『学校要覧1986』より

① プロジェクト研究

研究分野	研究テーマ
国語科	6か年を見通した現代国語の教材編成（小説）その3 ——実践と検討
社会科	社会認識調査に基く社会科総合学習のための試案 ——平和教育を主題として
数学科	創造性を伸ばす教材と指導法の実践的研究
理科	理科学習調査とそれに基づくカリキュラム試案
保健体育科	中・高一貫6か年カリキュラムの検討(2)
技術・芸術科	技術科及び芸術科目による同一テーマの総合学習に基く授業効果並びに問題点
英語科	中・高6か年一貫教育による英語指導 ——誤答分析をもとにした英語による表現力の育成を目指して
教務部	教務関係の情報処理へのマイコンの利用法
生徒部	学校生活における問題について
教育工学	教務部プロジェクトに関するソフト開発
将来計画委	「附属学校教育方法等改善経費」に基く研究課題並びに研究体制確定のための予備的研究
国際理解教育研究	異文化間理解の方法論的研究

② 個人研究（『学校要覧』に記載なし，教官会議配布資料より）

松井一夫	国語学	「あはれ」の語義の時代的変遷
礒田正美	数学教育学	・関数の認識段階についての研究　・数学化についての研究
長野東	数学教育	社会の変動の対応する数学教育のあり方
大谷悦久	理科（化学）	ガスクロマトグラフィー，流体クロマトグラフィーを用いた化学実験の再検討
大谷悦久	高校理科（化学）	Use of Modern Instruments in the Chemistry Closs of High School
高橋宏和	理科（地学-古生物学）	Paleontological Study of the Miocene Arcid-Potamid Fauna in Japan
岡崎勝博	保健教育	保健科教育における認識のつまずきについて
小沢治夫	特殊教育	発育発達期における先天眼振と体力・運動能力との関係
深野明・小沢治夫	保健教育	飲酒，喫煙に関する実態と生徒の認識
入江友生・岡崎勝博	発育発達	本校生徒の体力・運動能力の縦断的研究
合田浩二	体力	本校生徒の脈波の動態と運動経験の関係
大西光興	英語教育	中学生に適する英語辞書のあり方—使用者と製作者の両方の立場からの考察
加藤裕司	英語教育法	英語教育におけるＣＡＩの可能性について
長谷川和則	英語教育	口頭での概要・要点の発表——自己表現力の育成をねらって——
栗原幹夫	数学教育	複線型の指導について
深瀬幹雄	数学教育	確率統計の指導法
貝沼喜兵	教科研究	遺伝子組みかえ実験の教材化
城戸一夫	歴史教育	ビザンツ帝国における政治理念と文化意識
城戸一夫	国際教育	平和教育に関する理論的・方法論的開発

1986（昭和61）年度　　『学校要覧1987』より

① プロジェクト研究

研究分野	研究テーマ
国語科	6か年を見通した現代国語の教材編成（小説） ——その実践と検討
社会科	社会科総合学習の展開をめざして ——平和教育を軸とする社会科学習の見通し
数学科	創造性を伸ばす教材と指導法の実践的研究
理科	理科学習調査及び理科校外学習
保健体育科	中・高一貫6か年カリキュラムの検討（2）
技術・芸術科	技術・芸術科合同授業の研究と実践
英語科	中・高6か年一貫教育による英語指導 －誤答分析をもとにした英語による表現力の育成を目指して
教務部	(1) 中学校入試方法の改善　(2) 教育課程の改善
生徒部	学校生活と校外での学習－塾と学校生活
将来計画委	(1) 新館建設と本校の教育 (2) 中期計画の立案と関連特別委員会への協力
国際理解教育研究	異文化間理解の方法論的研究——言語と民話と素材として

② 個人研究　（『学校要覧』に記載なし，教官会議配布資料より）

礒田正美	数学教育	数学化と思考水準論，特に水準の評価法の開発 1. 事例として，特に思考水準について関数指導の検討 2. 事例として，特に数学化について図形指導の検討
佐藤和孝	〃	1. 多面体を用いた空間図形の教材化の研究 2. パーソナル・コンピューターを用いた授業システムの研究
長野東	〃	数学教育の目標に関する教師の意識調査
深瀬幹雄	〃	確率統計におけるコンピューターの利用について
高橋宏和	理科（地学）	1. 本邦中新統産内湾性貝類化石の分類学的再検討 2. 茨城県常陸太田地域の鮮新統久米層産貝化石群集
福岡久雄	理科教育	化学教育におけるエネルギー資源の指導
岡崎勝博	保健体育	1. 健康問題に関する子どもの認識・思考方法の究明 2. 本校生徒の飲酒・喫煙に関する研究
小沢治夫	〃	1. Treatment of Nystagmus by Acupuncture 2. 斜視と頭位の異常 2′.先天眼振をもった児童・生徒の体力・運動能力 3. コンピューターを利用した新しい保健体育の授業の開発
曽根睦子	学校保健	学校保健領域における相談活動
加藤裕司	英語教育	英語教育法－英語教育におけるCAIの可能性について
久保木清	〃	英語による自己表現上の問題点の解明とその効果的解決法の探求
辻弘	〃	英語による自己表現上の問題点の解明とその効果的解決法の探求

大西光興	〃	英語による自己表現上の問題点の解明とその効果的解決法の探求
中村豊	〃	現代英語に於ける関係代名詞 wh- および that の使用区分・頻度の調査 ——現行教科書の記載内容の適否の見直し
深野明	保健体育	1．保健学習におけるわかり分と教材開発について 2．体育実技におけるわかり分と教材開発について
入江友生	〃	体育祭運営へのコンティンジェンシー理論の応用と実践について
大道明	理科教育	1．高校物理教育への新教材の導入についての検討 2．パソコンの物理授業への導入に関する勉強
小林汎	社会科教育	1．地理教育における平和の扱い方について 2．中学校世界地理先習のあり方をめぐって 3．世界地理学習における東南アジアの扱いについて
増渕徹	社会（歴史）	1．平安前・中期の地方行政監察制に関する研究 2．平安朝儀式の研究
城戸一夫	社会（歴史）	1．ビザンツ帝国における Caesaropapism について 2．国際教育における諸領域の編成について

1987（昭和62）年度　　『学校要覧1988』より

① プロジェクト研究

研究分野	代表者	研究テーマ
国語科	（石川祐爾）	中高6ヶ年を見通した現代国語の教材編成（説明文・論説文評・論文）（4年計画の1年次）
社会科	（宮崎　章）	平和教育の今日的課題と実践－開発の問題を中心に－3 年計画の 1 年次）
数学科	（佐藤和孝）	情報化社会に対応した創造的教材・指導法の実践的研究（5年計画1年次）
理科	（大谷悦久）	中・高一貫カリキュラムの作成（6年計画の6年次）
保健・体育科	（小沢治夫）	自転車エルゴメータパワーの発達に伴う変化（3年計画の3年次）
技術・芸術科	（遠藤正之）	技・芸術科合同授業の実践と研究
英語科	（中村　豊）	中高連携をとらえた教材開発（多年次）
教務部	（林幹一郎）	期末・特考のコンピュータ処理プログラムの改良（単年度計画）
生徒部	（鈴木信好）	生徒の飲酒・喫煙の実態と意識（単年度計画）
将来計画検討委員会	（岡本忠篤）	新館構想に関わる研究（単年度計画）

② 個人研究

氏名	研究テーマ
石井正己	1. 伝承と教育(1)　2. 柳田国男の国語教育論(1)
小林汎	1. 高校地理の現代社会的内容の扱い　2. 地理教育での平和の扱い 3. 中学，日本地理の学習における地域調査，レポート作成の方法
増渕徹	1. 平安時代の儀式成立史の研究　2. 平安中後期の地方行政の研究
井上正允	1. 中学校における数学・美術の合科授業試案 2. 中学校における量の指導－速度を中心に－
高橋宏和	1. 潮間帯貝化石群集の古生態学的研究　2. 埼玉県寄居町の中新世貝化石群集
稲岡信之	1. 中学英語における自己表現
加藤裕司	1. 英語教育法－英語教育におけるＣＡＩの可能性について
久保野雅史	1. 前置詞 of 再考
熊井信弘	1. Task 形式の聴き取りテストと聴き取り能力の評価について 2. 文法項目別にまとめた例文集の作成
長谷川和則	1. 読みの指導－パラグラフを単位として－
岡崎勝博	1. 生徒の健康に関する情報の分析　2. 飲酒・喫煙に関する実態と意識調査
小沢治夫	1. 姿勢制御に及ぼす眼球運動系の影響 2. 頸筋入力が眼球運動系に及ぼす影響について 3. 無酸素パワー・有酸素パワーにおけるトレーナビリティについて
合田浩二	1. 最大パワー向上のためのトレーニングプログラム
曽根睦子	1. 学校保健領域における相談話

1988（昭和63）年度　　『学校要覧1989』より

① プロジェクト研究

研究分野	代表者	研究テーマ
国語科	（石川　祐爾）	中高６ヶ年を見通した現代国語の教材編成 —説明的文章・論説・評論—その２
社会科	（城戸　一夫）	開発教育の研究 —平和教育の各論的研究—（第２年次）
数学科	（磯田　正美）	情報化社会に対応した創造的教材・指導法の実践的研究 （５年計画の２年次）
理科	（石川　秀樹）	視聴覚機器・コンピュータ等の利用について
保健・体育科	（小沢　治夫）	発育発達期における自転車エルゴメーターによる最大無酸素パワーの研究（第３報）
技術・芸術科	（土井　宏之）	芸術科合同授業の研究と実践
英語科	（熊井　信弘）	中高連携を捉えた自主教材の開発 —筑駒 Picture Dictionary の作成—（３年計画の２年次）
教務部	（林　幹一郎）	教務関係（期末・特考など）のコンピュータ処理プログラムの改良
生徒部	（鈴木　信好）	生徒の学校への帰属意識の調査
将来計画検討委員会	（岡本　忠篤）	新館構想に関わる研究

② 個人研究

氏名	研究テーマ
石井正己	1. 教科書にみる古文教材の検討－中高一貫教育の視座から－
磯田正美	1. 関数の発達段階に関する研究 2. コンピュータを利用した学習指導についての研究 3. 課題学習（和算）についての研究
小沢治夫	1. Treatment of Nystagmus by Acupuncture 2. ウィンゲートテストによるパワー発揮に関する研究 3. 眼球運動が姿勢制御に及ぼす影響
加藤裕司	1. 英語教育におけるＣＡＩの可能性について 2. 高校における文法指導について
熊井信弘	1. ヒヤリング教材の開発とその評価
久保野雅史	1. 語彙指導の改善～身近な物を表す名詞を中心に～ 2. 外国人講師とのティーム・ティーチングのあり方について～高校生の英作文での展開～ 3. 文法・語法上の盲点～用例のデータ・ベース化集の作成
小林汎	1. 高校生における現代社会と世界地理の融合したカリキュラムの作成について 2. 世界地誌学習における東ヨーロッパの扱いについて 3. 世界地理学習における開発教育・平和教育の位置付け・取り扱い方について
高橋宏和	1. 本邦中新世潮間帯貝化石群集の古生態学的研究

1989（平成元）年度　（『学校要覧』に掲載なし，研究部作成資料より）

① プロジェクト研究（1989年度）

研究分野	代表者	研究テーマ
国語科	（石川　祐爾）	中高6ヶ年を見通した現代国語の教材編成 ―説明的文章・論説・評論―（4年計画の3年次）
社会科	（城戸　一夫）	開発教育の理論化と教材開発 ―平和教育の一環としての開発教育のあり方―
数学科	（吉井　洋二）	情報化社会に対応した創造的教材・指導法の実践的研究 （5年計画の3年次）
理科	（濱本　悟志）	視聴覚機器・コンピュータ等の利用について（2年次）
保健・体育科	（小沢　治夫）	発育発達期におけるアネロビック・パワーのトレーナビリティについて
技術・芸術科	（遠藤　正之）	芸術科合同授業の研究と実践
英語科	（久保野雅史）	中・高一貫教育におけるLL学習指導のあり方を探る ＜3年計画の1年次＞
教務部	（深瀬　幹雄）	教育課程に関する調査・研究
生徒部	（大道　明）	処罰的指導の有効性と限界
教育情報部	（加藤　裕司）	期末処理ソフトの改善について

② 個人研究　（1989年6月19日現在）

氏名	研究主題
石井正己	伝承文学教育の課題（2）
井上正允	オープン・スペースの利用法----数学の課題学習の展開
大道明	コンピュータの授業への導入について（物理）
岡崎勝博	＜1＞体育授業時の運動量の計測（文部省科学研究奨励費 B） ＜2＞生徒の保健情報の分析 ＜3＞授業書方式による保健の教材化
岡村彰	題材による生徒の関心度の変化について（技術）
小沢治夫	＜1＞姿勢制御における頸筋の役割について ＜2＞Acupuncture の作用機序について----特に頸筋において ＜3＞運動能力と Smooth Pursuit Eye Movement の関係 ＜4＞「数理科学によるスポーツサイエンス」の授業への応用 ＜5＞Wingate Anaerobic Test における至適負荷値について ＜6＞衝動性眼球運動と姿勢制御の神経連関
貝沼喜兵	＜1＞組換え DNA 技術の教材化 ＜2＞バイオテクノロジーの高校生物の教材化
加藤裕司	LL授業における機器の効果的利用について
城戸一夫	＜1＞1946年以降の“Byzantinische Zeitschrift”及び“Byzantion”のデータベース化 ＜2＞開発教育の思想と理論----＜国際教育＞の体系化をめざして

菊　地　　淳	＜１＞新学習指導要領と中学・高校連関をふまえた理科教育法の研究 ＜２＞境界領域における化学的分野の指導法
久保野　雅　史	身近な語彙の指導----筑駒 Picture Dictionary の作成
熊　井　信　弘	＜１＞英語のコミュニケーション・ゲーム----中学英語におけるコミュニケーション活動 ＜２＞生徒のリスニング能力を高めるためのタスクリスニングの研究とその教材作成
熊　倉　啓　之	数学の課題学習の展開----オープン・スペースの利用
小　林　　汎	＜１＞社会科における地理教育の役割再考----高校社会科「解体」を検討する ＜２＞「社会科教育法」のあり方について----現場サイドからの再検討 ＜３＞教員養成大学における「地理学研究」のあり方について ——現場サイドから構想すると
駒　野　　誠	＜１＞数学理解のための認理的研究 ＜２＞幾何教育の歴史的変遷についての研究
鈴　木　清　夫	＜１＞統計教材の活性化----新しい統計教材の開発を目指す ＜２＞関数についての指導法---- 2 次関数を中心にして，中・高の連関を考える ＜３＞新学習指導要領の研究
曽　根　睦　子	＜１＞学校における集団を対象とした保健指導 ＜２＞高校生への集団を対象とした保健指導
高　橋　宏　和	＜１＞新第三紀・中新世の潮間帯貝化石群集の古生物学的研究 ＜２＞ Vicarya 属の分類学的再検討
辻　　弘	東南アジア諸国の初等中等教育における日本理解教育の推進
中　村　　豊	関係代名詞 that と who･whom･which の使用区分の実態調査- ---中学での関係代名詞指導法の再考の資料として
長谷川　和　則	Paragraph writing の指導法
深　瀬　幹　雄	＜１＞確率・統計におけるコンピュータ利用の可能性 ＜２＞確率実験の開発
福　岡　久　雄	＜１＞物質を構成する粒子概念の形成に関わる指導法の実践的研究 ＜２＞高等学校理科化学の学習指導要領の改訂に関わる調査研究
丸　浜　　昭	＜１＞近・現代史を視野に入れて，日本前近代史をどう授業するか ＜２＞15年戦争史の学習と教材化の研究
宮　崎　　章	＜１＞日本の敗戦と民衆意識 ＜２＞戦後日本の繁栄と吉田茂の役割 ＜３＞ 731 部隊と米軍の諜報活動

1990（平成２）年度　　『学校要覧1991』より

①　プロジェクト研究

研究分野	代表者	研究テーマ
国語科	(石川　祐爾)	中高６ヶ年を見通した現代国語の教材編成 ―説明的文章・論説・評論―（４年計画の４年次）
社会科	(小澤富士男)	開発教育の研究 ―平和教育の各論的研究―（５年計画の３年次）
数学科	(井上　正允)	情報化社会に対応した創造的教材・指導法の実践的研究 （５年計画の４年次）
理科	(高橋　宏和)	新学習指導要領の取り扱いについて ―課題研究を中心として―（３年計画の１年次）
英語科	(辻　　弘)	中・高一貫教育におけるＬＬ学習指導とカリキュラム編成
保健・体育科	(小沢　治夫)	発育発達期における無酸素的パワー ―特に脚伸展パワー・自転車駆動パワーについて―
技術・芸術科	(土井　宏之)	芸術科合同授業の研究と実践
生徒部	(大道　　明)	クラブ指導の実態と問題点
教育情報部	(加藤　裕司)	成績処理プログラムの改善
教務部	(深瀬　幹雄)	時間割作成のコンピュータ化の可能性
国際教育	(長谷川和則)	国際教育の理論化と教育の実践
社会科Ｂ	(丸浜　　昭)	水田学習も視野に入れた地理・歴史共通テーマ「食糧と農業を考える」の授業実践
英語科Ｂ	(谷口　幸夫)	語彙指導，テスティングを中心にした指導技術の研究と実践

②　個人研究

氏名	研究主題
石井正己	伝承文学教育の課題
石塚　修	西鶴における先行文芸の受容の在り方
井上正允	中学校数学の課題学習について
入江友生	個人差に応じたバスケットボールの効果的な学習指導について 個人差に応じた持久走の効果的な学習指導について
大道　明	高校物理における電磁気教材の再検討 授業へのパソコン導入の試み―シュミレーション，測定器具として
小沢治夫	Wingate Araerobic Test による無酸素パワーの発育発達に伴う変化について （縦断的研究） 姿勢制御における頸筋の役割について 高等学校における保健科教育の現状と課題

貝沼喜兵	組換えDNA技術の教材化に関する研究 バイテリオファージの教材化に関する研究 アカバンカビの教材化に関する研究
加藤裕司	アナライザーを利用した発音指導の実践
城戸一夫	1946年以降の“Byzantinische Zeitschrift”及び“Byzantion”のデータベース化 世界史教育論の動向に関する再検討－進歩史観・西欧中心史観・近現代中心主義批判を中心に 国際比較教育学会の設立に伴う国際教育の基礎概念の形成
久保野雅史	身近な語彙の補強－筑駒 Picture Dictionary の作成 オーラル・コミュニケーション能力の育成のための中高連携の指導
熊倉啓之	中学数学における課題学習の教材開発
古賀敦子	効果的な speaking, listening 能力の開発をめざして—Through Phonics
小林汎	ＥＣ加盟後のスペイン経済の変化及び民衆の生活の変化について 中２の校外学習（東京の地域研究）の方法の検討 新学習指導要領の問題点及び今後の地理教育のあり方について
佐藤和孝	準正多面体を中心とした多面体の教材化 コンピュータによる数値計算を用いた指導
鈴木清夫	新学習指導要領の検討 「数Ｉ」「基礎解析」の関数教材の指導法について 統計教材の活性化
須藤敬	中学古文教材に「御伽草子」を用いることの可能性 中世軍記物語諸本論
曽根睦子	学校における集団を対象とした保健指導－やる気を育てる保健指導の展開 学校における集団を対象とした保健指導－宿泊を伴う校外指導時の保健指導 学校における集団を対象とした保健指導—体育的行事に関する保健指導
高橋宏和	本邦新生代産潮間帯貝化石の古生態学的研究
谷口幸夫	ＬＬにおける映像資料の活用法とその効果 入門期における語彙指導について— BINGO を使って 中・高校におけるテスティングのあり方について
土井宏之	陶土による立体造形の制作及び工芸教育への応用研究
中村美穂	歌やゲームを取り入れた英語指導のあり方
福岡久雄	高等学校理科（化学）学習指導要領に関わる調査・研究
深瀬幹雄	授業に生かす確率実験 高校における統計教材
丸浜昭	戦後史をどう教えるか 中学生の歴史学習—「疑問」を育て，考える力をどうのばすか

（注『学校要覧1990』にも同じ内容が掲載されている）

1991（平成３）年度　　『学校要覧1992』より

① プロジェクト研究

研究プロジェクト名	代表者	構成員	研究テーマ
国語科研究プロジェクト	須藤　敬	石井　正己・石川　祐爾 石塚　修・鹽谷　健 鈴木　信好・関口　隆一	中高６か年の古典教材の研究 －その予備的調査･研究 (1/3)
社会科研究プロジェクト	小林　汎	岡本　忠篤・小澤富士男 城戸　一夫・林　幹一郎 丸浜　昭・宮崎　章	開発教育の研究 ―平和教育の各論的研究―(4/5)
数学科研究プロジェクト	鈴木　清夫	井上　正允・熊倉　啓之 駒野　誠・佐藤　和孝 城野　正彦・深瀬　幹雄	情報化社会に対応した創造的教材・指導法の実践的研究 (5/5)
理科研究プロジェクト	貝沼　喜兵	石川　秀樹・大谷　悦久 大道　明・立石　宏和 濱本　悟志・福岡　久雄	新学習指導要領の取り扱いについて (2/3)
保健体育科研究プロジェクト	小沢　治夫	入江　友生・岡崎　勝博 合田　浩二・野井　真吾	発育発達期における無酸素的パワー －体構成との関連などについて
技術芸術科研究プロジェクト	市川　道和	遠藤　正之・土井　宏之 佐藤　千博・廣瀬　裕之	芸術科合同授業の研究と実践
英語科研究プロジェクト	加藤　裕司	古賀　敦子・久保野雅史 鈴木　文子・谷口　幸夫 辻　弘・中村　豊	中･高一貫教育におけるＬＬ学習指導とカリキュラム編成 (3/3)
教務部研究プロジェクト	鈴木　信好	熊倉　啓之・須藤　敬 中村　豊・深瀬　幹雄	新学習指導要領実施に伴う中高を見通ししたカリキュラム編成
教育情報部研究プロジェクト	佐藤　和孝	市川　道和・入江　友生 久保野雅史・鈴木　文子	校内事務のＯＡ研究 －成績処理を中心として－
生徒部研究プロジェクト	鹽谷　健	石川　秀樹・小沢　治夫 小澤富士男・貝沼　喜兵 加藤　裕司・曽根　睦子	本校生徒の生活実態

② 個人研究

教科	教官氏名	研究テーマ
国語	石井　正己	①伝承文学教育の課題 ②古典文学教材研究
	須藤　敬	①中世軍記物語における漢籍受容 ②中学古典教材の研究
社会	小澤富士男	「持続可能な開発」と地球社会
	城戸　一夫	①1946年以降の“Byzantinische Zeitschrift”及び“Byzantion”のデータベース化 ②世界史教育方法論再考－東洋史の時代区分論・歴史教育における近現代中心主義批判 ③開発教育の思想的基盤と理論－「国際教育」の体系化をめざして
	小林　汎	①地理教育における開発教育の位置づけと扱い方に関する実践的研究 ②地球環境の問題を社会科教育でどう扱うかについての実践的研究 ③大学における「社会科教育法」の再構成に関わる研究
	丸浜　昭	①「中学歴史」における15年戦争・戦後史学習－加害・被害・戦争責任をどう扱うか ②歴史民族博物館・印旛沼・佐原地域の校外学習における社会科課題づくり

	宮崎　章	①日本現代史研究（731部隊と生物化学兵器，アメリカ人を通して見る日本占領，ＧＨＱの在日朝鮮人政策など ②日本史辞典項目の再検討―歴史研究の伸展と高校生利用の観点から
数学	井上　正允	①課題学習の検討 ②中高一貫カリキュラムについての考察
	熊倉　啓之	高等学校における課題学習の実践的研究
	駒野　誠	①高三数学演習の指導内容と方法について ②幾何教育のあり方について
	佐藤　和孝	①準正面体を中心とした多面体の教材化 ②コンピュータによる数値計算を用いた指導
	鈴木　清夫	①「平面幾何」の教材開発（新学習指導要領に関連して） ②「２次曲線」におけるコンピュータの利用 ③高等学校における「ベクトル」の指導（大学でのそれとの関連を考えて）
	深瀬　幹雄	「日常の統計」の教材化
理科	石川　秀樹	①生物を主体的に学ぶことを目的とした発表学習とその効果について ②免疫に関する教材開発
	大谷　悦久	生徒が興味・関心を示す化学実験の開発
	大道　明	パソコンの授業への導入（シミュレーションプログラムの改良を中心に）
	貝沼　喜兵	①組換えDNA技術の教材化（実験方法の簡便化，実験材料の自給化） ②選択課題研究の指導と実践に関する研究 ③高校生物におけるSTSプログラム教材開発
保体	岡崎　勝博	保健授業の「態度？？」作成に関する研究
	小沢　治夫	①回転振動法による中学生・高校生の身体慣性モーメント ②東京都内高校生における保健科教育の実態調査 ③長期フォローによるNystagmusパターンの変化について
	合田　浩二	①発育期におけるAnaerobic Powerと体構成の経年的変化 ②回転振動法による中学・高校生の身体慣性モーメント
	野井　真吾	サッカーにおけるこれからのコーチング－日本サッカーの問題点と行方
技芸	土井　宏之	陶土による造形活動及び中学美術教育工芸分野への応用
英語	加藤　裕司	①本校ＡＶ設備についてのまとめ ②ＬＬ教育実践
	久保野雅史	身近な語彙の補強―筑駒Picture Dictionaryの作成
	古賀　敦子	①入門期における発音指導―フェニックスとジーズチャンツを通して ②授業活性化のためのゲームについて ③Paragraph Writingの意義について
	鈴木　文子	新指導要領オーラルコミュニケーションの教材と指導法の研究
	谷口　幸夫	①視聴覚教材のデータベース作り ②高校におけるテスティングの現状分析 ③Writing力の養成
	辻　弘	生涯教育としての外国語教育と国際理解の推進
	中村　豊	接着形容詞（Adherent Adjective）の配列優先順位
養護	曽根　睦子	①学校における集団を対象とした保健指導―実践から理論化へ ②学校における救急処置のあり方―救急体制と問題点 ③養護教諭職制50年の歴史―子どもの健康実態と養護教諭の職務

1992（平成４）年度　　研究部作成資料より

①　プロジェクト研究

研究プロジェクト名	代表者	構成員	研究テーマ
国語科研究プロジェクト	須藤　敬	石井　正己・石川　祐爾 石塚　修・鹽谷　健 鈴木　信好・関口　隆一	中高６か年の古典教材の研究 —その予備的調査・研究（3年計画の２年次）
社会科研究プロジェクト	丸浜　昭	岡本　忠篤・小澤富士男 城戸　一夫・小林　汎 林　幹一郎・宮崎　章	開発教育の研究 —平和教育の各論的研究（５年計画の５年次）
数学科研究プロジェクト	深瀬　幹雄	井上　正允・熊倉　啓之 駒野　誠・佐藤　和孝 城野　正彦・鈴木　清夫	創造的な教材・指導法の実践的研究 —新教育課程実施に向けて—
理科研究プロジェクト	大道　明	石川　秀樹・大谷　悦久 福岡　久雄・貝沼　喜兵 立石　宏和・濱本　悟志	新学習指導要領の取り扱いについて —課題研究を中心として— （３年計画の３年次）
保健体育科研究プロジェクト	岡崎　勝博	深野　明・小沢　治夫 入江　友生・合田　浩二	保健授業における授業診断法の作成
芸術科研究プロジェクト	土井　宏之	市川　道和・遠藤　正之 栗原　重博	芸術科合同授業の研究と実践
英語科研究プロジェクト	谷口　幸夫	久保野雅史・加藤　裕司 鈴木　文子・寺田　恵一 辻　弘・中村　豊	中高一貫におけるオーラル・コミュニケーション能力の育成をめざした実証的研究とカリキュラム編成
教育情報部研究プロジェクト	佐藤　和孝	加藤　裕司・入江　友生 久保野雅史・城戸　一夫	校内事務のＯＡ化に関する研究
生徒部研究プロジェクト	鹽谷　健	石川　秀樹・石川　祐爾 岡崎　勝博・小沢　治夫 曽根　睦子・辻　弘	本校生徒の家庭環境とその意識

②　個人研究

教科	教官氏名	研究テーマ
国語	石井　正巳	(1)『源氏物語絵巻』を利用した源氏物語の学習指導の研究 (2)伝承文学教育の課題—「遠野物語」を読む—
	石塚　修	(1)近世文学教材の開発　(2)随筆教材の読みの方法
	須藤　敬	(1)中世古典教材について　(2)中世軍記物語について
社会	城戸　一夫	(1)1946年以降の“Byzantinische Zeitschrift”及び“Byzantion”のデータベース化 (2)世界史教育における「同時代史学習」の考察と実践—世界史教育方法論の研究② (3)世界の先住・少数民族の研究—「国際教育」の各論的研究③
	小林　汎	(1)地理教育における開発教育の位置づけと扱い方に関する実践的研究（継続） (2)最近のヨーロッパ社会の変動と人々のくらしへの影響及び，新しいヨーロッパ学習への試み (3)新教育課程の実施にともなう新しい小学校社会科の指導に関する研究
	丸浜　昭	(1)近代日本と朝鮮とのかかわりをどうとりあげるか (2)15年戦争・戦後史をどう教えるか
	宮崎　章	(1)アメリカ人を通して見る日本占領 (2)占領期におけるＧＨＱの在日朝鮮人政策 (3) 731 部隊と生物科学兵器

数学	井上　正允	(1)中学数学・課題学習について
	熊倉　啓之	(1)高等数学における総合的教材の開発とその実践的研究 (2)中学生の文字に対する認知発達研究
	駒野　　誠	(1)中1課題学習のテーマ研究　　(2)認知心理学と理解について
	佐藤　和孝	(1)コンピュータによる数値計算を利用した指導 (2)プログラム電卓を利用した指導法 (3)準正面体を中心とした多面体の教材化
	鈴木　清夫	(1)『複素数平面』の指導内容及び指導法について (2)微・積分の指導について
	深瀬　幹雄	(1)日常の中の確率・統計教材
理科	石川　秀樹	(1)中3生態系分野における環境・環境問題をテーマとした授業実践 (2)高2選択生物分野における分子遺伝学の授業実践 (3)免疫のメカニズム
	大谷　悦久	(1)興味・関心を高める実験の開発 (2)コロイド化学の検討
	大道　　明	(1)物理教育におけるコンピューターの利用について（特に力学，電磁気教材のシュミレーションに関して）
	貝沼　喜兵	(1)組換えDNA技術の教材化 —STS教育の一貫として(1)：(2) (2) Saccharomycesの教材化について (3)課題研究（選択生物）の実践的研究
	高橋　宏和	(1)本邦中新統産Telescopiumについて (2)化石 Potamididae（巻貝：ウミニナ科）の分類学的検討
	福岡　久雄	(1)化学における粒子概念の指導について
保体	小沢　治夫	(1)スピード型か持久力型か，筋繊維タイプの決定とこれを応用した指導法 (2) Wingate Anaerobic Power Testによる無酸素的パワーの発育発達に伴う変化について (3)スポーツと骨密度
	合田　浩二	(1)発育期における最大無酸素パワーと体構成の経年的変化（第3次） (2)トレーニング機器を利用したリハビリテーションの症例研究
	深野　　明	(1)保健「健康と環境」の内容構成について —社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をめざす—
技芸	土井　宏之	(1)陶土による造形活動及び，中学校美術教育工芸分野への応用
英語	加藤　裕司	(1)本校におけるティームテーチング —本校AETとのティームテーチング実践報告
	久保野雅史	(1)生徒と作るPicture Dictionary　—学校の話題を中心として— (2) A V教材のデータベース化の試み (3)本校視聴覚設備の問題点とその改善　—視聴覚委員会の指導を通して—
	谷口　幸夫	(1)ライティング指導におけるフィードバックの効果とその限界 (2)オラール・コミュニケーションの指導について (3)中・高一貫をふまえたテスティング理論と実践
	寺田　恵一	(1) A Sample Syllabus for "Oral Communication A" (2)英語指導導入期における指導法の改善について
養護	曽根　睦子	(1)学校における開発・予防的教育活動としての「やる気」を育てる保健指導 —歯科衛生士資格を活かした口腔衛生指導— (2)学校における集団を対象とした保健指導 —保健指導の担当者と協力体制— (3)国立大学附属校における養護教諭の職務（全附連養護教諭部会プロジェクト研究）

資　料　Ⅶ

全附連高校部会研究大会発表一覧

1. 全国国立大学附属学校連盟高等学校部会高等学校教育研究大会開設分科会および当番校
2. 本校からの各分科会での発表一覧

1. 全国国立大学附属学校連盟高等学校部会高等学校教育研究大会開設分科会および当番校一覧

＜前　史＞

昭和29年５月26日に全国附連高等学校部会が成立。

昭和29年から31年までは、東京教育大学附属高の主催する研究発表に引き続いて附属高校部会の研究会を持つ。

昭和32年11月にお茶の水大学附属高を会場に理科の研究会。翌年33年には、名古屋大附高を会場に理科と生活指導をテーマに研究会を開催する。

第23回大会より、主催は、全国国立大学附属学校連盟高等学校部会に、日本教育大学協会第三部高等学校部会が加わった。

年　　度	回	開　設　分　科　会	当　番　校	開催日
1959（昭和34）	1	生活指導・　国語・数学	東京大附	11/6.7
1960（昭和35）	2	生活指導・　社会・数学	奈良女子大附	11/4.5
1961（昭和36）	3	生活指導・　社会・英語	東京教育大附駒場	11/17.18
1962（昭和37）	4	生活指導・　保体・英語	金沢大附	11/1.2
1963（昭和38）	5	生活指導・　保体・理科	東京学芸大附	11/8.9
1964（昭和39）	6	生活指導・　国語・理科	広島大附	11/13.14
1965（昭和40）	7	生活指導・　国語・数学・家庭	お茶の水女子大附	10/22.23
1966（昭和41）	8	生活指導・　社会・数学	大阪学芸大附	10/21.22
1967（昭和42）	9	生活指導・　社会・英語	東京教育大附	10/27.28
1968（昭和43）	10	生活指導・　保体・英語・美術	京都教育大附	10/25.26
1969（昭和44）	11	生活指導・特別・保体・理科・美術	東京大附	10/24.25
1970（昭和45）	12	生活指導・特別・国語・理科・音楽	広島大附福山	10/30.31
1971（昭和46）	13	生活指導・特別・国語・数学・音楽	東京教育大附駒場	10/29.30
1972（昭和47）	14	生活指導・特別・社会・数学	名古屋大附	10/27.28
1973（昭和48）	15	生活指導・特別・社会・英語・美工	東京学芸大附	10/26.27
1974（昭和49）	16	生活指導・あり方・保体・英語・美工	奈良女子大附	10/24.25
1975（昭和50）	17	生活指導・あり方・保体・理科・家庭	お茶の水女子大附	10/24.25

年　度	回	開　設　分　科　会	当　番　校	開催日
1976（昭和51）	18	生活指導・あり方・国語・理科	金沢大附	10/22.23
1977（昭和52）	19	生活指導・あり方・国語・数学	東京教育大附	10/28.29
1978（昭和53）	20	生活指導・あり方・社会・数学	広島大附	10/27.28
1979（昭和54）	21	生活指導・あり方・社会・英語	東京大附	10/26.27
1980（昭和55）	22	生活指導・あり方・保体・英語	大阪教大附天王寺	10/24.25
1981（昭和56）	23	生活指導・あり方・保体・理科	筑波大附駒場	10/30.31
1982（昭和57）	24	生活指導・あり方・国語・理科	愛知教育大附	10/22.23
1983（昭和58）	25	生活指導・あり方・国語・数学・家庭・美工	お茶の水女子大附	10/21.22
1984（昭和59）	26	生活指導・あり方・社会・数学	金沢大附	10/26.27
1985（昭和60）	27	生活指導・あり方・社会・英語・音楽	東京学芸大附	10/25.26
1986（昭和61）	28	生活指導・あり方・保体・英語・音楽	奈良女子大附	10/24.25
1987（昭和62）	29	生活指導・あり方・保体・理科	筑波大附	10/23.24
1988（昭和63）	30	生活指導・あり方・国語・理科	京都教育大附	10/21.22
1989（平成元）	31	生活指導・あり方・国語・数学・家庭・特別学習	東京大附	10/20.21
1990（平成2）	32	生活指導・あり方・社会・数学・コンピュータ	広島大附福山	10/26.27
1991（平成3）	33	生活指導・あり方・社会・英語・コンピュータ	筑波大附駒場	10/18.19
1992（平成4）	34	生活指導・あり方・保体・英語・特別学習	名古屋大附	10/23.24
1993（平成5）	35	生活指導・あり方・保体・理科・コンピュータ	東京学芸大附	10/22.23
↓予定 1994（平成6）	36	生活指導・あり方・国語・理科	大阪教大附天王寺	
1995（平成7）	37	生活指導・あり方・国語・数学	お茶の水女子大附	
1996（平成8）	38	生活指導・あり方・社会・数学	広島大附	
1997（平成9）	33	生活指導・あり方・社会・英語	筑波大附	
1988（平成10）	40	生活指導・あり方・保体・英語	金沢大附	
1999（平成11）	41	生活指導・あり方・保体・理科	東京大附	
2000（平成12）	42	生活指導・あり方・国語・理科	愛知教育大附	
2001（平成13）	43	生活指導・あり方・国語・数学	筑波大附駒場	

（1992年度　第34回大会終了時現在）

1. 生活指導分科会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 1回 (1959)	本校生徒の政治的関心	沢 登 岩 尾
第 2回 (1960)	発表なし	
第 3回 (1961)	クラブ活動の実態調査 ——問題点の発見と改善への道——	石 田 城之助
第 4回 (1962)	発表なし	
第 5回 (1963)	発表なし	
第 6回 (1964)	本校のホームルーム指導と問題点	神 藤 邦 芳
第 7回 (1965)	ホーム・ルーム指導計画作成の手順と実施における問題点	神 藤 邦 芳
第 8回 (1966)	H. R. 活動における生徒の自主的活動	貝 沼 喜 兵
第 9回 (1967)	ホーム・ルームと生徒会との関係強化によるホーム・ルーム指導の実践的研究	共 同 研 究（貝沼喜兵）
第10回 (1968)	ホーム・ルームと生徒会との関係強化によるホームルーム指導の実践的研究	岡 本 忠 篤
第11回 (1969)	発表なし	
第12回 (1970)	高校生の政治活動と学校の指導	石 田 誠之助
第13回 (1971)	クラブ調査について	大 内 勝 夫
第14回 (1972)	発表なし	
第15回 (1973)	本校における体育クラブ夏期合同合宿について	川 畑 栄 一
第16回 (1974)	発表なし	
第17回 (1975)	発表なし	
第18回 (1976)	生徒の同好会活動をどうとらえるか ——部活動と関連して——	久保木 清 岡 本 忠 篤
第19回 (1977)	音楽祭についての生徒の意識について	牛 田 英 一
第20回 (1978)	学校行事の再編成について	牛 田 英 一
第21回 (1979)	発表なし	
第22回 (1980)	本校生徒のルール意識	生 徒 部
第23回 (1981)	本校における校外指導の実態 ——高1の場合——	松 井 一 夫
第24回 (1982)	本校のクラブ活動の実態	小沢 治夫・松井 一夫・久保木 清・岡崎 勝博 鈴木 信好・笠原 順路・塩谷 健・長野 東
第25回 (1983)	本校生徒の悩みの実態について	大 道 明
第26回 (1984)	本校生徒の学習実態について	大 道 明
第27回 (1985)	学校生活	石 川 祐 爾
第28回 (1986)	校外の学習機会について	岡本 忠篤・土井 宏之
第29回 (1987)	飲酒・喫煙・交際・性に関する調査	鈴木 信好・遠藤 正之・大谷 悦久・小沢 治夫 盥谷 健・岡崎 勝博・磯田 正美
第30回 (1988)	生徒の学校への帰属意識の調査	鈴木 信好・大道 明・大谷 悦久・遠藤 正之 岡崎 勝博・石井 正己・高橋 宏和
第31回 (1989)	処罰の限界とその有効性 本校の自治会・委員会活動の問題点	大 道 明 丸浜 昭・濱本 悟志
第32回 (1990)	本校クラブ合宿の実態と問題点	合 田 浩 二
第33回 (1991)	高校生の生活実態調査結果	盥 谷 健
第34回 (1992)	学校・生徒・家庭の三者間における生徒指導の連関	盥 谷 健

第1回～第22回までは、第23大会（1981、筑波大附駒場）の時に作成した「研究目録」による。第23回以降は各大会の「日程・発表要旨」に記載されたものによる。（従って、実際の発表テーマとズレがある場合がある）また、第26回大会（1984、金沢大附）は、「研究集録」が研究部にないので調査からもれている。（以下同じ）

2. 国語分科会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第1回 (1959)	俳句の理解・鑑賞についての一考察	柾　繁
第2回 (1960)		
第3回 (1961)		
第4回 (1962)		
第5回 (1963)		
第6回 (1964)	高校生の語彙の実態	松井一夫
第7回 (1965)	高校生の語彙の実態 ——語彙調査の結果報告——	丸尾芳男
第8回 (1966)		
第9回 (1967)		
第10回 (1968)		
第11回 (1969)		
第12回 (1970)	郷土との関連から見た国語教材のあり方 ——主として古典および明治・大正文学について——	柾　繁・勝田　学
第13回 (1971)	発表なし	
第14回 (1972)		
第15回 (1973)		
第16回 (1974)		
第17回 (1975)		
第18回 (1976)	古典学習についての生徒の意識 ——中学との関連をふまえて——	高井　霞・石田　城之助

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第19回 (1977)	混成学級における高Ⅰ古文学習指導の試み	国語科
第20回 (1978)		
第21回 (1979)		
第22回 (1980)		
第23回 (1981)		
第24回 (1982)	現代国語に関する意識調査について	石川　祐爾・鈴木　信好
第25回 (1983)	6カ年を見通した現代国語の教材編成について（その1・小説）	鈴木　信好・石川　祐爾
第26回 (1984)		
第27回 (1985)		
第28回 (1986)		
第29回 (1987)		
第30回 (1988)	中・高6ケ年を見通した現代国語の教材編成 ——説明的文章・論説・評論——	石井正己
第31回 (1989)	中高6ケ年を見通した現代国語の教材編成 ——説明的文章・論説・評論——	関口隆一ほか
第32回 (1990)		
第33回 (1991)		
第34回 (1992)		

（注）斜線は開催されなかった年度。（以下同じ）

3. 社会分科会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第1回 (1959)		
第2回 (1960)	親子関係における世代の断層 ——主として扶養の義務をめぐる心理的・法社会学的の考察——	沢登岩尾
第3回 (1961)	地理分野における中学生と比較した高校生の社会認識の発達 発表学習と高校生の歴史意識 社会調査と社会意識——主として農村、労働（都市）問題について——	神藤邦芳 明石総一 沢登岩尾
第4回 (1962)		
第5回 (1963)		
第6回 (1964)		
第7回 (1965)		
第8回 (1966)	高校歴史教育における課題学習について	坂根　義久・小沢　正晴
第9回 (1967)	世界史教育における歴史的概念の扱いについて	明石総一
第10回 (1968)		
第11回 (1969)		
第12回 (1970)		
第13回 (1971)		
第14回 (1972)	「現代社会」の特色をどう扱うか	林　幹一郎
第15回 (1973)	発表なし	
第16回 (1974)		
第17回 (1975)		
第18回 (1976)		
第19回 (1977)		
第20回 (1978)	本校中・高生の社会認識予備調査について ——その分析と調査の問題点——	城戸一夫
第21回 (1979)	中・高6カ年における社会認識調査	林　幹一郎
第22回 (1980)		
第23回 (1981)		
第24回 (1982)		
第25回 (1983)		
第26回 (1984)	平和認識調査 ——社会科総合学習試案作成のために——	小沢　富士男・小林　汎・増渕　徹
第27回 (1985)	平和の問題について	小沢富士男
第28回 (1986)		
第29回 (1987)		
第30回 (1988)		
第31回 (1989)		
第32回 (1990)	地球社会の中で開発教育を考える	小澤富士男
第33回 (1991)	社会科の中に開発教育をどう取り入れていくか	小林　汎
第34回 (1992)		

4. 数 学 分 科 会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 1回 (1959)	数学の用語について	左近　良
第 2回 (1960)	数学用語について	中野次郎
第 3回 (1961)		
第 4回 (1962)		
第 5回 (1963)		
第 6回 (1964)		
第 7回 (1965)	集合の交わり・結びに関する表現とその内容（調査）	秋葉一郎
第 8回 (1966)	高校における集合と写像の指導について	喜多耕作
第 9回 (1967)		
第10回 (1968)		
第11回 (1969)		
第12回 (1970)		
第13回 (1971)	線型代数の導入	長野　東
第14回 (1972)	線型代数の導入について 高校教材の統合的把握	長野　東 栗原幹夫
第15回 (1973)		
第16回 (1974)		
第17回 (1975)		
第18回 (1976)		

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第19回 (1977)	創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的な研究	栗原幹夫
第20回 (1978)	創造的思考力を伸ばす教材とその指導法の実践的研究	佐近　良
第21回 (1979)		
第22回 (1980)		
第23回 (1981)		
第24回 (1982)		
第25回 (1983)	創造的思考力を伸ばす教材と、その指導法の実践的研究	栗原幹夫
第26回 (1984)	数学的創造力を伸ばす教材と指導の研究	栗原幹夫
第27回 (1985)		
第28回 (1986)		
第29回 (1987)		
第30回 (1988)		
第31回 (1989)	発表なし	
第32回 (1990)	コンピュータを利用した創造的教材・指導法の研究	吉井洋二
第33回 (1991)		
第34回 (1992)		

5. 理 科 分 科 会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 0回 (1958)	高等学校と中学校における教育内容（理科）の関連について	草間正夫
第 2回 (1960)		
第 3回 (1961)		
第 4回 (1962)		
第 5回 (1963)	生物学習に及ぼす化学的技能の影響	重松樫三
第 6回 (1964)	地学と物理との関連について 指導要領の実践に基づく反省と批判	牛田英一 重松樫三
第 7回 (1965)		
第 8回 (1966)		
第 9回 (1967)		
第10回 (1968)		
第11回 (1969)	物理教育改革の試み ——力学の授業を通じて—— 「遺伝学習における分子遺伝子学の指導に関する実践的研究」	大道明 貝沼喜兵 重松樫三
第12回 (1970)	昭和44年度高校1年性物学習の経過 ——生物学習の内容と目標—— 分子遺伝学の指導に関する実践的研究 物理教育改革の一つの試み ——熱学教材の分析を通して——	重松樫三 貝沼喜兵 大道明
第13回 (1971)		
第14回 (1972)		
第15回 (1973)		
第16回 (1974)		
第17回 (1975)	発表なし	
第18回 (1976)	中・高理科学習におけるエネルギーの取扱いについて	大道明

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第19回 (1977)		
第20回 (1978)		
第21回 (1979)		
第22回 (1980)		
第23回 (1981)	本校における理科Ⅰの教育課程の作成について	巻島三郎・福岡久雄・石川秀樹・牛田英一
第24回 (1982)	理科学習調査	大谷悦久
第25回 (1983)		
第26回 (1984)		
第27回 (1985)		
第28回 (1986)		
第29回 (1987)	理科Ⅰ地学と選択物理における万有引力の取扱いについて	大道明・高橋宏和
第30回 (1988)	中高一貫教育における教材研究 ——生物分野——	石川秀樹
第31回 (1989)		
第32回 (1990)		
第33回 (1991)		
第34回 (1992)		

1958（昭和33）年の名古屋大附高で開催された第0回より参加している。第1回（1959）～第4回（1962）は理科分科会はない。

6. 保健体育分科会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 1回 (1959)		
第 2回 (1960)		
第 3回 (1961)		
第 4回 (1962)	保健体育の学習指導とその生活化に関する研究（第１報）	坂田敬雄
第 5回 (1963)	保健体育の学習指導とその生活化に関する研究（第２報）	高田栄一
第 6回 (1964)		
第 7回 (1965)		
第 8回 (1966)		
第 9回 (1967)		
第10回 (1968)	本校の学年別運動技術について 保健における効果的学習方法について	川畑栄一 深野　明
第11回 (1969)	保健学習の構造	深野　明
第12回 (1970)		
第13回 (1971)		
第14回 (1972)		
第15回 (1973)		
第16回 (1974)	器械運動（マット）の指導についての調査	深野　明
第17回 (1975)	学校体育における持久走の効果に関する研究 教科「保健」の問題と解決への一提案	久保正秋 深野　明
第18回 (1976)		

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第19回 (1977)		
第20回 (1978)		
第21回 (1979)		
第22回 (1980)	六カ年領域別内容別到達目標	小沢　治夫・大矢　稔・入江　友生・深野　明・川畑　栄一
第23回 (1981)	中・高六カ年一貫カリキュラムの検討について	大矢　稔・入江　友生・小沢　治夫・深野　明・川畑　栄一
第24回 (1982)		
第25回 (1983)		
第26回 (1984)		
第27回 (1985)		
第28回 (1986)	中高一貫６カ年カリキュラムの検討（2）	入江友生
第29回 (1987)	保健体育科中・高六カ年一貫カリキュラムの検討（第４報）	深野　明・小沢　治夫・入江　友生・岡崎　勝博・合田　浩二
第30回 (1988)		
第31回 (1989)		
第32回 (1990)		
第33回 (1991)		
第34回 (1992)	保健授業における授業診断法の作成	岡崎勝博

7. 芸術（美術・工芸・音楽）分科会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 1回 (1959)		
第 2回 (1960)		
第 3回 (1961)		
第 4回 (1962)		
第 5回 (1963)		
第 6回 (1964)		
第 7回 (1965)		
第 8回 (1966)		
第 9回 (1967)	「名画によるキリスト受難」 ――美術スライドによる鑑賞（公開授業）――	白木博也
第10回 (1968)		
第11回 (1969)	美術 発表なし	
第12回 (1970)	発表なし	
第13回 (1971)	音楽 発表なし	
第14回 (1972)	美術鑑賞教育の一考察	白木博也
第15回 (1973)		
第16回 (1974)	美工 発表なし	
第17回 (1975)		
第18回 (1976)		

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第19回 (1977)		
第20回 (1978)		
第21回 (1979)		
第22回 (1980)		
第23回 (1981)		
第24回 (1982)		
第25回 (1983)	美工 発表なし	
第26回 (1984)		
第27回 (1985)	音楽 発表なし	
第28回 (1986)	発表なし	
第29回 (1987)		
第30回 (1988)		
第31回 (1989)		
第32回 (1990)		
第33回 (1991)		
第34回 (1992)		

8. 英語分科会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 1回 (1959)		
第 2回 (1960)		
第 3回 (1961)	テストにあらわれた間違いの原因調査 ——時制の研究——	浅原欣次
第 4回 (1962)	動詞の時制	晴山 数二・中村 豊
第 5回 (1963)		
第 6回 (1964)		
第 7回 (1965)		
第 8回 (1966)		
第 9回 (1967)	速読力養成法の研究（一試案のその実践データ）	大西光興
第10回 (1968)	平常授業において、いかに速読力をつけるか	小林祐二
第11回 (1969)		
第12回 (1970)		
第13回 (1971)		
第14回 (1972)		
第15回 (1973)	中・高英語検定教科書の語いの実態調査	久保木 清
第16回 (1974)	中・高英語検定教科書の語いの実態調査（継続研究）	久保木 清
第17回 (1975)		
第18回 (1976)		
第19回 (1977)		
第20回 (1978)		
第21回 (1979)	発表なし	
第22回 (1980)	英語授業と英語教科書について ——英語検定教科書に関する生徒の意識調査——	久保木 清・辻 弘
第23回 (1981)		
第24回 (1982)		
第25回 (1983)		
第26回 (1984)		
第27回 (1985)	誤答分析	稲岡信之
第28回 (1986)	英語による表現力の育成をめざして ——誤答分析をもとにした補助教材を使って——	長谷川和則
第29回 (1987)		
第30回 (1988)		
第31回 (1989)		
第32回 (1990)		
第33回 (1991)	中高におけるAV教材のデータベース化の試み	久保野雅史
第34回 (1992)	AV教材のデータベース化の試み	久保野雅史

9. 家庭科分科会　10. 特別学習分科会　11. コンピュータ分科会

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 1回 (1959)		
第 2回 (1960)		
第 3回 (1961)		
第 4回 (1962)		
第 5回 (1963)		
第 6回 (1964)		
第 7回 (1965)	家庭　発表なし	
第 8回 (1966)		
第 9回 (1967)		
第10回 (1968)		
第11回 (1969)		
第12回 (1970)		
第13回 (1971)		
第14回 (1972)		
第15回 (1973)		
第16回 (1974)		
第17回 (1975)	家庭　発表なし	
第18回 (1976)		
第19回 (1977)		
第20回 (1978)		
第21回 (1979)		
第22回 (1980)		
第23回 (1981)		
第24回 (1982)		
第25回 (1983)	家庭　発表なし	
第26回 (1984)		
第27回 (1985)		
第28回 (1986)		
第29回 (1987)		
第30回 (1988)		
第31回 (1989)	家庭　発表なし / 特別学習　発表なし	
第32回 (1990)	家庭　発表なし / コンピュータ　発表なし	
第33回 (1991)	コンピュータ　数学教育におけるコンピュータ利用の具体例	鈴木清夫
第34回 (1992)	特別学習　芸術科合同授業の研究と実践	遠藤正之・土井宏之

(注)　家庭科分科会には出席していないと思われる。

12. 附属のあり方分科会　（第11回大会以降毎年実施）

回（年度）	研究発表テーマ	発表者
第 1回 (1959)		
第 2回 (1960)		
第 3回 (1961)		
第 4回 (1962)		
第 5回 (1963)		
第 6回 (1964)		
第 7回 (1965)		
第 8回 (1966)		
第 9回 (1967)		
第10回 (1968)		
第11回 (1969)	発表なし	
第12回 (1970)	（フリートーキング）	
第13回 (1971)	筑波新構想大学と学校教育研究センター ——駒場構想をたたき台として——	重松樫三
第14回 (1972)	発表なし	
第15回 (1973)	発表なし	
第16回 (1974)	発表なし	
第17回 (1975)	発表なし	
第18回 (1976)	（情報交換）	
第19回 (1977)	発表なし	
第20回 (1978)	発表なし	
第21回 (1979)	発表なし	
第22回 (1980)	大学側の協力を助長するための方策 ——筑波大学の場合——	筑波大附・附駒場・附坂戸 雫石 重一郎・柾 繁 坂根 義久・綱川 時行
第23回 (1981)	筑波大学教育実習生の体験調査	遠藤 正之・牛田 英一
第24回 (1982)	発表なし	
第25回 (1983)	発表なし（主として情報交換）	
第26回 (1984)	？	
第27回 (1985)	発表なし	
第28回 (1986)	発表なし	
第29回 (1987)	発表なし	
第30回 (1988)	発表なし	
第31回 (1989)	シンポジュウム「附属学校はどうあるべきか —研究活動を中心にして—」 ① 学校全体としてどう研究活動に取り組んでいるか	城戸一夫
第32回 (1990)	発表なし	
第33回 (1991)	情報交換（附属学校実態調査	林 幹一郎）
第34回 (1992)	発表なし	

（注）「発表なし」は特に本校からレポートを提出していない場合。毎年出席し、情報交換の場面で発言している場合多し。

資料 Ⅷ

本校教官の個人研究目録一覧

新井勇治	小沢治夫	曽根睦子
石井正己	貝沼喜兵	谷口幸夫
石川秀樹	城戸一夫	寺田恵一
井上正允	久保野雅史	中村豊
大谷悦久	小林汎	深野明
大道明	駒野誠	丸浜昭
岡崎勝博	合田浩二	宮崎章

（アイウエオ順）

この個人研究目録の作成は，'92年５月25日の教官会議において研究部より提起し，９月28日の教官会議にて担当（小林）より趣旨を説明し，教官各位に協力を求めて作成したものである。

作成理由の第一は，本校創立50周年（1997年がその年である）の前に，研究部の研究活動の一環として，各教官の教育実践，研究活動を整理しておきたいと考えたことである。第二に，筑波大学では1990年より『筑波大学研究業績』を毎年年報として刊行していくようになったが，残念ながら附属学校教官の研究業績は掲載されていない。附属学校の教官は，日常的には児童，生徒に直接かかわる教育活動が中心であるが，決して研究活動をしていないわけではない。逆に教育実践に根ざした，現場の教員でなければなかなか出来ない研究活動を行っている。本校においても毎年『研究報告』を発行し，各教科等のプロジェクト研究や個人研究を掲載している。さらに個々の教官は，それぞれが関係する学会や研究会などでも活動したり，論文を発表している。こうしたことが筑波大学の研究業績として評価されないことは残念なことである。この際，自分たちの手で整理をしておくことも大切だと考えたのである。さらに，お互いの研究活動を知ることは，互いに刺激し合い，互いに学び合えるのではないだろうか。本校の教育実践・研究活動の前進に役立てばと思っている。

今回のこの目録は，書き方，掲載論文・著書等の取捨選択の基準などにアンバランスがある。それは，提出されたものを，そのまま尊重し，あまり担当者の方で手を入れていないからである。初めての試みなのでお許し願いたい。今後，本校にあった目録が継続的に作成できればと思っている。

今回は，新井校長を含めて21名の方々より協力をいただいた。以下掲載する。

（1992年12月現在）

○ 新 井 勇 二（校長）

学 術 論 文（1984年以降）

1. Structural characterization of amylopectin and intermediate material in amylomaize starch granules., Baba et al., Agric. Biol. Chem., Vol.48, pp.1763, 1984.
2. Heat-stable calmodulin-binding protein in rat testis: Inhibition of calmodulin-stimulated cyclic nucleotide phosphodiesterase activity., Ono et al., J. Biol. Chem., Vol.259, pp.9011, 1984.
3. Establishment of effeceint purification method and further characterization of 32K calmodulin-binding protein in testis., Ono et al., J. Biochem., Vol.98, pp.1455, 1985.
4. Sucrose synthesis in callus cultures., Hisajima et al., Biologia Plantarum, Vol.27, pp.74, 1985.

5. サゴ澱粉の褐変に関与するポリフェノール化合物，岡本　他，　農化誌，59巻，1257頁，1985。

6. Physiological difference between original and lactose-adapted cells of Japanese morning-glory., Hisajima et al., Plant Tissue Culture Lett., Vol.2, pp.52, 1985.

7. Flavans from the pith of sago palm., Okamoto et al., Agric. Biol. Chem., Vol.50, pp.1655, 1986.

8. Structural features of amylomaize starch: Components of Amylon 50 starch., Baba et al., J. Jpn. Soc. Starch Sci., Vol.34, pp.196, 1987.

9. Decrease in iodine binding capacity of potato amylose (Amylose V) during its β-amylolysis., Baba et al., J. Jpn. Soc. Starch Sci., Vol.34, pp.211, 1987.

10. Structural features of amylomaize starch: Components of Amylon 70 starch, Baba et al., J. Jpn. Soc. Starch Sci., Vol.34, pp.213, 1987.

11. Tissue specificity of calspermin: A heat-stable Mr 32,000 calmodulin-binding protein., Ono et al., Arch. Biochem. Biophys., Vol.255, pp.102, 1987.

12. Introduction of earss from maize seeds in vitro and plant regeneration from ovaries of unfertlized ears., HIsajima et al., Agric. Biol. Chem., Vol.51, pp.583, 1987.

13. Microplant propagation of rice plant., Hisajima et al., Japan. J. Trop. Agr., Vol.31, pp.12, 1987.

14. Mass propagation of giant ipil-ipil in vitro., Hisajima et al., Japan. J. Trop. Agr., Vol.31, pp.249, 1987.

15. Isolation and characterization of the 36-kDa D-mannose 6-phosphate receptor from porcine testis., Baba et al., Carbohydr. Res., Vol.177, pp.153, 1988.

16. Preparation and application of a pentamannosyl monophosphatebovine serum albumin conjugate., Baba et al., Carbohydr. Res., Vol.177, pp.163, 1988.

17. Partial purification and some properties of polyphenol oxidases from sago palm., Okamoto et al., Agric. Biol. Chem., Vol.52, pp.2215, 1988.

18. Activation of boar proacrosin is effected by processing at both N- and C-terminal portions of the zymogen molecule., Baba et al., FEBS Lett., Vol.244, pp.132, 1989.

19. Primary structure of human proacrosin deduced from its cDNA sequence., Baba et al., FEBS Lett., Vol.244, pp.296, 1989.

20. Nucleotide sequence of the maltotetraohydrolase gene from Pseudomonas saccharophila., Zhou et al., FEBS Lett., Vol.255, pp.37, 1989.

21. Activation and maturation mechanisms of boar acrosin zymogen based on the deduced primary structure., Baba et al., J. Biol. Chem., Vol.264, pp.11920, 1989.

22. Proacrosin activation in the presence of a 32-kDa protein from boar spermatozoa., Baba et al., Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol.160, pp.1026, 1989.

23. Micropropagation of cucumber plant through reproductive organ culture and semi-aquaculture of regenerated plants., Hisajima et al., Japan. J. Trop. Agr., Vol.33, pp.1, 1989.

24. Properties of primer-dependent starch synthesis catalyzed by starch synthase from potato tubers., Baba et al., Phytochemistry, Vol.29, pp.719, 1990.

25. Primary structure of mouse proacrosin deduced from the cDNA sequence and its gene expression during spermatgenesis., Kashiwabara et al., J. Biochem., Vol.108, pp.785, 1990.

26. Acrosin biosynthesis in meiotic and postmeiotic spermatogenic cells., Kashiwabara et al., Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol.173, pp.240, 1990.

27. An improved assay for β-glucuronidase in transformed cells: Methanol almost completely suppresses a putative endogenous β-glucuronidase activity., Kosugi et al., Plant Sci., Vol.70, pp. 133, 1990.

28. Structure and organization of the mouse acrosin gene., Watanabe et al., J. Biochem., Vol.109, pp. 828, 1991.

29. Upstream sequences of rice proliferating cell nuclear antigen (PCNA) gene mediate expression of PCNA-GUS chimeric gene in meristems of transgenic tobacco plants., Kosugi et al., Nucleic Acids Res., Vol.19, pp.1571, 1991.

30. Sequence conservation of the catalytic regions of amylolytic enzymes in maize branching enzyme-I., Baba et al., Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol.181, pp.87, 1991.

31. Properties of the enzyme expressed by the Pseudomonas saccharophila maltotetraohydrolase gene (mta) in Escherichia coli., Zhou et al., Carbohydr. Res., Vol.233, pp.255, 1992.

32. Life cycle of peanut (Arachis hypogaea L.) plant in vitro., Kachonpadungkitti et al., Biosci. Biotech. Biochem., Vol.56, pp.543, 1992.

石 井 正 己（国語）

＜論文＞

1. 「伝承文学教育の課題(1)－中1の学習指導と伝承文学資料集」
   筑波大学附属駒場中・高「研究報告」第28集（1988）
2. 「伝承文学教育の課題 (2)－中3における『遠野物語』の学習指導」
   筑波大学附属駒場中・高「研究報告」第32集（1992）

石　川　秀　樹（理科・生物）

＜論文＞

1. 「高校生物Ⅱ（形質転換）の指導について」
　　筑波大学附属駒場中高「研究報告」第19集（1979）共同執筆
2. 「池の生産力測定（第2報）－エネルギー固定率を測定する試み－」
　　同　　上　　「研究報告」第20集（1980）共同執筆
3. 「遺伝子概念の歴史的発展の実証的指導」
　　同　　上　　「研究報告」第21集（1981）共同執筆
4. 「理科Ⅰの「遺伝」と選択生物の「遺伝子と形質発現」の指導内容とその関連性について」
　　同　　上　　「研究報告」第22集（1982）共同執筆
5. 「『環境学習の指導実践』－中学3年生における課題研究の1例として」
　　同　　上　　「研究報告」第31集（1991）共同執筆

井　上　正　允（数学）

1. 『たのしくわかる中学数学の授業　1数と量』
　　銀林浩監修，高橋晋代との共著，あゆみ出版，1980
2. 『意欲と発見で創る算数・数学の授業』
　　藤中悦雄編，石渡孝との共著，教育開発研究所，1989
3. 「筑駒」考
　　筑波大学附属駒場中高「研究報告」第30集　1990

大　谷　悦　久（理科・化学）

＜論文＞

1. 東京教育大学附属駒場中・高ユネスコ委員，　経済関係を中心とした国際理解教育，ユネスコ委員会報告書，1986.3
2. 重松・大谷他，　中学校・高等学校におけるエネルギー教育の現状と問題点，　東京教育大学附属駒場中・高校研究報告15・16集（75～94），1977.3
3. 福岡久雄・大谷悦久，　高校化学実験における赤外分光光度計の利用と実践―エステル生成を中心にして，　日本理化学協会研究紀要9巻（72～73），1976，
　　東京教育大学附属駒場中・高校研究報告15・16集（95～112），1977.3
4. 福岡久雄・大谷悦久，　高校化学実験における赤外分光光度計の利用と実践（2報），
　　東京都理科教育研究会発表集録17巻（46～49），1977.12，

東京教育大学附属駒場中・高校研究報告17集（11～46），1978.3
5. 福岡久雄・大谷悦久，　普通高校におけるIR利用と実践，　化学教育25-6，1977.12
6. 大谷悦久他理科教官，　本校生徒の理科学習状況について（中学），　東京教育大学附属駒場中・高校研究報告17集（47～86），1978.3
7. 大谷悦久他理科教官，　理科学習調査（高校），　東京教育大学附属駒場中・高校研究報告17集（211～244），1978.3
8. 大谷悦久，　化学平衡の研究，　高校理科研究，1978.6
9 福岡久雄・大谷悦久，　高校化学実験における赤外分光光度計の利用と実践（3報），
日本理化学協会紀要10巻（62～63），1978.8，
筑波大学附属駒場中・高校研究報告18集（267～282）（以下本校研究報告），1976.3
10. 大谷悦久，　化学クラブにおける機器（IR,UV-VIS）利用について，
日本理化学協会紀要10巻（58～59），1978.8，
本校研究報告18集（283～292），1979.3
11. 大谷悦久，　フェノールフタレインの退色速度の測定―可視分光光度計の利用―，　東京都理科教育研究会研究発表収録18集（56～58），1978.11
12. 巻島・大谷他，　理科学習調査，　本校研究報告18集（101～130），1979.3
13. 石川・大谷他，　中学校理科校外学習，　本校研究報告19集（101～112），1980.3
14. 大谷悦久，　揮発性物質の分子量測定，　高校理科研究，1979.4
15. 大谷悦久，　化学クラブにおける機器（IR, UV-VIS）利用について，　本校研究報告19集（183～196），1980.3
16. 大谷悦久，　生徒実験における機器（IR, UV-VIS）利用，　東京都理科教育研究会研究発表集録19集（40～43），1979.11，
本校研究報告19集（173～182），1980.3
17. 大谷悦久，　化学Ⅰ・Ⅱ学習調査（科学研究費Ｂ），　東京都理科教育研究会研究発表集録20集（51～53），1980.11
18. 大谷悦久，　生徒実験における機器（I, RUV-VIS）利用（2報）（科学研究費Ｂ），　本校研究報告20集（99～114），1981.3
19. 大谷悦久・岡本裕巳，　中和滴定曲線の数式化について，
東京都理科教育研究会研究発表集録20集（39～41），1980.11，
本校研究報告20集（89～98），1981.3
20. 大谷悦久他，　昭和55年度理科学習調査，　本校研究報告20集（17～34），1981.3
21. 大谷悦久，　化学クラブにおける機器（IR, UV-VIS）利用について―マイクロコンピューターの利用―，　日本理化学協会発表集録（1981年度），1981.8，
本校研究報告21集（249～256），1982.3

22. 石川・大谷他，　理科Ｉの各分野の指導計画について，　本校研究報告21集（99～152），1982.3
23. 巻島・大谷他，　中学校理科校外学習，　本校研究報告22集（174～194），1983.3
24. 石川・大谷他，　理科学習調査，　本校研究報告22集（143～174），1983.3
25. 石川・大谷他，　理科学習調査，　本校研究報告23集（39～56），1984.3
26. 大道・大谷他，　本校生徒の学習実態についての調査，　本校研究報告24集（107～148），1985.3
27. Y. OTANI,　Use of Modern Instruments in the Chemistry Class of High School --UV and IR Spectrometers, pHmeters, and Microcomputers，　第8回国際化学教育会議 8-ICCE（4c 242fp），1985. 8
28. 大谷悦久，　題名は27に同じ，内容は若干異なる，　本校研究報告25集（239～251），1986.3
29. 石川・大谷他，　中・高一貫カリキュラム，　本校研究報告27集（79～94），1988.3
30. 林・大谷他，　研修による教師意識の変容に関する調査研究，　筑波大学学校教育部紀要９（123～138），1987.
31. 鈴木・大谷他，　飲酒・喫煙・交際・性に関する調査，　本校研究報告27集（147～208），1988.3
32. 林・大谷他，　研修による教師意識の変容に関する調査研究（２報），　筑波大学学校教育部紀要10（17～33），1988.3
33. 石曽根・大谷他，東京都理科教育研究会化学専門委員，　興味関心を高める高校化学の授業展開，　東京都理科教育研究会発表集録28巻（72～85），1988.3
34. 石曽根・大谷他，東京都理科教育研究会化学専門委員，　興味関心を高める高校化学の授業展開，　東京都理科教育研究会発表集録29巻（72～85），1989.3
35. 大谷悦久，　生徒の興味関心を高める実験の開発―高校化学―，　筑波大学学校教育部紀要12巻（229～238），1990.3
36. 大谷・小林他，　高校理科教育における基礎的・基本的事項，　筑波大学学校教育部紀要12巻（63～78），1990.3
37. 丹伊田・大谷他，東京都理科教育研究会化学専門委員，　興味関心を高める実験と実践（Ｉ），　東京都理科教育研究会発表集録30巻（74～83），1990. 3
38. 丹伊田・大谷他，東京都理科教育研究会化学専門委員　，興味関心を高める実験と実践（Ⅱ），　東京都理科教育研究会発表集録31巻（76～84），1991.3

〈著作〉

39. 石曽根・大谷他，東京都理科教育研究会化学専門委員，　興味・関心を高めるミニ実験集，　東京都理科教育研究会化学専門委員会，1990.2
40. 丹伊田・大谷他，東京都理科教育研究会化学専門委員，　興味・関心を高める実験教材，

東京都理科教育研究会化学専門委員会，1992.2

41. 小林・大谷他，　児童・生徒のわかり方とそれらに基づくCAI用教材開発に関する実践的研究―その3―（昭和63年度文部省特定研究），　筑波大学学校教育部，1990.3

42. 松岡・大谷他，　教育実習生の教授指導に関わる実証的研究―教生の発問の記録・分析を通して―（その3），　筑波大学学校教育部，1991.3

大　道　　明（理科，物理）

1. 「物理教育改革の試み－力学の授業を通じて－」
   筑波大学附属駒場中高「研究報告」第10集（1970）
2. 「物理教育改革の試み－熱学教材の分析を通して」
   全附連高校部会第12回研究大会報告（1970・10）
3. 「理科Ⅰ地学」と「選択物理」における万有引力の取り扱いについて」（高橋宏和氏と共同執筆）
   筑波大学附属駒場中高「研究報告」第27集（1987）

岡　崎　勝　博（保健体育）

＜雑誌論文＞

1. 「疾病の予防」野村良和　『体育科教育』31巻9号，10号，1983
2. 「人間の性の特徴」山梨八重子　『学校体育』36巻9号，10号，1983
3. 「イタイイタイ病(1)」「イタイイタイ病(2)」連載「授業書」による保健授業の試み　『体育科教育』36巻1，2号，1988.1.2
4. 「教科書のなかの体育理論」　『体育科教育』36巻7号，1988.6
5. 「健康と環境」　『体育科教育』36巻9号，1988.8
6. 「男の性と女の性」　『学校体育』36巻16号，1988.12
7. 「し尿処理と自然浄化」連載・保健の授業を創る　『体育科教育』37巻9号，1989.8
8. 「鎮痛剤はどこに効くのか？」　『授業づくりネットワーク』3巻12号，1990.10
9. 「『能書』読めるかな」　『授業づくりネットワーク』3巻15号，1990.12
10. 「インフルエンザの予防」　『体育科教育』37巻14号，1990.12
11. 「教具を多用した保健授業」　『学校体育』44巻5号，1991.5
12. 「環境によっておこる病気」　『体育科教育』39巻10号，1991.8
13. 「保健室を健康チックのセンターに」　『体育科教育』40巻12号，1992.10

＜研究紀要＞

14. 「保健担当教員の養成に関する研究－筑波大学の教育実習を中心に－」大塚正八郎編　『筑波大学体育科学系紀要』1982
15. 「発育発達期における自転車エルゴメータによる最大無酸素パワーの研究」　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第25集，1985
16. 「中高六ヶ年一貫カリキュラムの検討（第2報）」　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第25集，1985
17. 「中高六ヶ年一貫カリキュラムの検討（第3報）」　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第26集，1986
18. 「発育発達期における自転車エルゴメータによる最大無酸素パワーの研究（第2報）」『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第27集，1987
19. 「飲酒・喫煙・交際・性に関する調査」（生徒部）　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第27集，1987
20. 「本校生の学校生活に関する調査」（生徒部）　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第29集，1989
21. 「本校における体力トレーニングの取り組みとその成果について」　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第29集，1989
22. 「発育発達期における最大無酸素的パワーの研究（第3報）－ウィンゲートテストと体構成との関連－」　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第30集，1990
23. 「教育実習からみた保健科教育の実態調査」　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第31集，1991
24. 「脚伸展パワー測定装置を用いた発育期における筋出力に関する研究」　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第31集，1991
25. 「保健授業における授業診断法の作成の試み」（体育科）　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第32集，1992
26. 「筑波大学附属学校における保健・体育実践の現状と問題点－（１）水泳指導について－」深野明他　『筑波大学学校教育部紀要』第13巻，1991
27. 「筑波大学附属学校における体育実技の現状と問題点Ⅱ－水泳に関する児童・生徒の意識について－」深野明他　『筑波大学学校教育部紀要』第14巻，1992

＜著書＞

28. 「生活設計」『学校保健実践事例集』　ぎょうせい，1981
29. 「(14)腎臓病とその予防」「(18)がんとその予防」「4.採光と照明」森　昭三編　『現代保健学習・指導事典』大修館，1984. 5
30. 「第2章　健康と環境」「第3章　職業と健康」深野　明他　『保健情報資料集』大修館書店，1989.4

31. 「第２章４　イタイイタイ病」保健教材研究会編　『続「授業書」方式による保健の授業』大修館書店，1991. 3

小　沢　治　夫（保健体育）

＜論文＞

1. 「Abnormal standing ability in patients with organophosphate pesticide intoxication」 Agressology, 24 : 229～230，1983. 2
2. 「The effect of vibrations on intensity of nystagmus and body movement」 Agressology, 24 : 229～230，1983. 3
3. 「Study on abnormal head position in patients with congenital nystagmus」 Agressology, 24 : 231～232，1983. 3
4. 「持久力テストとしての多段階 side step 運動の検討」 筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第22集，199～207，1983
5. 「持久力テストとしての多段階 side step 運動の検討－第２報－」 筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第23集，59～63，1984
6. 「形態と体力運動能力との相関について(2)」 筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第23集，161～175，1984
7. 「先天眼振における身体動揺について」 眼科臨床医報，78，1984
8. 「発育発達期における自転車エルゴメータによる最大無酸素パワーの研究」筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第25集，209～221，1985
9. 「中高六ヶ年一貫カリキュラムの検討（第２報）」 筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第25集，121～134，1985
10. 「Disturbed balance in chronic organophosphate intoxication」 Vestibular and Visual Control on Posture and Locomotor Equilibrium : 295～301，1985. 3
11. 「Balance Study on methyl mercury poisoning」 Vestibular and Visual Control on Posture and Locomotor Equilibrium : 302～308，1985. 3
12. 「高校生の課外スポーツ活動と体力および大動脈脈波速度の関係」 いばらき体育・スポーツ科学，1 : 2～6，1986. 3
13. 「中高六ヶ年一貫カリキュラムの検討（第３報）」 筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第26集，51～58，1986
14. 「Treatment of nystagmus by acupuncture」 Proceedings of the Sixth Meeting of the International NeuroOphthalmology Society. : 227～232，1987.3
15. 「発育発達期における自転車エルゴメータによる最大無酸素パワーの研究（第2報）」 筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第27集，95～112，1987. 3
16. 「斜視・弱視・眼振のための視能訓練」 理学療法，6，327～334，1989. 9

17. 「本校における体力トレーニングの取り組みとその成果について」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第29集，39～84，1989
18. 「発育発達期における最大無酸素的パワーの研究（第3報）ーウィンゲートテストと体構成との関連ー」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第30集，97～111，1990
19. 「発育期の筋力発揮特性」日本体育協会スポーツ医・科学研究報告，Ⅵ，1：38～141，1990
20. 「超音波断層法による皮下脂肪厚と組織断面積との関係」　体育科学，19：1～6，1991
21. 「教育実習からみた保健科教育の実態調査」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第31集，149～160，1991
22. 「脚伸展パワー測定装置を用いた発育期における筋出力に関する研究」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第31集，161～172，1991
23. 「都内高等学校における保健科教育の実態調査」　学校保健研究，33：581～587，1991
24. 「発育発達期における有酸素性，無酸素性能力」　日本大学医学部研究紀要，19：33～42，1991.12
25. 「発育期におけるレジスタンス・トレーニング」　トレーニング科学，4：55～64，1992

＜著書＞

1. 『エアロビクス基礎理論』　スピリットライブラリー，東京，1983. 4
2. 『フィットネス用語辞典』(社)日本エアロビックフィットネス協会，1988.8
3. Aerobic Dance-Exercise Instructor, Director Workbook，1988.8

＜総説・講座＞

1. 低周波治療気を使った「神経系」学習の効果的導入　保健体育教室，207：18～19，1988.9
2. フィットネスと体育授業　体育科教育，38，50～51，1990
3. スポーツ科学に期待するもの　体育科教育，39，40～41，1991
4. スポーツ部活を科学する　体育科教育，40，48～49，1992
5. 人体のしくみとはたらき　体育科教育，35，50～51，1987

貝沼喜兵（理科・生物）

＜学術論文＞

(1)	やさしい分子遺伝学の実験（1）	裳華房・遺伝・23巻1号 pp.53～59	1969年1月
	やさしい分子遺伝学の実験（2）	裳華房・遺伝・23巻2号 pp.54～59	1969年2月
(2)	高校における分子遺伝学の実験学習における諸問題（1）	生物教育・日本生物教育学会・第14巻第3号 pp.5～11	1973年6月
	高校における分子遺伝学の実験学習における諸問題（2）	生物教育・日本生物教育学会・第14巻第4号 pp.6～11,	1973年7月

(3)	池の生産力測定	東京教育大学附属駒場・研究報告第15～16集 pp.115～125,	1977年3月
(4)	ファジーを用いた分子遺伝学の実験(1)	裳華房・遺伝・25巻1号 pp.65～69	1973年1月
	ファジーを用いた分子遺伝学の実験(2)	裳華房・遺伝・25巻2号 pp.79～82	1973年2月
	ファジーを用いた分子遺伝学の実験(3)	裳華房・遺伝・25巻3号 pp.64～72	1973年3月
	ファジーを用いた分子遺伝学の実験(4)	裳華房・遺伝・25巻4号 pp.69～74	1973年4月
(5)	高校生物Ⅱにおける形質転換実験の進め方	東京教育大学附属駒場・研究報告第19集pp.199～205, 石川秀樹・貝沼喜兵，共著筆頭	1980年3月
(6)	理科Ⅰの「遺伝」と選択生物の「遺伝子と形質発現」の指導内容とその関連について	筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告第22集 pp.283～293,	1983年3月
(7)	ファージを用いた遺伝の実験	筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告第22集 pp.269～279,	1983年3月
(8)	遺伝子概念の歴史的発展の実証的指導	筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告第21集 pp.259～270, 貝沼喜兵・石川秀樹共著筆頭,	1982年3月
(9)	遺伝の指導に関する実践的研究	筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告第23集 pp.133～145,	1984年3月
(10)	遺伝子組換え　組換えDNA技術－実験の教材化	筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告第25集pp.223～283,	1986年3月
(11)	組換えDNA技術の教材化（第2報）	筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告第27集 pp.261～277,	1988年3月
(12)	遺伝子と形質発現の指導に関する実践的研究	筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告第28集 pp.69～94,	1989年3月
(13)	組換えDNA技術の教材化	教材生物研究，No113，PP.10～15 貝沼喜兵・山根國男共著　筆頭,	1990年5月
(14)	形質転換実験 ―指導方法とその評価について	生物教育・31巻2号，PP.115～134	1991年5月
(15)	組換えDNA技術の実践	裳華房・遺伝・45巻4号pp.28～34	1991年4月
(16)	組換えDNA技術の指導実践とその評価	科研費総合(A)中間報告書「科学－技術－社会の相互関連を重視した中等教育および教師教育用モジュールの開発」PP.95～114,	1991年5月
(17)	生産者の物質生産を定量する－課題研究の一例として	日本理科教育学会研究紀要第32巻第2号PP.81～89	1991年1月
(18)	酵母の教材化とその実践	裳華房・遺伝・46巻7号pp.66～73	1991年4月
(19)	組換えDNA技術の実習を行って	化学と生物：第30巻第7号	1992年7月

PP.468～471,

(20) 組換えDNA技術教材化　BIO-JAPAN-92, シンポジウム資料集　1992年8月 PP.456～463,

＜教科書の編集・執筆＞

(1) 学校図書株式会社：中学校理科（1985年より）

(2) 学校図書株式会社：高等学校理科Ⅰ，生物（1980年より）

(3) 学校図書株式会社：高等学校生物ⅠB（文部省に検定出願中），生物Ⅱ（編集中）

城　戸　一　夫（社会・世界史）

1. 『歴史教育への道』（共編）　法律文化社，1980
2. 『Save Our Common Heritage －危機のなかの巨像たち』（共編）　日本ユネスコ協会連盟，1981
3. 『反核軍縮宣言集－1982年の証言』（共編）　新時代社，1983
4. 『内なる国際化』（共著）　三嶺書房，1985
5. 『アジアと私たち』（共著）　三一書房，1988
6. 『社会科教育の理論と実践』（共編）　東洋館出版社，1988
7. 『市民・NGO運動と平和』（共編）　早稲田大学出版部，1989
8. 『トルコ－星と三日月の国』（共著）　NTTメディア，1991
9. 『ボランティア学習の展開』（共編）　一橋出版，1992

久保野　雅　史（英語）

1. 「ド・モルガンの法則と接続詞 and, or の用法」
   「否定の論理－英語の not と no」
   「比例構文と y=ax の関係－英語と数学」
   吉田稔他編，『話題源数学』東京法令出版，1988
2. 「スポーツとしての英語発音」　島岡丘教授還暦記念論文集編集委員会編，『英語音声学と英語教育』，開隆堂出版，1992,
3. 「中高連携をとらえた自主教材の開発－筑駒 Picture Dictionary の作成 (1)－」　（共同執筆）『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第27集，1988,
4. 「中高連携をとらえた自主教材の開発－筑駒 Picture Dictionary の作成 (2)－」　（共同執筆：筆頭）　『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第29集，1989,
5. 「ティーム・ティーチング－新しい局面を迎えた英語教育－Ⅵ．ティーム・ティーチングの実際」　『筑波大学学校教育部紀要』第10巻，1988,

6. 「学習者に応じた授業形態－英語指導とその問題点－X『英語合宿』～外語高校の English Camp」 『筑波大学学校教育部紀要』第11巻，1988,
7. 「英文理解における誤りやすさの研究 (19) up と down のイメージ」 『現代英語教育』第25巻，第10号，研究社出版，1989
8. 「英語の基礎・基本とは何か－それをいかにして定着させるか－Ⅲ．語彙指導の基礎・基本」 『筑波大学学校教育部紀要』第12巻，1989,
9. 「生徒と作る Picture Dictionary」 『現代英語教育』第27巻，第２号，研究社出版，1990
10. 「中高一貫教育における LL 学習指導のあり方を探る (1)」 『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第30集，1990,
11. 「中高一貫教育における LL 学習指導のあり方を探る (2) 7. 中学・高等学校における視聴覚（AV）教材のデータベース化の試み」 『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第31集，1991,
12. 「教育実習生指導の改善を目指して」 『英語教育研究』第７巻，語学教育研究所，1991
13. 「オーラル・コミュニケーションの指導法・(2) オーラル・コミュニケーションに備えて－これからの中学校で何ができるか－」 『現代英語教育』第28巻，第２号，研究社出版，1991
14. 「オーラル・コミュニケーションの指導法・ (9) 知っている表現を活性化するストラテジー」 『現代英語教育』第28巻，第９号，研究社出版，1991
15. 「コミュニケーション能力の育成をめざして・Ⅴ．身近な語彙の指導からオーラル・コミュニケーションへ」 『筑波大学学校教育部紀要』第13巻，1991,
16. 「コミュニケーションの受信と発進 (11)」（分担執筆） 『現代英語教育』第28巻，第11号，研究社出版，1992
17. 「Communicative Competence を培う授業－教材とその指導－Ⅲ．話す能力を育成するための文法指導・語彙指導」 『筑波大学学校教育部紀要』第14巻，1992,
18. 「生徒と作る Picture Dictionary 1－12（予定）」 『英語教育』第41巻，第1－6，8－13号（予定），大修館書店，1992－1993
19. 「『一石三鳥』を目指した活動」 『英語教育』第44巻，第３号，開隆堂出版，1992

小　林　　汎（社会・地理）

＜論文など＞

1. 「高校生の発表学習」 地理教育研究年報，No.6，1977.
2. 「地理教育の課題」 地理教育，No.9，1980.
3. 「中学生・高校生の社会認識について－社会認識調査報告（その３）－」，共著（責任執

筆）　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第21集，1982

4. 「中学生・高校生の社会認識について－社会認識調査報告（その４）－」，共著，筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第22集，1983

5. 「“情報化社会”のなかで中学校世界地理学習の精選の“鍵”」，　実教出版「じっきょう社会科資料」№8，1984. 3.

6. 「平和認識調査」共著，筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第24集，1985

7. 「中学校社会科教材研究－教材の吟味と授業創造のために－」，財団法人教育調査研究所研究紀要，№38，1989.5

8. 「ラテンアメリカの学習を魅力的に展開するために」，　教育出版「教科通信」Vol.27，№1，1990. 1

9. 「激動する東ヨーロッパを授業で扱う視点」，　実教出版「じっきょう社会科資料」№26，1990.5.

10. 「『東京の地域研究（1990年５月）』と中２の子どもたち－校外学習への取り組みと一体化させた「身近な地域」の実践－」，　教育出版「教科通信」Vol.28，№21，1991. 10

11. 「附属学校における社会科教育カリキュラムの変遷について」，共著（責任執筆）　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第31集，1991

12. 「本校における研究活動のあゆみ（1957～1992）」，共著（責任執筆）　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第32集，1992

13. 「動くアジアガイドブック APIC 開発教育キット PART２」，　共著　国際協力推進協会，1991. 3

14. 「アジアのうねり APIC 開発教育キット PART3」，共著　国際協力推進協会，1992. 3

＜著書など＞

1. 『新版　授業のための世界地理』，（編集及び共同執筆）　地理教育研究会編・古今書院，1979. 8

2. 『新版　授業のための日本地理』，（共著）　地理教育研究会編・古今書院，1981. 2

3. (1)『ジュニア版　日本の地域とくらし（全10巻）』，三省堂，1982-1985.
   (2)『日本の地理（全10巻）』　あゆみ出版，1990. 3，[（(2) は (1) を部分改訂し再出版）
   （編集及び共同執筆）

4. 文部省検定教科書『高校地理』実教出版（1982年４月より使用本）
   『新　高校地理』実教出版（1987年～）
   『新　高校地理　改訂版』実教出版（1990年～）
   『高校地理』実教出版（1994年４月より使用予定）

5. 文部省検定教科書『改訂　中学社会　地理的分野』教育出版（1987年４月より使用本）
   『改訂　〃』教育出版（1990年～）

『新版　中学社会　地理的分野』〃（1993年４月より使用予定本）

6. 『世界の平和をめざして』（平和教育実践選書第１巻），桐書房，1990. 4，共 著，（第３章 3「第三世界の民衆－ラテンアメリカの場合」を執筆）

7. 『社会科と私たち』（シリーズ「高校で何を学ぶか」第５巻），大月書店，1990. 9，共著（第1章　地球時代に生きる，その他を執筆）

駒　野　　誠（数学）

1.『Slow Learner の指導と「プレ数学Ⅰ」』	日本数学教育学会誌，臨時増刊，第60巻，	1978，	p.341
2.『点差ベクトルの指導』	日本数学教育学会誌，臨時増刊，第65巻，	1983，	p.322
3.『数学教育のあり方について認知の立場から考察』	日本数学教育学会誌，臨時増刊，第68巻，	1986，	p.267
4. 特集「教科書と授業改善」，『どんなエネルギーを，いかに与えるか』	月刊，高校教育，	1980，9月号	pp.22-28
5. 特集「新教育課程はどう実施されているか」，『百科全書から交響曲へ』	月刊，高校教育，	1982，10月号	pp.130-132
6. 『私の数学授業観と Math. News』	新しい学校数学，特別編集版2，	1987，	pp.68-69
7. 『「中心概念」と認知過程』	新しい学校数学，	1988，4月創刊号，	pp.50-51
8. 『ベクトル指導における興味・関心を高める認知的アプローチ』	東京都教育研究員，共同研究発表，	1988	
9. 『数学教育における Slow Learner のための学習システムと教材開発』	Slow Learner 特別委員会（日数教）科研費研究，	1980，	pp.54-57
10. 特集「私は学習意欲をこうしてつけた」，『目は輝き，心に喜びの糧を』	教育科学，数学教育（明治図書）	1980，3月号，	№243，pp.83-90
11. 特集「高校教師から中学校教師へズバリ直言」，『生徒を知り，己を知り，数学を知る』	教育科学，数学教育，	1983，2月号，	№281，pp.103-106
12. 特集「学習の成果を把握する評価のあり方」，『「わかる」から「わからせる」へ』－自己増殖の喜びを－」	教育科学，数学教育，	1984，10月号，	№302，pp.28-36
13. 特集「理解を深める教材の映像化・図式化」，「式をいかにして捉らえるか」	教育科学，数学教育，	1985，11月号，	№317，pp.61-68

14. 特集「入試に必要な学力，そのつけ方と対策」，『生涯学習の視点に立った受験指導』	教育科学，数学教育，	1988，11月号，	№361，
15. 特集「つまずきの予防・治療・生かし方」，『「つまずき」に対する見方考え方』	教育科学，数学教育，	1992，6月号，	№413，pp.13-20
16. 「指導の悩みにこたえる算数・数学読本」，『具体性のある正の数・負の数の指導』	教育開発研究所，共著，	1992，	№95，pp.216-219

合　田　浩　二（保健体育）

1. 「発育発達期における自転車エルゴメータによる最大無酸素パワーの研究」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第25集，209～221，1985. 3
2. 「中高六ヶ年一貫カリキュラムの検討（第2報）」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第25集，121～134，1985. 3
3. 「中高六ヶ年一貫カリキュラムの検討（第3報）」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第26集，51～88，1986. 3
4. 「発育発達期における自転車エルゴメータによる最大無酸素パワーの研究（第 2 報）」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第27集，95～112，1987. 3
5. 「本校における体力トレーニングの取り組みとその成果について」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第29集，39～84，1989. 3
6. 「発育発達期における最大無酸素的パワーの研究（第 3 報）－ウィンゲートテストと体構成との関連－」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第30集，97～111，1990. 11
7. 「発育期の筋力発揮特性」　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告，Ⅵ：1，38～141，1990
8. 「超音波断層法による皮下脂肪厚と組織断面積との関係」　体育科学，19，1 ～ 6，1991
9. 「教育実習からみた保健科教育の実態調査」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第31集，149～160，1991. 11
10. 「脚伸展パワー測定装置を用いた発育期における筋出力に関する研究」　筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告，第31集，161～172，1991. 11
11. 「発育発達期における有酸素性，無酸素性能力」　日本大学医学部研究紀要，19，33～42，1991. 12
12. 「スポーツ科学に期待するもの」　体育科教育，39，40～41，1991
13. 「発育期におけるレジスタンス・トレーニング」　トレーニング科学，4，55～64，1992

曽　根　睦　子（養護）

〈筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告〉

1. 「“新しい健康診断”とこれからの課題－本校における健康診断－」
「研究報告」　第14集　1974年
2. 「保健教育保健管理のかけ橋」　「研究報告」　第17集　1977年
3. 「中学生の保健・安全に関する意識調査－本校における生徒手帳の保健・安全欄の活用について－」　「研究報告」　第20集　1980年

〈出版関係〉　1982年以降

1. 〔「学校における救急処置」の手引き〕　編集・共著
全国国立大学附属学校養護教諭部会編　東山書房　1985年
2. 「みつめるまなざし―保健室の相談活動」　編集・共著
同　上　ぎょうせい　1989年
3. 「新しい学校保健―児童生徒の心とからだの健康科学」　編集・共著　朝倉書店　1989年
4. 「養護教諭制度50周年記念誌」　編集・共著
養護教諭制度50周年記念誌編集委員会編　ぎょうせい　1991年
5. 〔養護教諭のための健康相談事例集〕　共著
第４節　思春期，青年期にみられる問題他　東京法令出版　1982年
6. ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ実践体系　7〔受験・恋愛・性〕　共著
「受験ストレスから薬物依存へ」　㈱ほるぷ　1988年
7. 心理臨床プラクティス第2巻〔教育心理臨床〕　共著
「ヘルスカウンセリングの実際」　星和書店　1991年
8. 実践・問題行動教育大系　21〔保健室における養護教諭の対応〕　共著
「非社会的問題事例へのアプローチ」　開隆堂　1991年

〈教育方法等改善経費による研究報告関係〉

1. 「学校における救急処置」研究報告書　No1. 2. 3　編集・共著
同　手引き
全国国立大学附属学校養護教諭部会編　1979・1980・1981・1983年
2. 「学校保健領域における相談活動」研究報告書　No1. 2. 3　編集・共著
同　上　1984・1985・1986年
3. 「学校における集団を対象とした保健指導」研究報告書　No1. 2. 3　編集・共著
同　上　1990・1911・992年

〈鶴見大学女子短期大学部保健学会誌　論文関係〉

1. 論説「保健室経営と情報管理」　同上学会誌　第１号　1978年

2. 論説「集団を¥対象とした保健指導の展開」　同　誌　2号　1979年
3. 論説「保健教育と保健管理のかけ橋―保健学習と保健行事・保健室経営」
同　誌　3号　1980年
4. 論説「高校生の登校拒否」　同　誌　4号　1981年
5. 論文「学校現場における胸痛（自発痛）の判断と処置」　同　誌　5号　1982年
6. 論文「養護教諭の行う相談活動―男子生徒への対応の実践」　同　誌　6号　1983年
7. 論説「カッターナイフによる傷害事例にみる中学生の危険予知能力の未発達性」
同　誌　7号　1984年
8. 論文「過呼吸（過換気）症候群の生徒の支援」　同　誌　8号　1985年
9. 論文「教育相談のあり方を探って―養護教諭の立場から―」　同　誌　9号　1986年
10. 論文「養護教諭の行う相談活動―複合要因による心身不調生徒への支援」
同　誌　10号　1987年
11. 論文「高校における肺結核症発生に対する処置と指導」　同　誌　11号　1988年

〈月刊誌「保健の科学」掲載関係の一部〉　―杏林書院―

1. 〔保健の実践「入浴中にCO中毒で死亡した事例」〕保健科学研究会編
VOL.23　4月号　1981年
2. 〔同「青年期の自然気胸」〕　VOL.23　12月号　1981年
3. 〔同「自然気胸でなく，心因性の胸痛ではないかと判断した例」〕
VOL.23　8月号　1981年
4. 〔同　「中1男子，誤って親友の下腿を切る」〕　VOL.25　7月号　1983年
5. 〔同　「校時中に起きた指のカッターナイフによる切傷」〕共著
VOL.25　8月号　1983年
6. 〔同　「学校体育のランニング実施に伴う事故の処置について」〕
VOL.25　12月号　1983年
7. 「高校生にみられる健康問題」共著　VOL.27　2月号　1985年

谷　口　幸　夫（英語）

1. 「Music Transcription：聞き取りを中心とした言語活動の一例」
『英語教育研究』Vol. 1，語学教育研究所，1985.
2. 「英語指導技術再検討：パタンプラクティス」
『英語教育』9月号，第34巻，大修館，1985.
3. 「変わりつつある語学教育研究所」
『英語教育研究』Vol. 2，語学教育研究所，1986.

4. 「英語教育とワープロ：序論」
『英語教育研究』Vol. 3，語学教育研究所，1987.

5. 「時制の考え方と指導法」
『現代英語教育』1月号，第24巻，研究社出版，1987.

6. 「英語教育と教育機器：ウォークマンとビデオキャプション」
『英語教育研究』Vol. 4，語学教育研究所，1988.

7. 「高校英語における EXPOSURE の量についての一提言：Reading の場合」
『都立小平西高校：研究紀要』1988.

8. 「視聴覚機器を使った英語教育：アフレコを中心とした言語活動の一例」
『都立小平西高校：研究紀要』1989.

9. 「こんなモノいらない!?悪問」
『英語教育研究』Vol. 5，語学教育研究所，1989.

10. 「AV 機器の新しい使い方を模索して」
『現代英語教育』4月号，第26巻，研究社出版，1989.

11. 「大学英語入試問題 Q&A ⑨　入試問題の題材の選択は適切か」
『現代英語教育』12月号，第26巻，研究社出版，1989.

12. 「授業改善のためのテスト作成の視点」
『教育研究員研究報告書』東京都教育委員会，1990.

13. 「中高一貫教育における LL 学習指導のあり方をさぐる (1)」
（共同執筆）『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第30集　1990

14. 「AET との Interaction のすすめ：生徒による，生徒のための想定質問表現集」
『都立小平西高校：研究紀要』1990.

15. 「英語教育とテスト」
『都立小平西高校：研究紀要』1990.

16. 「ライティング指導における INPUT について」
『英語教育研究』Vol.6，語学教育研究所，1990.

17. 「大学英語入試問題の改善 ④　和文英訳を斬る」
『現代英語教育』7月号，第27巻，研究社出版，1990.

18. 「私ならこう考える…伝記教材」
『英語教育』9月号，第39巻，大修館，1990.

19. 「視点を変えた視聴覚機器の活用法」『オーラルコミュニケーション展開事例集』（共著）
一橋出版，1990.

20. 「これからのライティング指導にむけての一提言」
『英語授業学の視点』三省堂，1991.

21. 「コミュニケーション能力の育成を目指して　Ⅲ　入門期における LL 学習指導…映像教材を活用して」
『筑波大学学校教育部紀要』第13巻，1991

22. 「中高一貫教育における LL 学習指導のあり方をさぐる (2)」

（共同執筆）『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第31集，1991.

23. 「授業のためのアイディアボックス」
『英語教育研究』Vol. 7，語学教育研究所，1991.

24. 「授業の導入をどう工夫する？」
『現代英語教育』4月号，第28巻，研究社出版，1991.

25. 「オーラルコミュニケーションの指導法③　対話教材の扱い方」
『現代英語教育』6月号，第28巻，研究社出版，1991.

26. 「オーラルコミュニケーションAを考える」『オーラルコミュニケーション展開事例集Ⅱ』
（共著）　一橋出版，1992.

27. 「Communicative Competence を培う授業…教材とその指導 X 翻訳と Communicative Competence」
『筑波大学学校教育部紀要』第14巻，1992.

28. 「中高一貫教育におけるLL学習指導のあり方をさぐる(3)」
（共同執筆）『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第32集，1992.

29. 「オーラルコミュニケーションの指導法⑰　カタカナ語を用いたTeam Teachingの一例」
『現代英語教育』8月号，第29巻，研究社出版，1992.

30. 「生徒のニーズをどう授業に活かすか」
『英語教育』5月号，第41巻，大修館，1992.

寺　田　恵　一（英語）

1. 「モリエールの『ドン・ジュアン』の諷刺の主題について」
東京都立大学大学院人文科学研究所フランス文学科修士論文，1977

2. "Communicative Activities for Teaching the Passive Voice." Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, volume VII, number 1, spring 1990.

3. "Communicative Activities for Teaching /l/ and /r/." Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, volume VII, number 2,fall 1990.

4. 「A Sample Syllabus for Oral Comunication A」
筑波大学附属駒場中高「研究報告」第32集　1992

中　村　　豊（英語）

1. 「Uses of the Anaphoric Back-pointing "One"」
東京教育大学附属駒場中・高等学校研究報告，第2集，1961

2. 『現代英文法教本』
（大塚英語教育研究会訳）［共同執筆］リーベル出版，1986

3. 『英文用例事典　第３巻』（共同執筆）（編集主幹：池田重三）日本図書ライブ

4. 本校「研究報告」第14，18，19，20，22，24，25，26，28，29，30，31集の英語科共同研究（省略）

5. 『５万語クラスの英和辞典』（1995年出版予定）編集スタッフとして執筆中

深　野　　明（保健体育）

＜論文など＞

1. 日本学校保健学会誌

特集　健康観とその流れ	学校保健研究第19巻第５号 p202～207	昭和52年
特集　事後措置と教育的配慮	学校保健研究第20巻第５号 p215～219	昭和53年
特集　現場の教育実習からみた保健科教員養成の問題点	学校保健研究第20巻第９号 p424～428	昭和53年
特集　保健授業を育てるには問題点と対策（高校）	学校保健研究第20巻第10号 p473～479	昭和53年
特集　高等学校学習指導要領改訂の内容と展開例	学校保健研究第21巻第12号 p578～581	昭和54年
特集　保健の授業のすすめ方	学校保健研究第23巻第12号 p566～568	昭和56年

2. 筑波大学附属駒場中・高等学校「研究報告」

・学友関係の実態調査－６カ年の継続調査－	「東京教育大学附属駒場中・高等学校　研究報告」第3集（1963）
・「保健」の効果的学習における問題点	「同校」第9集（1969）
・保健学習の構造	「同校」第10集（1970）
・P.W.C170の変化からみた中学生の３週間の持久持走プログラムの効果について	「筑波大学附属駒場中・高等学校　研究報告」第14集（1975）
・生徒の同好会活動をどうとらえるか	「同校」第16集（1977）
・剣道の打突に対する容積脈波反応についての研究	「同校」第16集（1977）
・中・高校生の直立能力について(1)	「同校」第16集（1977）
・走幅跳びの計量的考察	「同校」第18集（1979）
・教育課程の編成に関する調査	「同校」第18集（1979）
・鉄棒運動と授業とその計量的考察	「同校」第21集（1982）
・保健体育科中高六カ年一貫カリキュラムの検討	「同校」第21集（1982）

・将来計画作成のための基礎調査　「同校」第21集（1982）

・持久力テストとしての多段階 Side Step 運動の検討　「同校」第22集（1983）

・持久力テストとしての多段階 Side Step 運動の検討　－第2報－　「同校」第23集（1984）

・形態と体力・運動能力との相関について (2)　「同校」第23集（1984）

・中高6カ年一貫カリキュラムの検討 (2)　－到達目標－　「同校」第26集（1986）

・発育発達における自転車エルゴメーターによる最大無酸素パワーの研究　－第２報－　「同校」第28集（1988）

・本校における体力テストとトレーニングの取組みとその効果について　「同校」第29集（1989）

3.　学校教育部研究紀要

・筑波大学附属学校における教育実習の予備調査及び教育実習充実のための方策（分担調査）　「筑波大学・学校教育部紀要」第1巻 昭和54年

・教育実習生の実態と実習による意識の変化に関する予備的研究　「筑波大学・学校教育部紀要」第2巻 昭和55年

・児童生徒のわかり方と教材開発に関する研究　－各教科におけるわかり方について－（分担研究）　「筑波大学・学校教育部プロジェクト研究」昭和61年

・児童・生徒のわかり方とそれらに基づく CAI 用材開発に関する実践的研究（分担研究）　昭和61年度文部省特定研究「筑波大教学・学校教育部プロジェクト研究」

・基礎的・基本的事項の充実と個性化教育の在り方に関する実証的研究（分担研究）　平成元年「同上」

＜著書など＞

1.　「現代保健科教育法」　共著　傷害の予防p201～211　昭和49年「大修館書店」

2.　「高等学校指導要録＝評価と記入例・用語例」　体育p64～70,　昭和58年図書文化社,

3.　「保健医療行動の実践」共著　学校における運動実践　p137～148　昭和62年「出版科学総合研究所」

4.　「保健室経営」共著　高等学校のホームルーム　2-p81,　昭和55年「ぎょうせい」　保健に関する教育実習の実際　10-p295

5.　文部省検定教科書・中学校「保健体育」　「大日本図書」　昭和55年～

6.　文部省検定教科書・高等学校「保健体育」　「大修館書店」，昭和50年～

7.　保健体育関連雑誌

・特集　保健教育の今日的課題＝保健授業の効果的なすすめ方－高校指導事例－

「体育科教育」p44～46　昭和47年8月号「大修館書店」

・続・保健学習の系統と指導－保健学習の評価の視点－
昭和48年9月号「大修館書店」

・特集　健康に関する記録のとり方－病気・外傷の欠席届に関する問題点－
昭和61年6月号保健科学研究会編集，「杏林書店」

・特集　現代の子供の体力・健康問題
－子供の体力・健康問題と保健授業の取り組み方－　昭和61年10月号「学校体育社」

丸　浜　　昭（社会・歴史）

1. 「文化祭で生徒と調べた関東大震災時の烏山における朝鮮人殺害事件」
『東京の歴史教育』　第14号　（東京都歴史教育者協議会）　1984年
2. 「「歴史をささえる人々」を高校生はどうとらえたか」
『東京の歴史教育』　第16号　（東京都歴史教育者協議会）1986年
3. 「小課題を通して“ひっかかり”を作る授業 －古代史を検討素材にして」
『日本史教材部会報告集』　第1集　（東京歴教協日本史教材部会）　1986年
4. 「高校日本史における戦後史学習を進めるために」
『歴史地理教育』　421号　（歴史教育者協議会）　1987年
5. 「大正デモクラシーは天皇性とどうかかわったか」
『日本歴史と天皇』　（歴史教育者協議会編・大月書店）　1989年
6. 「自衛隊は何を守るのか」
『歴史教育ハンドブック・現代史50問50答』（『歴史地理教育』470号）　1991年
7. 「日中戦争と日米開戦－二つの関わりと整理してみて」（岩根謙一氏と共同執筆）
『歴史地理教育』　480号　（歴史教育者協議会）　1991年
8. 「元軍医学校跡地から発見された人骨問題」
『歴史教育月報』　No.264　（歴史教育者協議会）　1992年
9. 「特攻・地下壕・本土決戦－国体護持の背後で」
『歴史地理教育』　496号　（歴史教育者協議会）　1992年

宮　崎　　章（社会・歴史）

1. 「アメリカの対朝鮮政策　1941-1945」　『史苑』　立教大学史学会，　1982年1月
2. 「研究動向－吉田茂論の現況」
『日本ファシズム(2)　国民統合と大衆動員』　大月書店，　1982年7月

3. 「インドと対日講和」（翻訳）　『思想』　岩波書店，　1983年1月
4. 「占領初期における米軍の在日朝鮮人政策」　『思想』　岩波書店，　1985年8月
5. 『東京裁判資料　木戸幸一訊問調書』（共編）　大月書店，　1987年2月
6. 「現代」（執筆）　竹内誠他編『教養の日本史』　東京大学出版会，　1987年2月
7. 「日朝関係と朝鮮戦争・再軍備」（共同執筆）
『十五年戦争史　4　占領と講和』　青木書店，　1989年3月
8. 「吉田茂は戦後日本の繁栄の功労者か」
『日本近代史の虚像と実像　4』　大月書店，　1989年12月
9. 「第2章　敗戦」　『日本同時代史　1　敗戦と占領』　青木書店，　1990年9月
10. 「現代史のなかの司法」　『歴史学研究』616号，　1991年2月
11. 「今，なぜ731部隊か」　『東京の歴史教育』　東京歴史教育者協議会，　1992年6月